

2024年6月10日（理事会）
2024年6月28日（評議員会）

令和5(2023)年度

事業報告書

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会

目次

I	2023年 事業報告	1
II	事業 経営	7
	1. 保育支援系施設の経営	7
	2. 高齢者支援系施設の経営	28
	3. 障害者支援系施設の経営	66
	4. 児童・女性支援系施設の経営	84
	5. 医療事業施設の経営	96
	6. 収益事業の経営	100
	7. 社会貢献事業	101
	8. 人材育成事業	102
III	職員福利厚生制度	103
IV	理事会及び評議員会	104
V	事務局主要業務	110
VI	施設長会及び各種委員会	114
VII	業務の適正を確保するための体制及びその運用状況の概要	134
VIII	事業報告の付属明細書	135

I 2023年度 事業報告

我が国の経済は、コロナ禍の3年間を乗り越え、30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、先行きに前向きな動きが見られています。政府は、賃金上昇が物価上昇に追い付くよう、昨年11月2日に構造的賃上げを図る「デフレ完全脱却のための総合経済対策」を閣議決定しました。しかしその一方、新年を迎えた1月1日、能登半島地震が発生し、甚大な被害に見舞われました。今もなお多くの地区で避難指示が出されており、特別養護老人ホームや福祉避難所では、復旧の見通しが立たずに息の長い支援が求められています。本会としても、被災地支援のための職員派遣登録や募金活動を行いました。2023年度も社会情勢の変化に対応しつつ、本会を取り巻く環境変化を見極めながら中長期計画に添って「持続的成長」を目指した経営を行ってまいりました。

まず事業関連ですが、保育支援系施設の稼働状況は、同援いぐさ保育園(開園2年目)の3から5歳児の未充足の影響とともに、都心部を中心とした待機児童の減少が要因となり、保育園10園全体の稼働率は99%となりました。高齢者支援系施設では、いつまでも選ばれ続けるというビジョンを実現するための「ミライ委員会」をグループ内に組織しました。障害者支援系施設では、豊島区東部西部障害支援センターの受託期間満了により受託を終了する一方で、新たな障害支援施設(仮称久我山生活園)開設に向けた建設工事を開始しました。児童女性支援系施設双葉園では、家庭的な養育環境の形態に近づけるためのグループホーム開設に取り組んでまいりました。計画通り8月の開設を予定しています。

次に財務状況につきましては、万世敬老園の事業閉鎖計画や新型コロナウイルス感染症の影響による介護保険施設の稼働の低迷などのマイナス要因もありましたが、物価高騰に対する補助金などのプラス要因や予算管理の徹底した取組みにより多くの事業所の収支は良好に推移しました。その他、集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業や印刷事業などの収益事業は安定的に収益を確保し、本会における財務基盤の下支えとなりました。令和5年度の当期活動増減差額は3億6778万円を計上することができました。一方で昭島病院は、コロナ関連の補助金の減少とともに、外来患者の減少(昨年比6.7%減)が収支に大きく影響し、7430万円の赤字を計上しました。外来患者数は「物価やコロナ感染の動向」に左右されており、コロナ禍前に比べて、軽微な症状での受診が減少している影響が反映されたかたちとなりました。

次に施設運営につきましては、昭島病院のMRI入替をはじめ、その他事業所における特殊浴槽の入替、空調機器やエレベーターの整備など利用環境の維持・向上に努めました。新型コロナウイルス感染症につきましては、新たな感染の広がりによる対応に追われながらも、行事や面会の再開など日常を取り戻すことが出来るようになりました。また、施設を支える法人基幹システムの更新を運営に支障を来すことなくおこなうことが出来ました。電子帳簿保存法への対応や電子承認の仕組み作りなど、ペーパーレス化へ向けた取組みにも繋がっています。更に新しいウイルスにも対応出来るようセキュリティ機能を強化し、安全なネットワーク環境が整えられ、作業効率も高められました。

地域への取組みについては、昨年に引続き、活動そのものが限定的とはなりましたが、感染防止に努めながら、生活困窮家庭の子どもの学習支援や地域見守り配食などの社会貢献活動をおこなってまいりました。人材確保については、法人全体では新規採用職員53名、正規転換11名(計64名)を確保しました。また物価が高騰している状況を踏まえ、現職員に対する処遇改善として、全職員に対し10月から「特別調整手当」を毎月支給するとともに、年度末には特別手当として一時金を支給いたしました。

人材育成については、各支援系グループで分野別専門研修を実施したほか、施設長等人事考課の考課者を対象とした施設マネジメントに関する研修を隔月で実施し、職場環境の改善や職員との面談技法の習得・実践したほか、管理職員等に対してDX推進の目的・意義の理解を促しました。

2023年度は、中長期計画の第3期計画の策定、並びに第2期までの報告書の作成を行いました。本会の取組むべき課題の更なる充実と未達成の計画への積極的な着手を計画の中に取り入れており、これからも中長期計画に沿って本会の社会的使命や役割を明確にするための活動をおこなってまいります。施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

社会福祉法人 恩賜財団東京都同僚援護会
理事長 飯山 幸雄

令和5(2023)年度 施設利用状況報告

2024年3月31日現在

グループ名	種別	施設名	利用状況							備考		
			定員	(3月利用者実績数)	1日利用者平均	年間(延)利用者数	年間実施延日数	(年間利用率)	(年間利用率)		前年対比年間利用率	
保育支援施設	保育所	むさしの保育園	169	156	156.9	45,969	293	92.8%	97.7%	-4.9%		
		本園	140	133	134.5	39,411	293	96.1%	98.5%	-2.4%		
		方南分園	29	23	22.4	6,558	293	77.2%	94.0%	-16.8%		
		昭和郷保育園	100	116	114.7	33,593	293	114.7%	116.3%	-1.6%		
		大山保育園	130	131	130.7	38,307	293	100.6%	98.4%	2.2%		
		昭和郷第二保育園	190	188	188.0	55,093	293	99.0%	103.2%	-4.2%		
		みなと保育園	63	46	46.6	13,657	293	74.0%	83.3%	-9.3%		
		同援みどり保育園	125	129	127.9	37,478	293	102.3%	100.8%	1.5%		
		つつじが丘保育園	110	121	119.6	35,054	293	108.8%	109.6%	-0.8%		
		同援さくら保育園	108	108	107.3	31,445	293	99.4%	99.5%	-0.1%		
		同援はいじま保育園	50	57	56.5	16,553	293	113.0%	117.5%	-4.5%		
		同援いぐさ保育園	60	41	41.8	12,233	293	69.6%	45.0%	24.6%		
保育施設計			1,105	1,093	1,090.0	319,382	—	98.6%	99.4%	-0.8%		
高齢者支援施設	救護施設	昭島荘	100	101	100.1	36,645	366	100.1%	100.5%	-0.4%		
	養護老人ホーム	万世敬老園	120	73	97.1	35,540	366	80.9%	69.6%	11.3%	4/1定員変更	
	軽費老人ホーム	サンホーム	50	50	49.1	17,964	366	98.2%	99.3%	-1.1%		
	小計			270	224	246.3	90,149	—	91.2%	83.5%	7.7%	
	特別養護老人ホーム(短期入所生活介護事業含)	フジホーム		104	96.2	99.9	36,576	366	96.1%	95.6%	0.5%	
		ニューフジホーム		104	95.3	98.8	36,163	366	95.0%	92.7%	2.3%	
		原町ホーム		52	47.3	48.5	17,754	366	93.3%	98.9%	-5.6%	
		ゆたか苑		54	46.7	50.4	18,436	366	93.3%	95.3%	-2.0%	
		ひかり苑		54	52.8	51.7	18,932	366	95.8%	98.8%	-3.0%	
	小計(介護施設)			368	338.3	349.3	127,861	—	94.9%	95.7%	-0.8%	
	認知症対応型老人共同生活援助事業(グループホーム)	グループホームかえで		18	16.0	16.0	5,847	366	88.8%	95.5%	-6.7%	
		原町グループホーム		18	17.4	17.7	6,485	366	98.4%	87.8%	10.6%	
	通所介護(予防)事業	フジ・デイサービスセンター		25	13.2	13.4	4,128	308	53.6%	51.1%	2.5%	
		東大和市ふれあいデイセンターひかり苑		12	5.7	5.5	1,698	308	45.9%	49.5%	-3.6%	
	地域包括支援センター	新宿区榎町高齢者総合相談センター		—	776件	30.2件	9,311件	308	—	—	—	
		昭島市中部地域包括支援センターあいぼつく		—	503件	21.8件	6,380件	293	—	—	—	
	居宅介護支援事業所	フジホーム		—	—	—	2,059	243	—	—	—	
		原町ホーム		—	—	—	850	294	—	—	—	
		ゆたか苑		—	—	—	393	242	—	—	—	
	小規模多機能型居宅介護事業	原町小規模多機能居宅介護センター		25	23	22.4	8,208	366	89.7%	83.7%	6.0%	
昭和郷小規模多機能居宅介護センター			25	23	22.0	8,053	366	88.0%	90.7%	-2.7%		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	昭和郷訪問介護センター		—	23	17.4	6,354	366	—	—	—		
小計(介護在宅)			123	121.3	114.4	44,075	—	—	—	—		
公益事業	フジホーム診療所		—	—	—	—	—	—	—	—		
	介護職員初任者研修事業		—	—	—	—	—	—	—	—		
	さくらガーデン(サービス付き高齢者向け住宅)		49	46	47.3	17,297	366	96.4%	96.8%	-0.4%		
高齢者施設計			810	729.6	757.3	279,382	—	91.6%	88.8%	2.8%		

注1 定員については母子支援施設は世帯数で他施設は人数。

注2 地域包括支援センターは、相談件数を記載。件数は、相談内容により重複している。なお、利用者数の合計には算入していない。

グループ名	種別	施設名	利用状況									備考
			定員	(3月利用者実績数)	利用日者平均	年間利用者数(延日数)	年間実施延日数	(年間利用率)	(年間利用率)	前年対比		
障害者支援施設	障害者支援施設(入所)	さやま園(居住)	施設入所支援	96	92.3	93.0	34,046	366	96.9%	98.0%	-1.1%	
	障害福祉サービス(通所)	さやま園	生活介護	(96)	100	93.3	93.8	25,328	270	97.7%	99.0%	-1.3%
			短期入所	4		0.0	0.2	82	366	5.6%	3.2%	2.4%
			小茂根福祉園	生活介護	40	70	29.5	30.5	7,417	243	76.3%	75.2%
		就労継続支援B		30		20.7	22.0	5,346	243	73.3%	75.3%	-2.0%
		立川福祉作業所	生活介護	30	80	27.0	22.5	5,466	243	75.0%	71.6%	3.4%
			就労継続支援B	44		45.8	47.4	11,509	243	107.6%	105.5%	2.1%
			就労移行支援	6		0.9	0.3	75	243	5.1%	33.6%	-28.5%
		東村山生活実習所	生活介護	30	40	28.4	29.6	7,279	246	98.6%	95.7%	2.9%
			就労継続支援B	10		8.5	8.7	2,145	246	87.2%	80.4%	6.8%
				短期入所		2	0.5	0.3	128	366	17.5%	4.9%
	心身障害者福祉ホーム	さくらんぼ		—	263	7.9	2,896	366	—	—	—	
	心身障害者福祉センター	さいわい福祉センター		—	502	17.0	6,238	366	—	—	—	
	共同生活援助事業(知的障害者グループホーム)	アミニティ富士見	6	6	6.0	2,196	366	100.0%	100.0%	0.0%		
		グリーンハイツ	6	5	5.0	1,836	366	83.6%	74.0%	9.6%		
		フレンズ・モエ	4	4	4.0	1,464	366	100.0%	100.0%	0.0%		
		パル	6	6	5.2	1,912	366	87.1%	74.9%	12.2%		
		それいゆ小川	7	7	7.0	2,562	366	100.0%	100.0%	0.0%		
		ファーム竹丘1	6	5	4.1	1,502	366	68.4%	93.2%	-24.8%		
		ファーム竹丘2	7	7	6.4	2,347	366	91.6%	100.0%	-8.4%		
		風のね	10	10	10.0	3,660	366	100.0%	100.0%	0.0%		
		レジオンス巣鴨	4	4	4.0	1,464	366	100.0%	100.0%	0.0%		
		はなみずき	4	4	4.0	1,464	366	100.0%	100.0%	0.0%		
ユーカリ		4	4	4.0	1,464	366	100.0%	100.0%	0.0%			
夢オハナ		6	6	6.0	2,196	366	100.0%	100.0%	0.0%			
結オハナ		6	6	6.0	2,196	366	100.0%	100.0%	0.0%			
特定相談支援事業		さやま園	—	12	—	153	—	—	—	—		
	立川福祉作業所	—	20	—	313	—	—	—	—			
	さくらんぼ	—	2	—	31	—	—	—	—			
公益事業	豊島区東部・西部障害支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—			
障害者施設計			368	1,219.9	444.9	134,715	—	91.1%	91.4%	-0.3%		
児童・女性支援施設	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野	20	14	15.9	5,813	366	79.4%	83.6%	-4.2%		
		緊急一時保護事業	1	0	0.2	67	366	18.3%	19.7%	-1.4%		
		サンライズ万世	20	20	18.8	6,895	366	94.2%	96.4%	-2.2%		
		緊急一時保護事業	1	1	0.2	59	366	16.1%	17.8%	-1.7%		
	児童養護施設	双葉園	50	48	45.4	16,612	366	90.8%	93.9%	-3.1%		
		(地域小規模) 双葉園	(38)	(36)	34.3	12,544	366	90.2%	92.2%	-2.0%		
		(地域小規模) 高嶋の家	(6)	(6)	5.7	2,081	366	94.8%	99.7%	-4.9%		
		(地域小規模) くすのき	(6)	(6)	5.4	1,987	366	90.5%	98.8%	-8.3%		
		昭島市子どもトワイライトステイ事業	2	2	—	26	366	—	—	—		
	婦人保護施設	いこいの家	40	17	17.0	6,204	366	42.4%	37.0%	5.4%		
児童厚生施設	昭島市児童センターばれっと	—	174.9	141.2	46,870	332	—	—	—			
児童・女性施設計			134	276.9	238.7	82,546	—	74.7%	75.1%	-0.4%		
施設合計			2,417	3,319.4	2,530.9	816,025	—	93.4%	92.5%	0.9%		
医療	病院	昭島病院	199	11,828	469.4	145,536	366	—	—	—		
		入院	199	4,964	160.4	58,707	366	80.6%	77.8%	2.8%		
		外来	—	6,864	309.0	86,829	281	—	—	—		
		昭島病院訪問看護ステーション	—	300.0	14.5	3,797	262	—	—	—		
収益	印刷	事業局	—	—	—	—	—	—	—	—		
	不動産賃貸	不動産賃貸事業・病院駐車場事業	—	—	—	—	—	—	—	—		
合計(福祉施設31、病院1、事業局1、その他事業32)			2,616	15,447.4	3,014.8	965,358	—	—	—	—		

令和5(2023)年度 職員配置状況報告(職員実人員数)

グループ名	種別	施設名	2024年3月31日				23年度	2023年3月31日				22年度	備考
			正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間勤換算平均)	正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間勤換算平均)	
保育支援施設	保育所	むさしの保育園	33	2	20	55	46.8	34	1	20	55	44.8	調理委託(本園)
		昭和郷保育園	20	7	15	42	34.6	18	4	14	36	32.9	調理委託
		大山保育園	23	0	16	39	35.4	26	0	17	43	37.3	
		昭和郷第二保育園	26	7	21	54	45.1	32	7	19	58	47.9	調理委託
		みなと保育園	14	1	10	25	21.0	15	2	8	25	22.4	
		同援みどり保育園	22	3	16	41	34.7	26	3	18	47	37.0	
		つつじが丘保育園	22	0	22	44	35.9	22	0	21	43	34.9	調理委託
		同援さくら保育園	26	1	19	46	34.9	24	1	23	48	33.7	調理委託
		同援はいじま保育園	13	0	19	32	20.7	11	1	12	24	19.9	調理委託
		同援いぐさ保育園	9	1	10	20	17.2	11	0	6	17	15.1	
保育施設計			208	22	168	398	326.3	219	19	158	396	325.9	
高齢者支援施設	救護施設	昭島荘	34	7	8	49	44.9	29	8	9	46	44.2	調理委託
	養護老人ホーム	万世敬老園	12	7	10	29	24.9	16	7	16	39	34.8	調理委託
	軽費老人ホーム	サンホーム	12	3	6	21	16.8	12	2	7	21	16.7	
	特別養護老人ホーム(短期入所生活介護事業含)	フジホーム	42	8	21	71	62.2	37	6	19	62	59.1	調理委託
		ニューフジホーム	43	4	19	66	60.9	43	5	18	66	61.1	調理委託
		原町ホーム	18	8	8	34	32.9	20	5	10	35	34.2	調理委託
		ゆたか苑	25	0	10	35	30.1	25	1	9	35	31.3	調理委託
		ひかり苑	18	10	13	41	34.4	17	9	10	36	34.9	
	認知症対応型老人共同生活援助事業(グループホーム)	グループホームかえで	2	4	10	16	13.7	3	4	12	19	14.4	
		原町グループホーム	8	5	5	18	15.6	7	2	8	17	15.6	
	通所介護(予防)事業	フジ・デイサービスセンター	2	0	9	11	8.7	2	0	9	11	9.8	
		東大和市ふれあいデイセンターひかり苑	1	4	2	7	4.6	1	3	3	7	5.6	
	地域包括支援センター	新宿区榎町高齢者総合相談センター	9	0	2	11	10.4	10	1	0	11	9.8	
		昭島市中部地域包括支援センターあいぼっく	3	0	4	7	6.2	3	0	4	7	6.1	
	居宅介護支援事業所	フジホーム	3	1	1	5	4.9	3	1	1	5	4.9	
		原町ホーム	2	0	0	2	2.0	2	0	0	2	2.0	
		ゆたか苑	1	0	0	1	1.0	1	0	0	1	1.9	
		昭和郷	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	23/9/30事業廃止
	小規模多機能型居宅介護事業	原町小規模多機能居宅介護センター	5	1	8	14	12.0	5	0	9	14	12.1	
		昭和郷小規模多機能居宅介護センター	3	5	5	13	12.3	3	5	7	15	11.7	
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	昭和郷訪問介護センター	5	3	2	10	9.3	4	4	2	10	9.3		
公益事業	フジホーム診療所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	介護職員初任者研修事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	さくらガーデン(サービス付き高齢者向け住宅)	1	0	12	13	6.6	1	0	11	12	6.3		
高齢者施設計			249	70	155	474	414.4	244	63	164	471	425.8	

グループ名	種別	施設名	2024年3月31日				23年度	2023年3月31日				22年度	備考	
			正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間平均換算)	正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間平均換算)		
障害者支援施設	障害福祉サービス	さやま園	56	18	45	119	98.2	55	20	43	118	96.9		
		小茂根福祉園	26	3	3	32	31.6	30	2	0	32	31.5		
		立川福祉作業所	12	4	14	30	24.6	12	4	15	31	25.1	調理委託	
		東村山生活実習所	15	6	11	32	26.3	14	7	9	30	25.9	調理委託	
	心身障害者福祉ホーム	さくらんぼ	20	0	17	37	31.1	20	0	17	37	29.6	調理委託	
	心身障害者福祉センター	さいわい福祉センター	22	0	14	36	27.2	22	0	12	34	24.7		
	共同生活援助事業 (知的障害者グループホーム)	アミニティ富士見	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		グリーンハイツ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		フレンズ・モエ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		バル	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		それいゆ小川	—	(2)	—	0	—	—	(2)	—	0	—		
		ファーム竹丘1	—	(2)	—	0	—	—	(2)	—	0	—		
		ファーム竹丘2	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		風のね	5	2	6	13	10.7	4	3	5	12	10.0		
		レチオンス巣鴨	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		はなみずき	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		ユーカリ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		夢オハナ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
	結オハナ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—			
	特定相談支援事業	さやま園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
立川福祉作業所		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
さくらんぼ		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
公益事業	豊島区東部・西部障害支援センター	(4)	—	(4)	(8)	—	(4)	—	(4)	(8)	—			
障害者施設計			156	33	110	299	249.7	157	36	101	294	243.7		
児童・女性支援施設	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野	8	2	8	18	12.2	10	2	5	17	13.6		
		サンライズ万世	12	1	3	16	14.2	11	2	2	15	13.4		
	児童養護施設	双葉園 (地域小規模)	高嶋の家	6	0	0	6	61.3	6	0	0	6	55.2	
			くすのき (地域小規模)	5	0	0	5		4	0	0	4		
		婦人保護施設	いこいの家	11	0	0	11	11.0	11	0	1	12	11.1	調理委託
	児童厚生施設	昭島市児童センターぱれっと	1	3	13	17	8.1	0	2	11	13	6.4		
	児童・女性施設計			89	9	30	128	106.8	81	8	28	117	99.7	
施設合計			702	134	463	1,299	1,097.2	701	126	451	1,278	1,095.1		
医療	病院	昭島病院	212	0	119	331	261.9	205	0	123	328	266.4		
		訪問看護ステーション	5	0	2	7		4	0	3	7			
収益	印刷	事業局	14	1	0	15	15.0	14	1	0	15	15.0		
	土地・建物賃貸	不動産賃貸事業 病院駐車場事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
合計			933	135	584	1,652	1,374.1	924	127	577	1,628	1,376.5		

注1 嘱託医等の業務委託や派遣職員は算入していない。

注2 共同生活介護・共同生活援助(風のね除く)の職員配置は、委託事業のため職員数および常勤換算には含まない。

Ⅱ 事業経営

1. 保育支援系施設の経営

認可保育所10園を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・昨年度見直しを行った保育グループの理念・方針・目指す保育等、実践をさらに深めていけるように、職員間でも園内研修や保育の振り返りを行い子どもの姿や声を保育に反映してきました。

・保育園の安全対策として見守りカメラを全園で設置しました。また今年度から義務化された安全計画等は訓練を通して見直しを行い、より実効性を高めました。

・保育グループ研修として保護者支援の研修を受けました。研修で学んだことをさらに各園でロールプレイング等へ広げ、気持ちに寄り添った保護者支援につなげていきました。

・新保育システムのさらなる活用を意識して10園で情報を共有しました。まだ使いこなせていない部分もあるため、引き続きシステム委員会を中心に情報共有を図り保護者満足へとつなげていきます。

◆ 地域社会への取組み

・関係機関と連携を取りながら育児困難家庭・要配慮児・医療的ケア児への対応に努めました。

・地域子育て支援については、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてきたため、コロナ禍で実施してきたやり方で良い部分は継続し、対面でも実施しました。

・ホームページを開設した園が増え、それを活かした広報活動とともにSNSも活用しながら、地域の子育て家庭・地域住民との関わりを持ちました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・多様なサービスを提供できる人材の育成のために計画に基づいた研修を実施しました。特に「目指す保育・職員像」の実現に向けて各園で工夫して園内研修を実施しました。

・グループ内で交換保育やテーマを基に職員交流を行いました。交換保育や交流を通し、自園の保育を振り返ったり他園のやり方を参考にすることができたため、引き続き行っていきます。

・勤務時間内に保育から離れて事務作業や保育の振り返りをする「ノンコンタクトタイム」の導入を始めました。

・実習生へのアプローチや園長が養成機関に出向き当法人のPRをしたことで、次年度に向けた新規採用につながりました。各園のホームページも活用していきます。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・少子化に拍車がかかる中、1年を通して定員の未充足が続いた園もありました。定員未充足については各地域の動向を把握しながら、定員数の変更等も視野に入れて検討していきます。

・職員確保が難しい1年であったため、園の状況に合わせて職員配置を行いました。また職員が足りない園に保育士を派遣し他園の取組みを学ぶことで、保育への理解が広がりました。

・物価高騰対策や安全対策を支援する補助金等を活用して経費削減につなげました。

・開園2年目の同援いぐさ保育園に対し、当初はグループ内で運営資金を繰り入れる予定でしたが、昨年度に引き続き必要な物品はグループ内で声を掛け合い融通するなど、協力体制のもと繰り入れを行わず運営ができました。

令和5(2023)年度 事業報告 (保育所)

施設名 むさしの保育園

定員 169 名

【事業実績】

施設利用率 92.8 % *施設入所支援目標利用率 98.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・「目指す保育」の実現のため、園内研修の度に保育園のテーマを振り返りました。子ども主体の環境構成を考慮し、1歳児クラスは小グループ保育の実践を始めました。
・倫理教育の一環で包括的セクシャリティ教育への学びを深め、不適切保育の予防に努めました。
・安全計画を基に様々な訓練を実施しました。水害を想定した訓練を行うことで、荒天時には緊張感をもって対応できました。また、見守りカメラで怪我や保育を振り返り、利用者の安全確保につなげました。
・新保育システムを活用し、定期的に子どもの姿を配信しました。ドキュメンテーションはさらに活用できるように引き続き研修などに参加します。また、行事の度にアンケートを実施し、保護者の意見を次年度の活動に反映していきます。

◆ 地域社会への取組み

・地域活動の一環として「はじっこ」(中野区との境界、杉並区の「はじっこ」に位置することから名付けられた地域のネットワークのこと)の活動を全面再開しました。餅つき等の各行事にたくさんの方が参加し、互いに顔の見える関係づくりに努めました。また地域のNPO法人や自治会等の関係機関と連携して情報共有を図り、園の特色を活かした子育て支援に取り組みました。
・ホームページのバージョンアップは次年度に持ち越しとなりました。
・地域活動時の丁寧な対応が、育児相談や一時保育・園見学につながりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・保育グループ内の施設見学に積極的に参加し、保育の質の向上に努めました。
・働きやすい職場づくりのために、現場と運営側との情報共有を速やかに行い、職員が意見を言いやすい環境を作りました。「ノンコンタクトタイム」については、一人ひとりの意識に課題が残るため、引き続き仕組化に努めます。
・隣接する施設の実習生を取り込み、保育の楽しさを伝えました。また、SNSを定期的に配信し、引き続き人材確保につなげていきます。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・離職を避けるため、職員が不調の際は速やかに原因を追究し、本園と分園の2園を運営している利点を活かし、職員を流動的に配置しました。
・少子化にともない、本園5歳児と分園2歳児は1年を通して未充足でしたが、0歳児は年度内に充足しました。一時保育を積極的に受け入れ、高齢者等の雇用などの補助金を積極的に活用し、収入の維持に努めました。
・新保育システムのデジタル保存機能を活用し、紙資源の削減に努めました。物価高騰補助金はありましたが、引き続き節減・節約に努めていきます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
園庭水道修繕	1,676	分園Wi-Fi設置	547
分園Wi-Fi設置	547	温水シャワー設置	792
温水シャワー設置	792		
購入等合計	3,015	購入等合計	1,339
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
見守りカメラ設置	4,727	園庭水道修繕	2,145
		見守りカメラ設置	3,187
購入等合計	4,727	購入等合計	5,332
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	7,742	年間合計	6,671

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	74	89	91	91	92	94	90	90	89	87	85	85	1,057
女児	56	63	66	68	70	72	73	73	72	71	71	71	826
合計	130	152	157	159	162	166	163	163	161	158	156	156	1,883

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	23	32	32	27	26	26	166
R04(2022)年度	22	31	32	27	26	27	165
R05(2023)年度	23	30	29	25	26	23	156

令和5(2023)年度 事業報告(保育所)

施設名 昭和郷保育園

定員 100 名

【事業実績】

施設利用率

114.7 %

*施設入所支援目標利用率 114.6%

◆利用者支援サービスの充実

・令和5年4月は0歳児が未充足のままスタートしましたが、年度途中からは定員を超えて柔軟に受け入れることができました。
・幼児クラスは子ども自らが自由に活動を選んで取り組む選択式保育を導入し、様々な経験や体験を通して、自己肯定感を育みながら心豊かに育つよう取り組みました。
・乳児クラスは引き続き一人ひとりに合わせた応答的な関わりの保育を実践しました。また、保護者とのコミュニケーションを密に取ることで信頼が得られ、より良い関係を築きながら保育園の運営ができました。
・医療的ケア児や障がい児を隔てなく受け入れインクルーシブ保育を実践しましたが、複雑で多様化するケースに保育士が長年培ってきた知識や技術でも対応が難しいケースが増えてきました。より障がい児保育に精通した専門家から学ぶために、次年度は心理士による研修や訪問相談を計画しています。
・保護者参加の行事では感染症防止に努めながら参加人数の制限をなくしました。保護者のほかに大勢の方の参加があり、大変喜ばれました。

◆地域社会への取組み

・一時保育は保護者のニーズに合わせて柔軟に受け入れました。保育所体験では、地域の未就園児の親子10組を受け入れました。
・地域対象の育児講座では、当園の栄養士や保育士のスキルを活かした企画や、講師を招いてより専門的な講座を開催し、大変喜ばれました。参加者が定着し入園につながりました。
・病後児保育室では、保護者が安心して働くことができるよう受入れ体制を整え、利用者も増加しました。
・医療的ケア児受入れ拠点園として、昭島市や他の拠点園、重症心身障がい児等在宅療育支援センター等の専門機関とも連携を取りました。
・東日本矯正医療センター准看護師養成所の実習生を受け入れ、地域の国立施設との交流に努めました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員の意見を聞きながら安全に保育ができるよう保育環境の改善に努めました。職員が休憩をしっかりとれるよう環境整備に力を入れました。ON/OFFの切り替えができ、仕事の質も上がりました。
・昭和郷保育園の保育について皆で話し合いを重ね職員の意見を取り入れながら、共通の目的を持って園全体で取り組むことができました。
・講師による対面と、オンラインでの研修、職員間で学び合う園内研修は保育の実践につながり、効果が得られました。
・実習生の受入れや入職のための見学も積極的に受け入れ、採用につなげました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・適正配置に努め、定員を超えて園児を柔軟に受け入れることで稼働率を上げました。
・地域活動事業などに積極的に取り組み補助金の増額につなげました。
・節電・節水に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
幼児棟壁紙張替工事	1,000		
購入等合計	1,000	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
水遊び場移設工事	2,585	水遊び場移設工事	2,490
見守りカメラ設置	1,000	見守りカメラ設置	1,234
購入等合計	3,585	購入等合計	3,724
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		幼児棟壁紙張替工事	1,000
購入等合計	0	購入等合計	1,000
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		遊戯室空調機更新	6,379
購入等合計	0	購入等合計	6,379
年間合計	4,585	年間合計	11,103

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	53	55	55	55	55	57	56	56	56	57	57	57	669
女児	58	59	59	59	59	59	59	59	59	59	59	59	707
合計	111	114	114	114	114	116	115	115	115	116	116	116	1,376

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	11	16	20	22	22	23	114
R04(2022)年度	11	16	23	23	22	23	118
R05(2023)年度	11	16	22	22	23	22	116

令和5(2023)年度 事業報告(保育所)

施設名 大山保育園

定員 130 名

【事業実績】

施設利用率

100.6 %

*施設入所支援目標利用率 100.0%

◆利用者支援サービスの充実

・「同援保育グループが目指す保育」の達成に向け、職員で話し合い、保育の振り返りを繰り返しながら保育内容の充実に取り組みました。
・子ども一人ひとりの興味・関心に合わせ、思いに寄り添い、保育内容を深めることができました。また、子どもたちからの「～やりたい」という思いを大切にしながら、自ら遊びを選択し遊び込める環境づくりを実践しました。
・乳児クラスでは小集団での関わりを大切に、気持ちに寄り添い自己肯定感が持てるよう支援しました。小集団保育の環境がまだ十分に整っていないため、引き続き保育の充実を図っていきます。
・全保育室等に見守りカメラを設置し、さらに安全対策を強化しました。また今年度から新たに安全計画を作成し、実践に活かせるよう訓練を見直しました。
・新保育システムを活用し、写真や動画などで日々の保育の様子を伝え、保護者との情報共有を深めました。さらに活用し保護者満足へとつなげていきます。

◆地域社会への取組み

・障がい児の受入れも積極的に行い、インクルーシブ保育を学びながら保育を実践しました。
・育児困難家庭の状況把握に努め、必要に応じて子ども家庭支援センターや保健センター等の関係機関と連携し、それぞれの家庭にあった支援を行いました。
・新型コロナウイルス感染症が5類になってからは対面での育児講座を再開し、夏まつり・観劇会・卒園児交流会などを実施することで地域の方との交流が深まり、保育園を知ってもらうことができました。また、入園希望見学会の際に育児相談を実施し、支援につなげました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・「目指す保育・職員像」の実現に向け園内研修で意見を交換し、カリキュラム会議で毎月振り返りを行うことで、学びを深め保育実践につなげました。
・保育の質や専門性の向上のために、法人研修・キャリアアップ研修・区研修などに計画的に参加し、学んだ事を共有しながら実践しました。また、自ら研修を選択し参加することで職員の学ぶ意識も高まり、質の向上につなげることができました。
・職員間でお互いを認め合い、個々が持っている得意分野を活かせるように心がけました。また、業務改善に向けノンコンタクトタイムを推進し保育事務や行事の見直しなどに取り組み、働きやすい環境づくりに努めました。
・実習生は少なかつたものの新規採用につなげることができました。次年度は人材確保に向けて取組みをさらに強化していきます。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・入園状況は、定員に対し0歳児は4月△3名、5月△2名、6月△1名でしたが、7月以降は定員を充足し、その他に弾力分の入園もあり目標稼働率の100%を達成することができました。また、適正に職員を配置しました。
・近隣に4～6棟のマンション建設が進められているため、育児講座や行事等の地域支援に積極的に取り組み、次年度の入園につなげることができました。
・物価や光熱費等の高騰を意識し、節約や節電・節水などの経費削減に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
見守りカメラ設置	1,430	見守りカメラ設置	1,330
格子戸工事	566	格子戸工事	802
		空調ファンローター修理	726
購入等合計	1,996	購入等合計	2,858
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		厨房排気ダクト修理	1,320
購入等合計	0	購入等合計	1,320
年間合計	1,996	年間合計	4,178

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	60	60	61	62	62	62	62	62	62	62	62	62	739
女児	68	69	69	69	69	69	69	69	70	70	70	69	830
合計	128	129	130	131	131	131	131	131	132	132	132	131	1,569

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	15	19	23	24	22	22	125
R04(2022)年度	15	20	21	25	24	22	127
R05(2023)年度	15	20	22	25	25	24	131

令和5(2023)年度 事業報告 (保育所)

施設名 昭和郷第二保育園

定員 190 名

【事業実績】

施設利用率

99.0 %

*施設入所支援目標利用率 102.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・「保育グループが目指す保育」について自園での取組みを話し合い、職員全員で園としての「保育」の共有を図りながら実践しました。カリキュラム会議や期別反省で振り返りを行い、より良い保育ができるよう取り組みました。

・豪雨の際にランチルームが浸水するため、安全・安心に保育ができるよう雨水処理改修工事を行いました。

・BCP・安全計画を基に訓練を実施しました。また、市の「災害ガイドライン」を保護者と共有しました。

・新保育システムの使用にも慣れ、保護者に日々の保育の様子を写真や動画で配信できるようになりました。園での様子が伝わり、保護者からも好評でした。

・職員の確保が困難であったことから、0歳児は定員24名のところ21名の受け入れに留め、安全に保育できるよう努めました。また、保育士の病欠者等が出たときは近隣の保育園が保育士を派遣してくれたことで、安定した保育の提供ができました。

・行事は、他園からの協力や職員間の連携により、今までと変わらない水準で行うことができました。

◆ 地域社会への取組み

・要支援児や育児困難家庭等には、市の連携機関と密に連絡を取り対応しました。

・定期一時保育は、待機児童対策として定着し、保護者の仕事復帰に貢献することができました。一時保育(一般型)は、育児相談や保護者に寄り添う対応ができたことでリピーターが増え、利用人数を増やすことができました。

・地域支援は、園庭開放や行事参加などを行いました。普段の園の様子を体験してもらうことで入園につながる機会となりました。

・近隣の小学校と連携し、小学2年生が園に職場体験に来たり、反対に5歳児が学校体験に行きました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・「目指す保育・職員像」についてリーダー層を中心に園内研修を行い、職員同士(非常勤保育士含)で話し合いを重ねながら、各自の動きや役割の理解が深まりました。また、人事考課や自己評価を通して職員の得意な面や課題が見える化し、研修や日々の保育の中で必要な知識や技術の修得に努めました。

・超過勤務は、各リーダーが声を掛け助け合いながら計画的に申請を行うことが定着しました。また、会議録や日誌等の事務作業のため、ノンコンタクトタイムが取れるようにリーダーが中心となって取り組みました。

・行事は、園の職員全員が関わることで全乳児・全幼児のことがわかるようになり、担任や担当になった際にも対応ができるようになりました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・光熱水費高騰を受け、節電等に努めました。

・物価高騰対策・安全対策補助金を活用し、園内に見守りカメラを設置しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
雨水処理改修工事	2,750		
購入等合計	2,750	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
業務用給湯器交換工事	750		
購入等合計	750	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
冷凍冷蔵庫	1,681	雨水処理改修工事	2,371
		業務用給湯器交換工事	832
		冷凍冷蔵庫	1,133
		見守りカメラ	1,485
購入等合計	1,681	購入等合計	5,821
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	5,181	年間合計	5,821

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	93	94	96	96	95	95	95	95	95	94	94	94	1,136
女児	90	90	94	94	94	94	94	94	94	94	94	94	1,120
合計	183	184	190	190	189	189	189	189	189	188	188	188	2,256

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	28	30	35	36	37	34	200
R04(2022)年度	26	30	34	36	33	37	196
R05(2023)年度	21	31	33	34	36	33	188

令和5(2023)年度 事業報告(保育所)

施設名 みなと保育園

定員 63 名

【事業実績】

施設利用率

74.0 %

*施設入所支援目標利用率 84.1%

◆利用者支援サービスの充実

・家庭と連携して、子どもの最善の利益を考慮した、養護と教育が一体となった保育を実践することができました。新型コロナウイルス感染症が5類になったことで、縮小していた行事を少しずつ元に戻し、大きな行事は祖父母の方にも参加してもらう事ができました。また感染予防を行いながら保護者の保育士体験を実施することで、本園の保育を知ってもらう良い機会になりました。

・今年度より始めた「身体を使って楽しい英語(SES)」は毎週楽しい時間となりました。簡単な単語を使い、日常の中でも英語に触れるようにしました。子どもたちの上達ぶりは驚くほどでした。

・災害時に備え、BCPの確認や安全計画を策定し、園以外の区の広域避難所までの避難経路等も直接確認しました。

◆地域社会への取組み

・育児講座は対面で行うことができました。地域の方にも来園してもらえる環境になった一方で、今年度は参加者が少なかったため、今後は積極的にPRします。

・地域向けの和太鼓を毎月実施することができました。部屋の広さや音の問題もありましたが、大変喜ばれました。継続して参加される地域の方や在園児の保護者等の関心も広がり、昨年に比べ人数も増えてきました。

・地域との関係づくりのために港区の取組みに参加しました。港区応援企画(フードパントリー)等昨年度よりもつながりが持てました。

・ホームページを開設したことで、ネットからの園見学等の問い合わせが増えています。今後もより広く園を知ってもらえるよう、ホームページを活用していきます。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・WEB研修を有効に活用し、職員一人ひとりが積極的に研修に参加することができました。また、人権についての動画を視聴し、改めて、個の人格を否定せず尊重し合えるような学びができました。

・保育グループの理念について園内研修を行い、みなと保育園の目標でもある「受け止める」について毎月事案を基に話し合いました。話し合いを通して、子どもへの関わり方が少しずつ共有できてきました。

・安心して働くことのできる職場環境づくりを心掛け、職員の定着に努めました。

・時間の使い方を考え、ノンコンタクトタイムの活用等、皆で協力し合い仕事に取り組むことができました。

◆財務基盤の強化に向けた取組み

・物価・光熱費の高騰等を意識し、園内の節電や消耗品の節約に努めました。

・職員の協力のもと保育材料・教材費等必要なもの以外の諸経費を抑え経費削減に努めました。

・様々な補助金を活用し、特に安全対策補助金では、園内の見守りカメラ・2階テラスの転落防止遮熱ネット・0歳児の体動センサーを整備することができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
ホームページ作成	655	見守りカメラ設置	109
見守りカメラ設置	236		
購入等合計	891	購入等合計	109
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
2Fテラス転落防止遮熱ネット	525	ホームページ作成	655
体動センサー(×6)	659	2Fテラス転落防止遮熱ネット	525
		体動センサー(×6)	659
購入等合計	1,184	購入等合計	1,839
年間合計	2,075	年間合計	1,948

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	27	27	27	28	26	31	31	31	31	31	30	29	349
女児	17	17	17	17	17	17	18	19	19	18	18	17	211
合計	44	44	44	45	43	48	49	50	50	49	48	46	560

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	6	9	12	9	12	11	59
R04(2022)年度	6	9	10	12	4	12	53
R05(2023)年度	6	8	11	7	10	4	46

令和5(2023)年度 事業報告(保育所)

施設名 同援みどり保育園

定員 125 名

【事業実績】

施設利用率

102.3 %

*施設入所支援目標利用率 104.0%

◆利用者支援サービスの充実

・乳児クラスの待機児解消のため、弾力的に園児を受け入れました。
・新型コロナウイルス感染症が5月に2類相当から5類に変更になったことを受け、行事の規模をコロナ禍前に戻しながら、子どもたちが様々な経験を持つことができるように保育を進めました。
・子どもの人権や主体性を尊重し、一人ひとりの成長に応じた適切な養護と教育を行いました。
・保育グループの理念・方針・目指す保育を実現できるよう「丁寧な保育」を実践しました。乳児クラスは小グループでの保育を行い、幼児クラスでは子どもたちが自分たちで心を動かし、主体的に活動できるような保育を進めました。子どもたちからの発信を大切に、保育に取り入れていきました。そのために物的環境や人的環境を検討し整えながら、安心して過ごせる生活の場・子どもたちが主体的に動ける場にしていきました。
・補助金を活用し、見守りカメラを全保育室に設置しました。
・災害訓練を行い、防災・減災、事業継続計画(BCP)の充実に取り組みました。

◆地域社会への取組み

・引き続き高齢者施設との交流を行いました。5歳児が作った餅花をプレゼントしたり、お互いに良い体験となりました。
・子育ての相談等、地域社会の子育ての拠点としての活動を再開しました。地域と在園児との関わりを大切に、今後も地域の育児拠点となれるよう取り組んでいきます。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・多様なサービスを提供できる人材の育成のため、園内外の研修に積極的に参加し職員のキャリアアップに努めました。園内研修では「保育」について職員が意見交換をする機会を持ち、「丁寧な保育」「子どもの主体性」について各クラスでテーマを決め、具体的な動画も交えて保育内容を話し合える場を設けることができました。また福祉人材として倫理教育の強化に努めコンプライアンスを重視しながら、気になる子や家庭に対してのアプローチの仕方や関係機関等の情報を共有しました。
・一人ひとりに合わせた人材育成を行い、安心して働くことのできる職場環境を作り、若手職員の定着に努めました。また「働き方改革」として業務内容を見直し、働きやすい職場環境づくりを進めました。
・新保育システムを導入し、保護者への保育内容の視覚化や職員の業務省力化につなげました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・物価高騰に対し補助金は出たものの、施設の経営には影響がありました。
・今後の施設整備計画を意識し、省エネ対策や経費を削減することで財務基盤の強化に努めました。
・働き方改革を受けて業務の見直しを行い、効率的に働けるようリーダー層を中心に取り組みました。
・建て替えを見据え修繕は最低限に抑えました。また補助金を活用し、学校110番非常通報装置の交換、見守りカメラの設置を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
エアコン交換工事	1,276	エアコン交換工事	1,184
購入等合計	1,276	購入等合計	1,184
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
PC(×3)	789		
購入等合計	789	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
ホームページ作成	700	PC(×4)	717
見守りカメラ設置	2,420	見守りカメラ設置	2,420
購入等合計	3,120	購入等合計	3,137
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	5,185	年間合計	4,321

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	71	72	72	72	71	71	71	71	71	71	72	72	857
女児	55	56	56	56	56	57	57	57	57	57	57	57	678
合計	126	128	128	128	127	128	128	128	128	128	129	129	1,535

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	12	19	24	25	25	25	130
R04(2022)年度	12	19	24	25	24	23	127
R05(2023)年度	12	19	24	25	25	24	129

令和5(2023)年度 事業報告(保育所)

施設名 つつじが丘保育園

定員 110 名

【事業実績】

施設利用率

108.8 %

*施設入所支援目標利用率 110.0%

◆利用者支援サービスの充実

- ・保育所保育指針に沿った全体的な計画を基に保育目標の達成に努めました。
- ・4歳児の途中退園に伴い未充足の月もありましたが、0歳児の待機児解消のために弾力的受入れを継続して地域に貢献するとともに、培ってきた専門知識を活かして保育所の役割を果たしました。
- ・保護者の保育参加を多く受け入れることで、本園の保育への理解につなげました。
- ・事業継続計画(BCP)について、昨年度の反省を活かし、具体的で変化をつけた訓練を実施しました。
- ・日頃の保育の実践とSDGsのつながりを意識しながら取り組みました。

◆地域社会への取組み

- ・見学に来た地域の方に情報を発信し、育児相談などを行いました。ホームページを新しくし、入園につながるよう本園のPRに活用しました。
- ・育児困難家庭への対応や障がい児の積極的な受入れを行うにあたり、昭島市子ども家庭センターや保健センター等の関係機関との連携の強化に努め、専門機関(療育施設や市内通所支援事業所等)につながるケースが増えました。そのため実践力を高める園内研修を引き続き行いました。
- ・防災に関する連携も含め、地域の高齢者施設や自治会との交流を少しずつ復活させました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・研修計画に基づき、様々な研修を受講し、多様なニーズに対応できるよう努めました。その他必要に応じて園内研修を行い目指す保育について理解を深めました。
- ・働きやすい職場環境の整備では、ICT化を進め書類の形態や記録の取り方などを検討し業務改善に努めました。重複している書類や業務がないか、少しでも改善できないかを常に考え模索しました。保育について、職員の提案を取り入れ主体的に参画させることで、自分たちで考えて実行するスタンスが身につくよう取り組みました。
- ・保育以外の業務に取り組める時間(ノンコンタクトタイム)を確保できるようルール化しました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・安定運営のために、必要なものかどうかを見極めつつ、省エネ対策や経費削減に努めました。
- ・園児数に応じた適正な職員配置を行いました。
- ・あらゆるリスクに備え安全・安心に過ごせる環境を整備する一方で、非常食を無駄にしないよう給食に活用するなど、強いコスト意識を持って取り組みました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
見守りカメラ設置	2,600	電話工事	1,540
電話工事	1,540		
購入等合計	4,140	購入等合計	1,540
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
1F廊下日除け設置	903	見守りカメラ設置	2,310
		1F廊下日除け設置	789
購入等合計	903	購入等合計	3,099
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	5,043	年間合計	4,639

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	76	75	75	75	75	75	76	78	78	78	78	77	916
女児	39	42	43	44	44	44	44	44	44	44	44	44	520
合計	115	117	118	119	119	119	120	122	122	122	122	121	1,436

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	17	20	20	22	23	23	125
R04(2022)年度	15	20	20	19	23	23	120
R05(2023)年度	16	20	20	20	22	23	121

令和5(2023)年度 事業報告(保育所)

施設名 同援さくら保育園

定員 108 名

【事業実績】

施設利用率

99.4 %

*施設入所支援目標利用率 100.0%

◆利用者支援サービスの充実

・保育グループが目指す保育の一つとして、子どもの人権や主体性を尊重しながら、乳児クラスはいろいろな形で小グループでの保育を実践し、一人ひとりに丁寧に対応することができました。

・利用者の安全・安心を守るために、計画的に避難訓練や不審者訓練を行いました。特に9月の引き取り訓練ではBCPを意識した訓練を実施しました。防災会議では訓練でスムーズにできなかったことを話し合って改善し、次の訓練に活かしました。

・室内に見守りカメラを設置したことで、保育士の死角で起きた出来事(怪我等)の検証が可能になりました。

・新保育システムを有効に使い、保護者に向けて子どもたちの日々の写真や動画を配信することで、情報の共有と保育の理解につなげました。

・乳児用洗面台を交換して清潔に保てるようにしました。またテラスデッキのメンテナンスを行い安全に過ごせるようにしました。

◆地域社会への取組み

・新型コロナウイルス感染症が5類に変わったことで地域の方の利用が増えました。園庭開放・育児講座・一時保育等を通して遊びの場を提供しました。また、地域の保護者から子育てへの不安や悩みを聞いてアドバイスをすることができました。

・引き続き障がい児や育児困難家庭への支援を行いました。

・ホームページは次年度開設し活用します。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・保育グループの目指す職員像の実現に向けて、正規職員全員が園内研修に参加し、保育の内容を深めていくことができました。

・職員育成計画に基づいた研修に計画通り参加することができました。また、要件に合わせたキャリアアップ研修にも各自積極的に参加しました。

・非常勤職員へ向けて園内研修(OJT)を定期的 to 実施し、業務の標準化を図りました。

・働きやすい環境を作るために、事務時間(ノンコンタクトタイム)の確保に取り組みました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・省エネ対策や経費の削減に努めました。また、LED化工事も仕様を精査し計画より安価に実施することができました。

・効率的に働くとともに適切な職員配置を行いました。

・本園の施設環境の良さ、特別事業や保育内容の特色をアピールすることで園の利用につなげることができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
マグネット掲示板設置	1,781	マグネット掲示板設置	1,781
乳児用洗面台交換工事	3,280		
テラスデッキ塗装	951		
購入等合計	6,012	購入等合計	1,781
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
見守りカメラ設置	1,276	見守りカメラ設置	2,310
		乳児用洗面台交換工事	3,414
購入等合計	1,276	購入等合計	5,724
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
LED化工事	6,345	ガステーブル	715
ガステーブル	715		
購入等合計	7,060	購入等合計	715
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
ホームページ作成	666	テラスデッキ塗装	950
		LED化工事	6,527
購入等合計	666	購入等合計	7,477
年間合計	15,014	年間合計	15,697

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	50	50	50	50	50	51	51	51	51	51	51	51	607
女児	56	56	56	57	57	57	57	57	57	57	57	57	681
合計	106	106	106	107	107	108	108	108	108	108	108	108	1,288

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	12	18	19	20	20	20	109
R04(2022)年度	12	18	19	20	20	19	108
R05(2023)年度	12	18	18	20	20	20	108

令和5(2023)年度 事業報告 (保育所)

施設名 同援はいじま保育園

定員 50 名

【事業実績】

施設利用率

113.0 %

*施設入所支援目標利用率 116.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・新しく保育グループで掲げた「目指す保育」についての学びを深めるため園内研修を行い、保護者にもドキュメンテーションを通して共有を図ることで、利用者の満足につなげました。
・全体的な計画をもとに本園の特徴的な取組みのうち、特に実体験とインクルーシブ保育に力を入れました。利用者からも満足の声を多くいただきました。
・子どもが求める活動・環境を充実させることで、子どもたちの成長と発達につながりました。特に年長とその家族は満足して卒園することができました。
・BCPに沿った訓練を細やかに行うことができなかったため、次年度につなげていきます。
・新保育システムの活用を十分にいき、費用対効果を上げることができました。
・保育参加・参観・行事への参加等、保護者に対し保育への参加を積極的に促しました。
・子どもも保護者も、職員とともに、関わる人全てがプラスの気持ちを持てる園づくりに努めました。

◆ 地域社会への取組み

・ホームページを活用し、広報活動や地域支援活動を拡充しました。
・育児講座の際に、サークル支援として園庭で遊んだり、育児相談を受けながら安心して集える場を提供しました。
・卒園児のボランティアや職場体験を柔軟に受け入れ、保育拠点活動につなげました。
・災害時の一時滞在所として機能できるよう定期的に訓練を行いました。
・近隣の保育園と連携し、地域に開かれた子育て支援や子どもたちの就学時の不安軽減に取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・保育の質と専門性の向上を目指し、研修への参加を促しました。また職員間の対話を通して意識の統一を図り、より充実した保育の実践や利用者の対応につなげました。
・保育士育成校と連携をとり、実習生の確保や職員の新規採用につながるよう努めました。
・職員の個々の得意分野を活かすことで組織力を上げ、その中でお互いを認め合いながら働き甲斐のある職場づくりを目指しました。全職員が自分なりのやりがいを見つけたことで、人材の定着につながりました。
・保育グループで掲げた「職員像」「目指す保育」の学びを園内外研修を通してより深めることで、職員がその資格に相応しい存在となれるよう意識付けを図りました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・職員の適正人数の配置、事業費、事務費の適正運用に努めました。
・地域活動を積極的に行い、園児の安定した入園と収入の確保につなげました。
・職員一人ひとりが地球環境に配慮し、限りある資源を大切に使う意識を高める育成を行いました。
・廃材の利用や、再利用可能なものの活用により、職員とSDGsの認識を深めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
見守りカメラ設置	380	見守りカメラ設置	236
屋上日除けテント設置	680	屋上日除けテント設置	680
購入等合計	1,060	購入等合計	916
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		ノートPC(×3)	501
購入等合計	0	購入等合計	501
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	1,060	年間合計	1,417

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	34	35	35	34	34	34	34	34	35	35	35	35	414
女児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
合計	56	57	57	56	56	56	56	56	57	57	57	57	678

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	—	11	12	12	13	11	59
R04(2022)年度	—	11	12	12	11	13	59
R05(2023)年度	—	11	10	12	13	11	57

令和5(2023)年度 事業報告(保育所)

施設名 同援いぐさ保育園

定員 60 名

【事業実績】

施設利用率

69.6 %

*施設入所支援目標利用率 66.6%

◆利用者支援サービスの充実

・ホームページは年度末の完成となり活用には至りませんでした。今後積極的に活用していきます。

・BCP(事業継続計画)・安全計画をもとに訓練を実施し、見直しを行いました。

・保育を進める中で、園児一人ひとりの気持ちを受け止めていくことを大切にしました。特に子どものありのままの姿を受け止められるように、職員間で園児の様子や対応を共有し当園の保育への思いを深めてきました。またそれらの思いを保護者により理解してもらうために、保護者に対し、保育参観や保育園体験への参加を積極的にアプローチしました。

・乳児クラス、幼児クラスともに一人ひとりの興味や関心に合わせた遊びや活動が充実するよう努めました。行事のための保育から、保育の延長線上に行事がある一従来やり方に捉われずに当園らしさを活かして取り組みました。

・延長保育の利用が年度後半から増加し、保護者の就労支援につながりました。

◆地域社会への取組み

・地域の様々な施設や組織と連携を取り、小学校や他園との交流も行いました。そこから参考になった安全対策を当園にも取り入れました。

・園周辺にポスターを掲示し冊子を配布するなど地域とつながりを持ち、LINEの公式アカウントから情報発信を行いました。

・感染症対策を行いながら保育所体験や育児講座等を実施しました。他園を招待することで交流を深めるとともに、地域の未就園児の育児相談や入園にもつながりました。次年度はホームページをさらに活用していきます。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員の補充ができず外部研修への参加があまりできませんでしたが、園内研修では「目指す保育・職員像」の実現に向けて、「園として大切にしていくこと」を繰り返し話し合ってきました。職員間のコミュニケーションについては、非常勤職員も交え、意見交換や情報と意識の共有を図りました。

・ノンコンタクトタイムの導入を始め、勤務時間内で事務作業や保育の振り返りをする時間の確保を職員間で協力して行いました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・年度途中の入園もありましたが、年度末に転居や幼稚園への転園等があり稼働率は微増でした。

・物価高騰対策・安全対策補助金を活用し、園内に見守りカメラを設置しました。

・必要な物品はグループ内の他園の協力を仰ぎ譲ってもらうように努め、購入する際も必要性を見極めながら慎重に整備しました。また職員も節約や節電を心掛け、保育グループの他園からの繰入れを行わずに経営ができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
幼児クラス園児ロッカー	545	幼児クラス園児ロッカー	510
購入等合計	545	購入等合計	510
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
ホームページ作成	655		
購入等合計	655	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
見守りカメラ設置	1,900	ホームページ作成 見守りカメラ設置	666 1,900
購入等合計	1,900	購入等合計	2,566
年間合計	3,100	年間合計	3,076

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	299
女児	16	16	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	202
合計	41	41	42	42	42	42	42	42	42	42	42	41	501

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R03(2021)年度	—	—	—	—	—	—	—
R04(2022)年度	—	12	10	3	3	1	29
R05(2023)年度	—	13	12	9	3	4	41

2. 高齢者支援系施設の経営

救護施設、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、その他事業（認知症対応型共同生活介護、通所介護、地域包括支援センター、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護施設、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、サービス付き高齢者向け住宅）を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の人権に配慮しながら、その有する能力に応じた、自己決定に基づき施設、自宅での生活を営むことができるように介護・支援しました。
・利用者の生活環境改善のため、物品の購入や修繕を行い快適な生活空間づくりに努めました。
・グループ内でのクラスター発生時には、グループの協力体制のもと、職員の応援派遣を実施し、利用者サービスの維持、感染症対応に努めました。
・リスクマネジメントの観点から利用者の安全・安心を守るためにも、防災マニュアル、災害時における事業継続計画（BCP）の随時見直しを行い防災訓練や地域防災に活かしました。（特に新型コロナウイルス感染症発生時の計画を構築しました。）

◆ 地域社会への取り組み

・各事業所が自治体や地域と協力しながら、介護が必要となっても地域で暮らし続けられるよう、介護・医療・福祉の連携を図りました。
・新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行したことをうけ、感染症対策を講じながら、各地域においてイベント等を開催しました。（さくらガーデン・原町ホーム・原町高齢者複合施設での認知症カフェ、フードパントリー等）
・昭和郷においては、今年度も本会の児童女性グループの事業をサポートし、同援こども学習室「ラ・スク」の活動に協力しました。
・各地区において、社協等の関係機関と協力し地域貢献活動に参加しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・業務改善、職場環境の見直しを進め、特養において、1日8時間勤務 公休120日を実施しました。
・新型コロナウイルス感染症の予防に努めつつ、可能な限り実習生を受け入れました。施設・事業所見学についても積極的に受け入れ、丁寧に対応することで就職へつながるよう働きかけました。
・今年度も「初任者研修」を実施しました。法人の職員だけでなく、一般の参加もありました。
・特定技能実習生を確保し、技能実習生へ技能移転をすることができました。
・週1回のPCR検査、適宜の抗原検査を実施し安心して働ける職場環境づくりに取り組みました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取り組み

・毎月のグループ会で随時財務状況を確認し、稼働率向上のために取り組みましたが、クラスターの発生やサービスの利用控えもあり、高齢系グループとして厳しい事業経営となりました。
・グループ全体で業務改善、作業の効率化等の生産性の向上につながるよう多角的に取り組み、安全・安心の運営及び健全経営を目指しました。
・要介護度の高い利用者の受入先となるなど、万世敬老園の閉園に向けてグループとして取り組みました。

1 救護施設

身体や精神に障害があり、経済的理由も含めて居宅で日常生活を送るのが困難な人たちが健康に安心して生活できるよう、生活扶助、医療扶助を行いました。

2 養護老人ホーム

65歳以上であって、環境上の理由及び経済的理由により居宅において継続的な日常生活が困難な方を養護しました。

3 軽費老人ホーム

60歳以上で生活費に充てることのできる収入が定められた基準以下で、身寄りのない、あるいは家庭の事情によって家族との同居が困難な方に利用契約により無料又は低額な料金で、日常生活上必要な便宜を供与しました。

4 特別養護老人ホーム

65歳以上であって、心体上又は精神上著しい障害があるため常時介護を必要とし居宅において継続的な日常生活を営むのが困難な方を養護しました。

5 認知症対応型共同生活介護

65歳以上であって、認知症であるために日常生活を営むのに支障がある方に対して、共同生活する住居で入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の援助を行いました。

6 老人デイサービスセンター

65歳以上であって、日常生活を営むのに支障がある方に、通所により入浴・食事の提供・機能訓練等各種のサービスを提供し、生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上並びにご家族の身体的・精神的な負担の軽減を図りました。

7 地域包括支援センター

地元区市からの委託により、高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らせるように、介護、福祉、健康、医療など様々な面から総合的な支援を行いました。

8 居宅介護支援事業所

介護を必要とする方が、自宅で適切にサービスを利用できるように、ケアマネージャー(介護支援専門員)が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプラン(居宅サービス計画)を作成したり、ケアプランに位置づけたサービスを提供する事業所等との連絡・調整などを行いました。その他の介護に関する専門的な相談に応じました。

9 小規模多機能型居宅介護事業

65歳以上で、身体上または精神上の障害があるために日常生活を営むのに支障がある方に対して、自宅において、またはこのサービスの拠点へ通い、もしくは短期間宿泊することにより、居宅介護及び機能訓練等を提供しました。

10 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、定期的な巡回や随時通報への対応など、心身の状況に応じて、24時間365日必要なサービスを必要なタイミングで柔軟に提供しました。サービスの提供にあたっては、訪問介護員だけでなく看護師などと連携しているため、介護と看護の一体的なサービスを提供しました。

11 サービス付き高齢者向け住宅

「高齢者住まい法(厚生労働省・国土交通省所管)」に基づく高齢者にふさわしいバリアフリー構造等の住まいを、安心して暮らせる見守りサービス(安否確認、生活相談等)を備えた賃貸住宅として提供しました。

令和5(2023)年度 事業報告 (救護施設)

施設名 昭島荘

定員 100 名

【事業実績】

施設利用率	100.1 %	* 目標利用率 100.0%
男女比率	1:1	
平均年齢	67.2 歳	(最高 94 歳 / 最低 29 歳)
平均在所期間	12.8 年	(最長 64.8 年)
手帳保持者	95 名	(愛の手帳:14名、身障手帳:12名、精神障害保健福祉手帳:76名、重複:11名)
年間入所	10 名	
年間退所	10 名	
主な入所理由	在宅生活が困難になった方、退院後の在宅生活が難しい方	
主な退所理由	地域移行 死亡、長期入院など	

◆ 利用者支援サービスの充実

・令和6年度後半個別支援計画が義務付けられることになり、今年度から準備を進めてきました。利用者の夢や希望をかなえられるような計画となるように精査しています。
 ・利用者作業の有給休暇は周知が徹底されておらず、利用は限定的となりました。
 ・「もうひと手間をかける」を合言葉に、コロナ禍前の水準を超えるサービスの充実を目指しましたが、いまだに慎重さが残っており、期待した成果には至りませんでした。

◆ 地域社会への取組み

・新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、地域との交流が復活するかに見えてきましたが、いまだに感染への警戒感と縮小ムードに慣れてしまっていて、コロナ禍前には戻り切れませんでした。ただ、10月に移動動物園を招待し、昭島荘の利用者が来客の案内役となり、近隣施設や保育園と交流することができました。
 ・矯正研修所を含めた多くの学生・福祉実習生(14名)を受け入れ、次代の人材へのアプローチや社会的責任は一定程度果たせました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・離職、退職者は昨年度の1/4となり、長期療養者もほとんどが復職することができました。
 ・法人外研修の多くがオンライン形式が当たり前となり、参加しやすくなった反面、対面式の良さである他の参加者との交流ができないということが続きました。
 ・職員会議に参加できなかった職員に対し2回目、3回目を実施し、なるべく多くの職員に直接説明し、意見を聞く機会を作りました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

・施設部と協議して、建物診断は中止し、防災倉庫は購入ではなく修繕にて対応することとしました。
 ・職員の高い意識のもと、施設見学や体験利用から入所へとつなげることで年間の平均利用率が100%となり、収入が安定しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
建物診断調査	3,410		
防災倉庫	2,970		
購入等合計	6,380	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
		ガス式食器消毒保管庫(×2)	2,018
購入等合計	0	購入等合計	2,018
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
ガス式食器消毒保管庫(×2)	2,052	車イス対応軽自動車	2,420
車イス対応軽自動車	2,663		
購入等合計	4,715	購入等合計	2,420
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		居室網戸・サッシ修繕	827
購入等合計	0	購入等合計	827
年間合計	11,095	年間合計	5,265

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	52	52	53	52	52	51	51	52	52	52	52	53	624
女性	49	49	49	48	49	49	48	48	48	48	47	48	580
合計	101	101	102	100	101	100	99	100	100	100	99	101	1,204

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R03(2021)年度	100			2			2	5	91
R04(2022)年度	102			2	1		2	3	94
R05(2023)年度	101			1	2		2	3	93

令和5(2023)年度 事業報告 (養護老人ホーム)

施設名	万世敬老園
定員	120 名 (R5年4月1日180名から定員変更)

【事業実績】

施設利用率	80.9 %	* 目標利用率 92.5%
男女比率	49.3 : 50.7	
平均年齢	82.6 歳	(最高 104 歳 / 最低 67 歳)
平均在所期間	9.6 年	(最長 30 年)
年間入所	0 名	
年間退所	35 名	
主な入所理由	新規措置は無し	
主な退所理由	特養入所、措置替え、長期入院、死亡	

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・閉園することになったため新規措置入所者はなく、退所者数は35名でした。
- ・要介護の高い方の介護ニーズを充足できうる場への移管を進める一方で、養護間の措置替えに向けた動きを整えました。
- ・園内活動やクラブ活動、行事、地域とのつながりなどできることを再開し、心身の活性化につながる支援を行いました。
- ・「虚弱化及び重度化への介護」への対応に関しては特別養護老人ホームへの移動等、利用者にとって快適な生活空間の提供を進めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・例年行っている保育園の園児の見守りや、法務省矯正研修所への講義、実習生の受け入れを実施しました。
- ・近隣の保育園との交流事業を再開しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・人材育成においては法人研修への派遣を行い、組織力の向上に努めました。
- ・日本版BPSDケアプログラムを受講し認知症ケアに関して理解を深めることができました。
- ・職場環境においては新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が2回発生し、緊張感で張りつめた毎日や感染職員による業務の負担、疲労感はありましたが、保健所の指導の下で着実に対策を講じることができました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

- ・当年度は定員を120名に変更し、移管・措置替え等を進める中で収入・支出ともに事業規模を縮小しました。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する補助金、物価高騰に対する支援金もあり、日々節約に努め支出管理を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	53	53	53	52	52	50	49	47	44	43	41	37	574
女性	55	53	53	53	53	51	50	49	48	46	41	39	591
合計	108	106	106	105	105	101	99	96	92	89	82	76	1,165

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳						
		~64	~69	~74	~79	~84	~89	90~
R03(2021)年度	132		7	15	31	34	30	15
R04(2022)年度	108		3	13	25	27	24	16
R05(2023)年度	73	0	2	9	13	18	18	13

令和5(2023)年度 事業報告 (軽費老人ホーム)

施設名 サンホーム

定員 50 名

【事業実績】

施設利用率	98.2	%	* 目標利用率 100.0%	
男女比率	1:2			
平均年齢	86.3	歳	(最高 97 歳 / 最低 73 歳)	
平均在所期間	6.5	年	(最長 28 年)	
年間入所	6	名		
年間退所	6	名		
主な入所理由	独居不安・住宅事情			
主な退所理由	長期入院・入院中逝去			

◆ 利用者支援サービスの充実

・年度当初は23名、年度末には22名の介護認定を受けました。その他重度者加算対象者は8名、認知症症状のある方も複数名おり、家族等の協力のもと介護を要する方への支援を行いました。
 ・年間で6名の入退去がありました。平均年齢は4月1日の85.1歳から3月1日では86.3歳となっています。
 ・数年実施を見送っていた食事を伴う外出機会や地域でのサークル活動発表に参加し、生活の潤いや刺激を受ける機会を設けました。
 ・利用者参加の定例会や生活向上委員会、その他アンケートなど利用者の意向を聞く場を数多く設け、その意向を生活に反映させるよう取り組みました。

◆ 地域社会への取組み

・感染予防体制の中、雑学交流会の開催、近隣学校との交流、地域との合同防災訓練を再開しました。
 ・町内、市内事業所との連絡会での社会資源の共有や情報交換、またフードドライブに参加しました。
 ・小平市からの受託配食事業として小平給食を週5日、年間計542食の提供、独自配食事業としてのサンホーム給食も週5日、年間計2,003食の提供を行いました。2事業の合計食数は前年度比43食増の2,545食の提供となりました。地域のニーズに合わせ、今後の事業展開を図ります。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・人事考課・目標管理に基づき、職員一人ひとりの知識の向上を図るため施設内研修12回、法人含む施設外の研修18回(オンライン含む)に参加しました。
 ・法人で開催している介護職員初任者研修事業に講師を派遣し、これからの福祉人材の育成に取り組みました。
 ・毎月の衛生推進委員会にて職場環境を見直し、労働災害、感染症状況について確認、対応を行いました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・年間を通して12名(6名退去、6名入居)が入れ替わる中、入所待機者の減少により稼働率に関しては100%の保持ができず、サービス活動増減差額でマイナスが発生しました。
 ・利用者の入院、退去に伴う生活費の返還と、最低賃金の上昇、物価高騰による費用増が経営に大きな影響を及ぼしています。また修繕も多岐にわたり、予算を上回る修繕費を要しました。
 ・東京都、東村山市の物価高騰緊急対策支援金による経費の補填申請を行いました。
 ・都内軽費老人ホームで東京都へ運営費、処遇改善について要望書を提出しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
エアコン交換工事(×5)	571	エアコン交換工事(×4)	457
電気温水器交換(×4)	585	電気温水器交換(×3)	449
購入等合計	1,156	購入等合計	906
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
屋上人工芝張替え	920	エアコン交換工事(×2)	235
ホットワゴン	682	電気温水器交換(×2)	300
購入等合計	1,602	購入等合計	535
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
食器洗浄機	2,276	食器洗浄機	1925
		ホットワゴン	528
		リヒートクッカー	1353
		電気温水器交換(×2)	300
購入等合計	2,276	購入等合計	4,106
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
エアコン交換工事(×5)	571	電気温水器交換(×2)	294
電気温水器交換(×4)	585	ノートPC(×3)	456
リヒートクッカー	1,529		
購入等合計	2,685	購入等合計	750
年間合計	4,961	年間合計	4,856

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	16	16	15	15	15	14	13	13	13	14	13	13	170
女性	33	34	34	34	34	34	34	36	36	36	37	37	419
合計	49	50	49	49	49	48	47	49	49	50	50	50	589

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳						
		~64	~69	~74	~79	~84	~89	90~
R03(2021)年度	49			1	11	10	12	15
R04(2022)年度	49			2	9	12	14	12
R05(2023)年度	49			1	7	13	16	12

令和5(2023)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名	フジホーム		
定員	100	名	
			短期入所専用
			空床利用
			4
			6
			名

【事業実績】

施設利用率	96.1	%	* 目標利用率 97.1%
特養	95.4	%	
短期入所	114.3	% (空床利用含む)	
男女比率	1:4		
平均年齢	86.6	歳	(最高 103 歳 / 最低 72 歳)
平均要介護度	4.2		
平均在所期間	3.4	年	(最長 14.3 年)
年間入所	24	名	
年間退所	25	名	
主な入所理由	在宅介護困難なため		
主な退所理由	死亡		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・コロナ禍後の新しい生活様式に沿いながら、虐待防止を中心とした利用者の人権研修を実施、その有する能力に応じた自己決定に基づく日常生活を営むことができるように介護・支援しました。
- ・リスクマネジメントの観点から利用者の安全・安心を守るために、感染症予防対策や防災マニュアル、災害時における事業継続計画(BCP)は随時更新しました。BCP訓練、福祉避難所訓練も実施しました。
- ・看取り委員会を中心に、各部署、各担当が適切な連携を実践し、尊厳を持った9名の看取り介護を実践しました。
- ・利用者が住みやすく、職員が働きやすい環境づくりのため、必要箇所の修繕を行いました。
- ・利用者の生活環境の改善のための物品の購入や修繕を実施しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・短期入所生活介護にて、自治体や地域と協力しながら、介護が必要となっても地域で暮らし続けられるよう介護・医療・福祉を一体で提供するとともに、地域ニーズを把握し、多くの利用者が地域で暮らし続けられるよう、生活援助やリハビリ等の支援をしました。
- ・昭島病院総合支援センター、地域包括支援センターと連携し、短期入所生活介護事業が緊急時や在宅復帰までの調整のための受け入れ先として機能することで、地域に貢献しました。
- ・万世敬老園の利用者の移管先となるなど、地域において可能な限り利用者を受け入れる努力をしました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・OJTや研修(eラーニング等)を通してサービスの質の向上と、現任職員のレベルアップ、育成を実践しました。
- ・新たに2名の外国人技能実習生を受け入れることで、国際的な福祉人材の育成に貢献しました。また、特定技能外国人2名が、介護福祉士試験に合格できました。
- ・4S活動(整理・整頓・清掃・清潔)を中心に継続して取り組むことで、120日休日の実現を達成しました。
- ・感染予防を徹底しながら実習生を受け入れました。
- ・現行のICT機器以外のICT導入には至りませんでした。引き続き活用を検証します。
- ・事故防止の取組みでは、eラーニングを活用して意識の向上を図りました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・目標利用率97.1%に対し、実績は96.1% (特養:95.4%/短期入所:114.3%)でした。
- ・クラスター感染や光熱費の値上げ、委託費の値上げもあり、厳しい施設経営となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
車いす(×20)	2,910	チルド式車いす(×15) フルリクライニング車いす(×5)	1,952 980
購入等合計	2,910	購入等合計	2,932
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
ノートPC(×5)	1,315	ノートPC(×5) 消防設備改修工事	1,004 2,420
購入等合計	1,315	購入等合計	3,424
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
介護用ベッド(×3)	1,202	介護用ベッド(×2) 汚物除去機	906 1,210
購入等合計	1,202	購入等合計	2,116
年間合計	5,427	年間合計	8,472

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	20	20	19	20	20	19	18	19	21	21	21	19	237
女性	78	78	79	81	81	81	81	82	79	80	80	80	960
合計	98	98	98	101	101	100	99	101	100	101	101	99	1,197

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R03(2021)年度				3	13	51	29	96
R04(2022)年度			58	204	657	609	403	1,931
R05(2023)年度			120	91	227	758	512	1,708
			3	10	42	44	99	
		6	106	96	327	563	575	1,673

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和5(2023)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名 ニューフジホーム

定員 100 名

短期入所専用	4	名
空床利用	6	名

【事業実績】

施設利用率	95.0	%	* 目標利用率 95.1%
特養	93.2	%	
短期入所	139.4	% (空床利用含む)	
男女比率	1:8		
平均年齢	87.1	歳	(最高 104 歳 / 最低 61 歳)
平均要介護度	3.9		
平均在所期間	3.9	年	(最長 13.4 年)
年間入所	22	名	
年間退所	21	名	
主な入所理由	在宅での生活が困難なため		
主な退所理由	死亡		

◆ 利用者支援サービスの充実

利用者への“丁寧な寄り添う介護”の実現のため、個別ニーズに応じた支援に努めました。年々重度化していく利用者に対応し環境整備とともに褥瘡予防への取組みを継続して行いました。今年度は7月に新型コロナウイルス感染症のクラスターを経験しましたが、入院者は1日当たり4.5名と、昨年より2.2名/日減らすことができ、安定した稼働につながりました。病院とも緊密に連絡をとり、入院日数も減少しました。看取りでは、病院と連携しながら家族の協力のもと5名実施することができました。しかし、体調を崩した後、長期入院し病院で亡くなる方、療養型病床に転院する方も多く、まだまだ課題が残ります。新型コロナウイルス感染症も5類となり、家族の面会も少しずつ緩和し、散歩や居室で一緒に過ごすことも可能となりました。行事はフロアのみでの実施となっておりますが、少しずつ以前のような交流が戻ってきており、フロアでのレクリエーションや、ピアノなどの音楽演奏も実施することができました。

◆ 地域社会への取組み

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動に制限を設けての実施となりました。
- ・昭島病院と入院後のショートステイの受け入れや施設入所の相談など緊密な連携に努めました。
- ・ホームページをこまめに更新し、地域への情報発信を行いました。
- ・家族へ毎月ニューフジホームだよりを送付し、情報提供に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・人材活用として子育て世代の女性の雇用に努め、育休明けの職員をはじめ、出産・育児で離職することなく働き続けることのできる環境整備に施設全体で取り組み、成果を上げています。
- ・職場のOJT体制を整備し、新人職員にはチューターを付け、継続して相談にのる体制を整え育成に努めました。
- ・新型コロナウイルス感染症によるクラスターが7月に発生しましたが、職員が少しでも安心して働けるよう補助金を活用しながら感染予防につとめ、離職者なく収束しています。
- ・震災を想定したBCP訓練を実施し、災害に向けた体制強化に努めました。
- ・インカムやセンサーベットの購入など業務のICT化と効率化に取り組みました。
- ・介護職の8時間勤務導入に向けて試行を行い、4月からの本格的実施の体制づくりを行いました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・人件費を抑制しながら、非常勤職員などスポットで補える職員を積極的に活用し、稼働率向上に努めました。クラスターは7月に一度発生しましたが、昨年より2.3%増のほぼ目標稼働率の95.0%で終わることができ、収支は令和4年度に比べ大きく改善しました。
- ・ショートステイの空床利用に努め、1・2階とも積極的に受け入れました。ショートステイから特養への入所の流れも促進し、稼働率は昨年より16.4%増の139.4%と稼働率向上に大きく貢献することができました。
- ・消耗品・日用品は、必要性を随時見直ししながら購入方法を工夫することで経費の削減を図りました。また、節電・節水に努め使用量は減少していますが、依然として物価と光熱水費の高騰で費用が高止まりしています。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
特殊浴槽	9,317	特殊浴槽	8,814
購入等合計	9,317	購入等合計	8,814
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
介護用ベッド(×4) インカム(×12)	1,874 539	介護用ベッド(×4) インカム(×12)	1,874 539
購入等合計	2,413	購入等合計	2,413
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	11,730	年間合計	11,227

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	12	12	12	13	12	11	11	11	12	11	9	11	137
女性	84	85	86	87	83	84	86	87	87	87	89	89	1,034
合計	96	97	98	100	95	95	97	98	99	98	98	100	1,171

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R03(2021)年度			2	3	13	46	30	94
			192	154	625	580	280	1,831
R04(2022)年度			2	2	20	43	28	95
			176	130	624	606	260	1,796
R05(2023)年度			2	5	29	33	31	100
			97	364	822	498	260	2,041

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和5(2023)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名	原町ホーム		
定員	50	名	
			短期入所専用 空床利用
			2 4
			名 名

【事業実績】

施設利用率	93.3	%	* 目標利用率 99.3%
特養	91.8	%	
短期入所	129.5	% (空床利用含む)	
男女比率	1:5.5		
平均年齢	89.5	歳	(最高 102 歳 / 最低 66 歳)
平均要介護度	4.2		
平均在所期間	3.2	年	(最長 11 年)
年間入所	15	名	
年間退所	15	名	
主な入所理由	自宅での生活が困難になったため		
主な退所理由	逝去		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・「やさしさを起点とした介護」を実践し、個々の利用者の状態に応じて自立への意欲を引き出し、ケアプランに反映させることでその人らしい生活を支援しました。
- ・認知症緩和療法(ハプティックセラピー)を通して、癒しのひと時を感じていただける生活を提供しました。特に看取り期の利用者への支援として、最期の時まで心地よく過ごせるよう努めました。
- ・新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行したことをうけ、少しずつ面会の方法、回数を広げ、家族との交流の機会を増やしました。
- ・新しい特殊浴槽を導入しより快適で安全・安心な入浴サービスを提供しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・新宿区高齢者支援課や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等と連携し、地域ニーズに対応し困難事例・緊急短期入所等に努めました。
- ・福祉避難所協定施設として、地域住民や近隣町会といった地域との連絡会に参加する等、連携を図りました。
- ・新宿区社会福祉施設連絡会によるフードパントリー等、地域の活動に参加しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・業務改善、職場環境の整備に取組み、1日8時間、公休120日を実現しました。
- ・コンプライアンスを核とした運営、利用者サービスの向上を目指し、各種研修、OJTを通して人材育成を行いました。
- ・感染症予防に対する環境整備として、消毒剤や不織布マスク、グローブ等の必要な衛生物品の確保と職員の動線に配慮した消毒剤の設置等を行いました。
- ・新しい特殊浴槽を導入し、職員の業務負担の軽減に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・安定した稼働を維持できるよう、各セクションの連携強化と栄養ケアの向上等を図りました。
- ・クラスター発生による稼働率の低下、光熱水費等の上昇により厳しい施設経営となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
特殊浴槽	10,714	特殊浴槽	9,350
購入等合計	10,714	購入等合計	9,350
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	10,714	年間合計	9,350

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	6	6	5	6	6	7	7	7	7	8	8	8	81
女性	39	41	41	40	38	40	40	40	39	39	37	37	471
合計	45	47	46	46	44	47	47	47	46	47	45	45	552

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R03(2021)年度					4	29	17	50
			30	66	388	328	208	1,020
R04(2022)年度					4	26	15	45
			99	37	331	192	477	1,136
R05(2023)年度					6	19	20	45
		10	4	35	444	97	359	949

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和5(2023)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名	ゆたか苑		
定員	50	名	
			短期入所専用 空床利用
			4 4
			名 名

【事業実績】

施設利用率	93.3	%	* 目標利用率 97.0%
特養	95.4	%	
短期入所	67.1	% (空床利用含む)	
男女比率	1:7.4		
平均年齢	87.3	歳	(最高 101 歳 / 最低 65 歳)
平均要介護度	4.2		
平均在所期間	2.8	年	(最長 15.8 年)
年間入所	13	名	
年間退所	19	名	
主な入所理由	在宅での介護困難、虐待等(措置入所)		
主な退所理由	死去、長期入院等		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・定期的に「虐待の日アンケート」を実施して虐待防止、接遇向上の取組みの継続、サービスの質向上に努めました。
- ・安全対策担当者を中心に報告されたヒヤリハットの分析・再発防止・環境改善に努めました。
- ・感染症予防の観点から制限していた面会方法を段階的に緩和して直接面会、短時間の外出を可能とするなど、利用者・家族の心情に寄り添いました。
- ・医療的ニーズの高い利用者の受入れが今後も重視されるなかで、経管栄養・バルーンカテーテル利用者の受入れについて主治医や協力医療機関と連携しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域交流事業(体操・栄養教室)は、家族懇談会での実施に留まり、地域住民向けの開催は見合わせました。
- ・近隣施設、町会との防災応援協定に基づき、炊き出し訓練やAED操作訓練等を実施、町会主催の防災訓練には職員を派遣して車いすレクチャーを行うなど「顔の見える関係性」の構築に努めました。
- ・今年度も施設設備の有効活用として東京都モデル事業『豊島区短期集中予防サービス強化支援事業』に会場提供を行い、社会福祉法人としての使命を果たしました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・昨年度に引き続き、職員の介護技術向上を目標に感染症予防の観点からオンライン研修を中心に実施しました。また、自治体の資格取得支援事業を活用する等、受験資格保持者の国家試験受験を後押ししました。
- ・職員がやりがいと希望を持ち続けられるよう本人との面談を通じて計画的な研修参加を促すことでスキルアップや人材育成に努めました。今後も働きやすい職場環境の醸成に努めます。
- ・今後の社会福祉を取り巻く環境を見極め、感染症予防に努めながら社会福祉実習生を受け入れ、自法人の魅力を伝えることで今年度は1名の採用につながるなど、新規採用活動への一助としました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・老朽化した施設設備改修は費用対効果を見据えた計画に努めました。今年度は地下雑排水槽ポンプ交換を予定しておりましたが、世界的な情勢の影響もあり、物品の調達に難航し実施には至りませんでした。今年度、30年の借地権更新契約を締結、安定した施設経営に向け施設整備計画の再構築を図ります。
- ・事務費、事業費削減について職員個々の水道光熱費のコスト意識醸成や消耗品の選定を図るなど経費削減に努め、水道光熱費は前年比減となりました。
- ・次年度の介護報酬改定に向けて情報収集や体制整備に努め、新規加算取得に向けた準備を行いました。
- ・今年度も目標稼働率達成に向け「速やかな入所」に努めましたが、度重なるクラスター感染により入所調整がままならず目標稼働率には至りませんでした。次年度も特養、短期の情報共有を図り、セーフティネットとしての使命を果たすとともにベッドコントロールによる安定稼働を目指します。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
汚水・雑排水槽ポンプ交換	1,507		
購入等合計	1,507	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
土地賃貸借契約更新	39,000	土地賃貸借契約更新 外壁打診調査	38,956 770
購入等合計	39,000	購入等合計	39,726
年間合計	40,507	年間合計	39,726

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	6	6	6	6	5	6	6	5	6	6	6	6	70
女性	44	42	43	44	42	44	43	44	43	43	42	41	515
合計	50	48	49	50	47	50	49	49	49	49	48	47	585

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R03(2021)年度					12	19	17	48
R04(2022)年度		101	81	219	583	363	214	1,561
R05(2023)年度	1		231	285	63	189	214	983

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和5(2023)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名	ひかり苑		
定員	50	名	
			短期入所専用
			空床利用
			4
			5
			名

【事業実績】

施設利用率	95.8	%	* 目標利用率 99.0%
特養	93.3	%	
短期入所	127.0	% (空床利用含む)	
男女比率	1:3		
平均年齢	87.2	歳	(最高 100 歳 / 最低 53 歳)
平均要介護度	3.7		
平均在所期間	2.9	年	(最長 17 年)
年間入所	21	名	
年間退所	18	名	
主な入所理由	在宅生活困難なため、老健や病院・ショートステイ、自宅からの入所		
主な退所理由	死亡退所		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・常に法人の理念と方針、高齢者支援系グループ方針を念頭に置いて遵守し、業務を遂行しました。
- ・利用者の人権を尊重し、自己決定に基づくケアプランを立案し豊かな日常生活を送ることができるよう支援しました。
- ・「親切」「丁寧」「誠実」をモットーに、個別サービスを心がけ、安全で安心な「持ち上げない介護」を実践しました。サービスマナーなど課題は残っています。
- ・厨房機器の更新や屋上床工事等、計画的に施設整備を行いました。利用者に快適な住環境の提供とインカムやタブレット、見守り機器を使用したICTの活用を続けています。全体的な建物老朽化への対策・空調設備の更新は引き続き慎重に検討します。
- ・大規模クラスターも経験しましたが感染症への対策を含めたBCPを見直し、新型コロナウイルス感染症対策も継続しながら安全と安心の確保に努めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・感染症の影響はありましたが、東村山市富士見町福祉施設連絡会と連携し、デイサービスと協力しながら地域の防犯・防災に向けた「富士見町あいさつ運動」や「東村山市フードドライブ事業」を実施しました。
- ・東村山市福祉避難所連絡会に参加し、東村山市と連携を続け福祉避難所としての役割を具体的に果たせるよう取り組みました。
- ・地域包括ケアシステムの構築と定着へ向けて、連絡会等を通してやむを得ない措置入所者1名を受け入れるなど、地域の中で必要とされる事業所としてその役割を果たしました。
- ・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携し、緊急性や必要性の高い短期入所を受け入れました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員が安心して働ける職場環境づくりに取り組み、課題は残るものの職員の離職防止と定着につなげました。
- ・職場体験や介護実習については感染症対策によりやむなくお断りしましたが、矯正研修所からの研修を受け入れました。
- ・法人内外の研修についてはオンライン等を活用しながら計画的に参加することにより、サービスの質の向上と職員のスキルアップを行い、福祉人材の育成に努めました。情報共有ツールの活用、人事考課面接(期初・期末)等を実施し、職員とのコミュニケーションを深めました。新しいホームページの作成も進めています。
- ・4S活動と災害防止については主に職員会議で周知し、取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・費用の削減と収益の増に努め、補助金収入も増加し収入が費用を上回る結果となりました。
- ・光熱費や物価高、人件費増の影響もあり資金積立を行うことができませんでしたが、経営基盤の安定と事業継続のため施設整備等積立金の積み立てを次年度行えるように努めます。
- ・健全な経営を行うための正規職員と契約職員、パート職員の適正な配置に努め、一定の成果を得ることができました。
- ・稼働率向上のため、入院者の減少や新規入所者の入所までの期間の短縮、空床のショートステイ利用等に常時取り組みましたが、4月のクラスターの影響が色濃く残り、年間目標稼働率(99%)を達成することができませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
屋上人工芝張替え	1,220	屋上人工芝張替え	1,220
購入等合計	1,220	購入等合計	1,220
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
食器洗浄機	2,276	食器洗浄機	1,925
		リヒートクッカー	1,353
購入等合計	2,276	購入等合計	3,278
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
リヒートクッカー	1,529		
購入等合計	1,529	購入等合計	0
年間合計	5,025	年間合計	4,498

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	12	12	12	12	10	12	12	12	12	12	12	12	142
女性	36	35	38	38	36	38	39	39	38	38	37	38	450
合計	48	47	50	50	46	50	51	51	50	50	49	50	592

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R03(2021)年度			2	2	14	15	16	49
		8	196	515	641	479	56	1,895
R04(2022)年度			1	1	15	22	8	47
			306	219	1,152	131	298	2,106
R05(2023)年度			2	2	17	22	7	50
	7		178	449	1,135	48	42	1,859

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和5(2023)年度 事業報告 (認知症対応型老人共同生活援助事業)

施設名 **グループホームかえで**

定員 **18** 名

【事業実績】

施設利用率	88.8 %	* 目標利用率 96.5%
男女比率	1:6	
平均年齢	88.2 歳	(最高 96 歳 / 最低 79 歳)
平均在所期間	4.2 年	(最長 12 年)
年間入所	6 名	
年間退所	4 名	
主な入所理由	在宅生活継続が困難であるため	
主な退所理由	医療ニーズの増加等	

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者の自立した生活を支えるために、グループホームの目的である家事活動をはじめ散歩などを積極的に取り入れ、さくらカフェ(地域交流事業)では利用者が主体的に参加することができました。
- ・アフターコロナの社会となり、段階的に面会の制限を緩和し家族、地域の方の関わりを再開することができました。
- ・昭島病院訪問看護ステーション、昭島病院、訪問歯科等医療系サービスと連携を継続し利用者の健康管理に努めました。
- ・福祉サービス第三者評価受審を通してサービスの質の向上を図りました。
- ・運営推進会議では、集合型の会議を再開し事業運営について協議、交流を再開することができました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域住民向けのさくらカフェは、感染対策を講じながら再開することができました。
- ・新型コロナウイルス感染症により地域住民との関係性が希薄になっていたことで改めて関係構築に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

事業所内研修やオンライン研修に参加しスキルアップを図りました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・施設利用率については、利用者の重度化と職員の不足により目標値を達成することができませんでした。
- ・空室期間の短縮化として待機者リストの精査を行い、昭和郷高齢者複合施設内の他のサービスとの連携を図り、スムーズに入所を進めることができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	120	124	120	124	110	90	93	90	93	93	87	90	1,234
女性	314	333	370	354	369	389	410	420	450	424	377	403	4,613
合計	434	457	490	478	479	479	503	510	543	517	464	493	5,847

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R03(2021)年度			2	7	6	2	1	18
R04(2022)年度			1	4	8	2	1	16
R05(2023)年度			2	8	6	1	1	18

令和5(2023)年度 事業報告 (認知症対応型老人共同生活援助事業)

施設名	原町グループホーム
定員	18 名

【事業実績】

施設利用率	98.4 %	* 目標利用率 94.0%
男女比率	1:9	
平均年齢	89.4 歳	(最高 100 歳 / 最低 79 歳)
平均在所期間	4.0 年	(最長 10.9 年)
年間入所	3 名	
年間退所	2 名	
主な入所理由	在宅生活が困難になったため	
主な退所理由	逝去のため	

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・個々の利用者の有する能力を上手に活用しながら自立した生活を送ることができるように支援しました。
- ・認知症ケアの一環として、時節にちなんだ行事を実施しました。また新宿のプロサッカーチームとコラボレーションしボールを使ったレクリエーションを行うなど、社会資源を活用して生活にバラエティを加えました。
- ・見守りセンサーの活用により、利用者が安心して生活できる環境づくりをしました。
- ・「カフェメモリー(認知症カフェ)」の再開を通して、原町拠点内やボランティアとの交流の場を作りました。

◆ 地域社会への取組み

- ・「カフェメモリー」を通して、地域とのつながりの再構築に取り組みました。
- ・より多くの地域の方々に事業所を知っていただくため、実習生の受入れや事業所見学の対応を積極的に行いました。
- ・透明で開かれた事業運営を遂行するための取組みとして、運営推進会議で事業所の取組みや福祉サービス第三者評価結果等の報告を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・事業所内の各種会議や日々のミーティング等を通して、チームケア向上に取り組みました。
- ・勤務表作成ソフトの導入により、業務効率改善と業務負担軽減につながりました。
- ・労働時間の見直しにより、年間休日120日を実現しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・利用率については年度目標を超え98.4%を達成しました。
- ・電気・ガス・水道の適切な使用や消耗品の選定など、コスト意識をもって適正な支出に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
4F浴室換気扇修繕工事	627	4F浴室換気扇修繕工事	250
購入等合計	627	購入等合計	250
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	627	年間合計	250

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	60	62	60	62	62	60	58	30	31	31	29	31	576
女性	452	482	480	496	496	480	496	482	522	525	490	508	5,909
合計	512	544	540	558	558	540	554	512	553	556	519	539	6,485

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R03(2021)年度			2	7	2	4	2	17
R04(2022)年度			1	7	6	3	1	18
R05(2023)年度			1	5	8	1	3	18

令和5(2023)年度 事業報告 (高齢者デイサービスセンター)

施設名 **フジ・デイサービスセンター**

定員 **25** 名(1日あたりの定員)

【事業実績】

施設利用率	53.6 %	* 目標利用率 64.0%
男女比率	1:2	
平均年齢	86.3 歳	(最高 99 歳 / 最低 61 歳)

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、通常の感染症予防をしながら事業所の経営に努めました。結果、事業所からクラスターを発生させることなく営業を継続することができました。

・居宅介護支援事業所と情報共有や連携を強化し、利用者満足を最優先にサービスの提供に努めました。

・市内に特殊浴槽を設置しているデイサービス事業所がほとんどないため、その強みを活かして利用者のニーズに応えました。

◆ 地域社会への取組み

・昭島市地域福祉ネットワークの通所部会で開催される対面やオンライン会合に参加することで、他事業所との意見交換を通して、住民の方々の抱える課題やニーズに触れる機会を持つように努めました。

・併設している特別養護老人ホームとの協力を軸としてBCP計画を作成しました。

・社会福祉協議会を通じてボランティアを募り、活動の場を提供することで関係性を広げました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・効率的な人員配置と事業経営のバランスを図りながら、職場環境を改善しましたが、欠員を補充することができず、業務縮小することもありました。

・職員の欠員がある状況で、導入したeラーニングによる学習も難航しました。

・4S活動は定着化しつつも、欠員とのバランスを見ながら、業務改善を継続しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・各事業所回りやHPの活用など、広報活動に力を入れましたが、利用者数の増加にはつながりませんでした。

・欠員の補充ができず、相談員が十分な営業をすることができませんでした。平均利用人数は、12.0人/日でした。目標稼働率64.0%でしたが、実績53.6%となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	109	126	116	118	116	108	86	94	80	87	90	96	1,226
女性	214	258	264	255	254	247	236	254	234	221	218	247	2,902
合計	323	384	380	373	370	355	322	348	314	308	308	343	4,128

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
R03(2021)年度	介護	54	267	1,159	1,273	895	465	487	4,600
	送迎	106	534	2,318	2,536	1,790	940	974	9,198
	食事	54	267	1,159	1,273	895	465	487	4,600
	入浴		147	531	630	453	384	293	2,438
	機能訓練								0
R04(2022)年度	介護	37	167	1,201	1,038	410	401	684	3,938
	送迎	74	312	2,402	2,066	850	802	1,368	7,874
	食事	37	156	1,201	1,033	425	401	684	3,937
	入浴		75	730	479	247	283	399	2,213
	機能訓練								0
R05(2023)年度	介護	25	67	975	936	849	652	624	4,128
	送迎	50	134	1,950	1,872	1,698	1,304	1,248	8,256
	食事	25	67	975	936	849	652	624	4,128
	入浴		46	503	424	482	585	424	2,464
	機能訓練								0

* 送迎、食事、入浴、機能訓練の人員数は介護と重複する / 入浴の人員数は一般浴と機械浴の合計

令和5(2023)年度 事業報告 (認知症対応型高齢者デイサービスセンター)

施設名 東大和市ふれあいデイセンターひかり苑

定員 12 名(1日あたりの定員)

【事業実績】

施設利用率	45.9	%	*目標利用率 55.0%
男女比率	1:2.4		
平均年齢	85.1	歳	(最高 95 歳 / 最低 71 歳)

◆ 利用者支援サービスの充実

・法人理念と高齢者支援系グループ方針を常に念頭におき業務遂行に努めましたが、稼働率は45.9%に留まりました。
・「個別ケア」を重点項目に掲げ、アセスメントに基づいた通所介護計画書や個別機能訓練計画書を作成し、自立した在宅生活が継続できるよう支援しました。ブンネメソッドやハプティックセラピー等を通し認知症状の緩和ケアを行いました。ICTの活用には至りませんでした。
・個別の機能訓練を実施し、フレイル予防やADLの維持向上につなげました。また、年間を通して週1回職員にPCR検査と抗原検査を実施し、感染症対策の徹底を図りました。
・特養と連携しながら、防災や事業継続計画、緊急時・感染症マニュアルを整備しリスクマネジメントを強化しました。

◆ 地域社会への取組み

・東村山市富士見町福祉施設連絡会や富士見町あいさつ運動推進委員会等にオンラインも含め参加し、あいさつ運動ののぼりの掲示を続けるなどの活動をしました。
・東村山市通所サービス事業者連絡会に参加し、情報の共有等を行いました。ボランティアについては、順次再開し活動内容も増え皆様に喜ばれました。
・地域密着型認知症対応型デイサービスとしての役割を自覚し、地域の関係機関とのネットワークの活用等を図り、運営推進会議を開催しました。行事への参加案内や施設南庭の活用は感染症対策のため実施できませんでした。
・3月には東村山市作品展に普段皆で取り組んでいる作品を出展することができました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・多くはありませんが職場内外の研修や会議などを通してサービスマナーの向上やスキルアップに努めました。
・デイ会議やミーティング等職員間のコミュニケーションを積極的に図れる場を設け、職員が心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりを心がけましたが、年間を通して職員の体制は病欠などが多く、人材確保にも苦労しました。
・感染症対策を実施しながら職員間で協力して、多くの実習生を受け入れました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・積極的に居宅介護支援事業所を回り、新規利用者の獲得のために営業活動を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響や職員が安定せず、目標に掲げた稼働率(55%)及び前年度稼働率も割り込み、達成することができませんでした。年間の増減差額もやや改善はしたものの大きなマイナスが続いています。
・業務改善に取り組み、入浴を含めた臨時利用の声掛けを強化し一定の成果はありましたが、今後もケアマネジャーや地域包括支援センターとの関係強化を重点的に進めます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	59	59	62	62	60	69	62	62	41	40	45	38	659
女性	90	90	82	75	69	59	72	89	88	106	109	110	1,039
合計	149	149	144	137	129	128	134	151	129	146	154	148	1,698

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
R03(2021)年度	介護		103	566	193	750	377	59	2,048
	送迎		206	1,131	386	1,477	754	115	4,069
	食事		103	566	193	748	377	59	2,046
	入浴		103	322	120	521	60	54	1,180
	機能訓練		45	320	119	340	132	28	984
R04(2022)年度	介護		106	364	536	494	283	39	1,822
	送迎		214	808	910	936	680	90	3,638
	食事		107	404	456	468	342	45	1,822
	入浴		107	127	386	192	258	31	1,101
	機能訓練		47	188	255	238	165	24	917
R05(2023)年度	介護		104	330	222	565	290	187	1,698
	送迎		208	660	444	1,130	580	374	3,396
	食事		104	330	222	560	290	187	1,693
	入浴		104	166	106	305	143	178	1,002
	機能訓練		54	165	102	229	119	86	755

* 送迎、食事、入浴、機能訓練の人員数は介護と重複する / 入浴の人員数は一般浴と機械浴の合計

令和5(2023)年度 事業報告 (地域包括支援センター)

施設名 新宿区榎町高齢者総合相談センター

【事業実績】

	本人	家族等	関係機関	その他	合計
相談件数	2,994	2,241	3,862	214	9,311

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・高齢者だけでなく、その家族についても、必要に応じ、関係機関と連携し支援を行いました。
- ・アフターコロナで復活してきた地域の医療機関との集まりに積極的に参加しました。
- ・区のフードドライブ事業に参加することで高齢者への緊急的な食糧支援の実施に繋がりました。

◆ 地域社会への取組み

- ・社会福祉協議会、区の出張所、保健センターと共催で地域の町内会と交流会を開催し、意見交換を行いました。
- ・区施設主催のイベントや障害者施設にてブースを開設し、地域包括支援センターの周知活動を行いました。
- ・公民館のイベントに協力し、センター内でハロウィンイベントを開催するなど、子育て世代へ周知活動を行いました。
- ・介護者教室において、「小規模多機能型居宅介護ってどんなところ？」を開催し、好評を得ました。
- ・認知症サポーター養成講座を地域の郵便局や公民館で開催しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・オンラインによる研修を積極的に行うための設備を充実させました。
- ・社会福祉士、看護師の実習について、感染対策を講じた上で、積極的に受け入れました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

経営状況に合わせた予算執行を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度年間延件数)

	相談件数				介護予防プラン作成		
	施設	在宅サービス	介護予防	その他	新予防給付		地域支援事業
					要支援1	要支援2	
R03(2021)年度	239	5,289	52	1,069	1,617	1,666	253
R04(2022)年度	178	4,838	75	899	1,461	1,583	210
R05(2023)年度	230	6,391	96	1,331	1,592	1,681	206

令和5(2023)年度 事業報告 (地域包括支援センター)

施設名 昭島市中部地域包括支援センターあいぽっく

【事業実績】

	本人	家族等	関係機関	その他	合計
相談件数	2,449	1,208	2,712	11	6,380

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・感染症予防の取組みを引き続き行いました。
- ・生活機能の低下を予防して要介護の状態にならないように、自立支援の視点を大切にしながら、介護予防のケアマネジメントを行いました。
- ・市内の他の地域包括支援センターと連携して家族介護者教室を開催するなど、介護者等の支援を行いました。
- ・第8期昭島市介護保険事業計画に沿って昭島市、各包括支援センターと協働し、地域包括ケアシステムの推進に向けて、第8期昭島市介護保険事業計画の地域課題に対する取組みを行い地域、各関係機関との構築に努めて、支援を行いました。

◆ 地域社会への取組み

高齢者を取り巻く活動について、地域包括支援センターの役割として市民に向けた情報提供を下記のように積極的に努めました。

- ・地域ケア会議において、地域包括3職種(社会福祉士・主任ケアマネジャー・保健師)、地域関係者、介護事業者等が連携し、ネットワークの構築や地域課題の抽出、個別課題の解決等にチームアプローチで取り組み、市全体に共通する課題の解決策を検討して地域ケア幹事会、地域ケア推進会議へつなげ、介護保険推進協議会を通じて第9期昭島市介護保険事業計画への反映に努めました。
- ・昭島市の見守りネットワークの中心機関として、医療機関やインフォーマルサービス等も含めた地域のネットワークとの連携に取り組みました。
- ・昭島市生活困窮者支援調整会議にて、各機関における生活困窮に関する相談の現状、課題、対応状況等を共有し、多職種間で連携して生活困窮者を支援しました。
- ・昭島市認知症支援(認知症サポーター養成講座等)、高齢者疑似体験などの様々な取組みを通じて、地域、学校、企業、法務省矯正研修所等へ地域包括支援センターの業務内容を理解してもらい、気軽に相談しやすい地域包括支援センターの運営に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・包括的・継続的ケアマネジメントに努め、困難事例を抱えているケアマネジャーの支援、長期継続的なケアマネジメントの支援等を行いました。
- ・高齢者が地域で自分らしい生活を安心して行えるよう、地域のケアマネジャーや他職種と連携を深めました。
- ・社会福祉士を目指す実習生を受け入れ指導しました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

残業を含めた業務改善に取り組みながらサービスとコストを両立していけるよう、バランス感覚を持った経営を心がけました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度年間延件数)

	相談件数				介護予防プラン作成		
	施設	在宅サービス	介護予防	その他	新予防給付		地域支援事業
					要支援1	要支援2	
R03(2021)年度	55	2,188	2,003	567	540	1,187	549
R04(2022)年度	54	3,076	2,094	640	543	1,026	768
R05(2023)年度	58	2,641	2,115	409	667	1,118	696

令和5(2023)年度 事業報告 (小規模多機能型居宅介護事業)

施設名 原町小規模多機能居宅介護センター

登録定員 25 名

うち通いサービス 15 名
うち宿泊サービス 5 名

【事業実績】

施設利用率	89.7 %	* 目標利用率 92.0%
男女比率	1:5.6	
平均要介護度	2.3	

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、可能な限り自宅・地域で暮らせるよう多機能型のサービスを最大限活用し在宅生活を支援しました。
・新型コロナウイルス感染症の予防に努め、年間を通じ日常生活の支援等のサービスを提供しました。

◆ 地域社会への取組み

・運営推進会議は年6回、対面形式で開催し、情報共有と地域ニーズの把握に努めました。また会議で得られた地域の行事等に積極的に参加しました。
・地域の企業との協賛で交流事業を継続的に実施し、事業所と地域住民との交流に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・対面型研修やオンライン研修、eラーニングを効果的に活用しながら、職員のモチベーション、及びスキルアップと事業所のサービスクオリティ向上に取り組めました。
・介護ソフトやタブレット端末を活用して、記録業務の効率化を図りました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

登録者確保のため随時区内の地域包括支援センター等との連携に努めましたが、十分な成果が得られず目標稼働率の達成には至りませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間登録者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	4	3	3	4	3	3	4	4	4	4	4	3	43
女性	18	19	19	19	20	20	19	18	18	18	17	17	222
合計	22	22	22	23	23	23	23	22	22	22	21	20	265

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
R03(2021)年度	通い			614	761	959	513	740	3,587
	宿泊			18	148	568	183	282	1,199
	訪問		98	1,468	943	534	143	400	3,586
R04(2022)年度	通い			667	706	844	502	272	2,991
	宿泊			35	99	284	121	81	620
	訪問		55	2,037	431	1,112	112	239	3,986
R05(2023)年度	通い			880	662	850	495	627	3,514
	宿泊			80	136	318	146	350	1,030
	訪問			2,807	135	582	792	497	4,813

令和5(2023)年度 事業報告 (小規模多機能型居宅介護事業)

施設名 昭和郷小規模多機能居宅介護センター

登録定員 25 名

うち通いサービス	15	名
うち宿泊サービス	9	名

【事業実績】

施設利用率	88.0	%	* 目標利用率 90.0%
男女比率	1:5		
平均要介護度	2.8		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者とともに四季折々の飾り(桜やお神輿、鳥居など)を作成し、利用者と一緒に行事を催しました。
- ・当事業所を利用することが家族のレスパイトにつながるよう、家族にも細やかに声をかけ寄り添った支援に努めました。
- ・利用者が独居生活を継続できるよう、本人の力を見極めながら訪問支援に努めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・コロナ禍でストップしていた運営推進委員会を再開し、地域代表や市役所、地域包括支援センターの職員と改めて意見交換を行いました。
- ・独居利用者の役所での手続きのため移動や見守りの支援を行いました。
- ・家族や本人が地域で安心して過ごすことができるよう、感染症対策を実施しながら、訪問看護や訪問診療との連携の他、昔馴染みの診療所への送迎や連携を行いました。
- ・感染症対策を実施しながら地域での買い物や理美容の支援を行いました。
- ・6月からさくらカフェを再開しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・事業所内の研修にて職員個々の目標を織り交ぜながら職員の質の向上に努めました。
- ・通い・訪問・泊まりとどれかに偏ることなく柔軟に支援ができる職員を目指し皆で話し合いました。
- ・今学びたい事、今必要な知識等を現場で話し合い、方法を工夫しながら毎月研修を重ねました。
- ・報告や話し合いの優先順位をよく考え、静観できるものと今すぐに対応すべきのものとを判断できるよう皆で訓練しました。
- ・業務内容を定期的に見直し、働きやすい環境を目指して職員一同話し合いを重ねました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・地域包括支援センターの職員や病院相談員との面談を設け、新規利用者獲得に努めました。
- ・一度紹介いただいた所へは報告や相談を定期的に行い次につながるよう努めました。
- ・事業所を紹介するチラシを新たに作り直し居宅支援事業所へ配りました。
- ・節電や、日用品の節約を通してコスト削減に努めました。
- ・業務改善を図り、業務過多を減らすべく随時内容を変更しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間登録者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	3	3	2	2	2	3	5	5	4	6	4	4	43
女性	19	19	17	18	19	19	17	19	19	18	18	19	221
合計	22	22	19	20	21	22	22	24	23	24	22	23	264

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
R03(2021)年度	通い			1,006	528	711	934	675	3,854
	宿泊			488	128	178	624	522	1,940
	訪問			1,612	944	712	545	915	4,728
R04(2022)年度	通い		12	986	508	691	904	658	3,759
	宿泊			471	101	170	607	505	1,854
	訪問		180	1,458	765	712	369	730	4,214
R05(2023)年度	通い			342	954	449	1,043	1,253	4,041
	宿泊			20	415	334	643	324	1,736
	訪問			530	483	277	1,068	1,871	4,229

施設名 昭和郷訪問介護センター

【事業実績】

事業名	登録者数(3月31日現在)			男女比率	平均要介護度
	一般	さくらガーデン	合計		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	17	4	21	1:4	2.9
夜間対応型訪問介護	4		4	1:3	3.3
訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業		4	4	1:3	1.5/支1.5
自費サービス事業	—	—	—	—	—

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の生活習慣や生活ペースに合わせた支援内容や方法を検討し、居宅サービス計画を基に、計画作成担当者、サービス担当責任者が計画書を個々に作成し、統一した方法できめ細かい支援に努めました。利用者の自立につなげるため、能力の見極め、環境の整備、意欲を引き出す等、利用者の生活に寄り添った支援を続けました。
 ・要支援者の生活を支えるためのパートナーとして、日常より適宜相談及び情報提供を行うことで緊密で良好な関係を保てるように努力しました。
 ・新型コロナウイルス感染症が5類となりましたが、訪問時のマスク着用、アルコール消毒実施などは継続し感染症対策を実施しました。

◆ 地域社会への取組み

・利用者の相談内容に応じられるよう、多様な地域サービス情報を収集して提供しました。6か月毎に開催する介護・医療連携推進会議では、9月、3月に開催し在宅生活について情報を共有することができました。
 ・地域包括支援センター、訪問看護事業所、行政とコミュニケーションを図り、数少ない市内の事業として、退院などの自宅復帰の支援や、医療機関と連携して自宅でのターミナルケアを行うなど、地域社会へ貢献しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・福祉サービスに従事する者として全職員が法令遵守の理解と促進を深めるよう複合施設として研修を行いました。
 ・在宅介護の専門職としてさらなる資質の向上を目指し、月1回の研修(複合施設合同研修を含む)、他機関での研修に積極的に参加するとともに空き時間を利用して勉強会を実施しました。人事考課を通じて職員一人ひとりが将来への展望を見通して努力し、介護のやりがいや将来のビジョンを持てるよう働きかけました。
 ・新規採用者や異動転入者には、入職時に個々の能力・経験に合わせてオリエンテーション、同行訪問などを行い、訪問介護の基礎の習得に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・配置人員の補充ができず、職員体制と支援体制の不安定さは払拭できませんでしたが、積極的に短期利用の需要に応える形で利用者の獲得に努めました。居宅介護支援事業所、ケアマネージャーとの関係が途切れないよう情報の共有を図りました。
 ・総合ケアマネジメント加算の算定も続け、安定した収益源としました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	事業	要介護度別内訳						合計	
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4		要介護 5
R03年度 (2021)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護			2	5	6	4	1	18
	夜間対応型訪問介護			1	1	1			3
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業		2	2	1				5
R04年度 (2022)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護			2	6	8	3		19
	夜間対応型訪問介護			1		1	1		3
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業	2		2	1		1		6
R05年度 (2023)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護			1	7	7	3	2	20
	夜間対応型訪問介護				1	1	2		4
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業	1	1	1	1				4

令和5(2023)年度 事業報告 (サービス付き高齢者向け住宅)

施設名 さくらガーデン

定員 49 室

【事業実績】

施設利用率	96.4	%	* 目標利用率 94.6%
男女比率	1:3		
平均年齢	80.9	歳	(最高 99 歳 / 最低 61 歳)
平均要介護度	要支援 2		
平均入居期間	3.38	年	(最長 6.1 年)
年間入居	8	名	
年間退去	11	名	
主な入所理由	ソフトな見守りの下、自立した生活を送りたい		
主な退所理由	認知症、要介護状態の進行		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・入居者との交流機会としての「さくら町会」は新型コロナウイルス感染症予防に留意しながら毎月開催しました。
- ・毎月「さくら便り」を発行し、事務連絡や住宅を利用する上での注意事項などをアナウンスすることで、入居者の方との情報共有を図りました。
- ・認知症の症状が目立つ方の対応として、より安心した生活を送っていただけるよう、関係機関と連携したサービスの調整や、必要に応じて住み替えを支援しました。
- ・支援が必要な方には、法人内で利用可能なサービスがあるかを検討し、都度調整を行いました。

◆ 地域社会への取組み

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため自粛せざるを得なかった地域貢献事業である「さくらカフェ」を再開し、多くの入居者が出席しました。
- ・移動販売車を利用し、入居者の買い物の機会を増やすだけでなく、地域の方にも活用していただくことで、地域との交流の場を提供しました。

◆ 人材の育成と職場環境の整備

- ・サービス付き高齢者向け住宅協会の実施するオンライン研修に積極的に参加しました。
- ・市内の高齢者住宅を視察し、管理者間のつながりを構築することができました。
- ・食事提供業者や厨房機器取り扱い業者を交えて厨房スタッフの情報交換を行い、学びの場としました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・市内の病院、介護老人保健施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所に限らず、市外にも営業活動を拡大した結果、一時期入居者が100%になるなど成果を上げることができました。
- ・支出額が高いものの中から不要なものを挙げ、可能なものを削減しました。
- ・資金収支上、プラスの決算となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月末人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	15	15	15	16	16	14	15	14	14	14	14	14	176
女性	34	33	32	32	32	31	32	33	33	31	31	32	386
合計	49	48	47	48	48	45	47	47	47	45	45	46	562

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	要介護度別内訳							
		自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
R03(2021)年度	46	9	4	3	14	13	1	2	
R04(2022)年度	49	10	6	4	18	7	2	1	1
R05(2023)年度	46	11	6	5	16	5	3		

3. 障害者支援系施設の経営

障害者支援施設、心身障害者福祉ホーム、心身障害者福祉センター、共同生活援助事業並びに特定相談支援事業等を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・虐待防止、指針に基づく身体拘束等の適正化に向けて、外部講師による研修などを実施し、職員一人ひとりの人権意識の向上と組織全体としての透明化・健全化を図り、不適切な支援が行われないよう取り組みました。

・利用者一人ひとりの意思決定が尊重された暮らしができるように、家族・相談事業所との連携を図りながら、個別支援計画に基づいた質の高いサービスの提供に努めました。活動においてもそれぞれの希望や個性等を十分に踏まえ、一人ひとりの自己表現の場となるよう支援の工夫に努めました。

・障害者支援施設において、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生しましたが、保健所をはじめとする関係機関との協力体制のもと、本会の他グループからは備品等を融通してもらいながら、また障害グループ全体でも応援職員を派遣するなど、感染症の収束へ向けて鋭意努力しました。通所施設においても利用者・職員の感染は生じたもの、家族・関係機関と情報を共有しながら感染拡大の防止、事業継続に努めました。

・感染症対策・自然災害等のマニュアルの整備及び想定訓練を行い、災害時に即応できる体制(事業継続)の強化に努めました。

◆ 地域社会への取り組み

・新型コロナウイルス感染症の分類が5月より2類相当から5類に移行したことを受け、感染対策を講じながら施設の機能を生かしたイベント、講演等を実施しました。また、自立支援協議会や福祉連絡会などの会合も対面式での開催が多くなり、これまでのコロナ禍による弊害なども検討しながら、継続して地域の課題等の把握・解決に努めました。

・施設と地域が交流するためのお祭り等は、地域状況・時期・時間・規模等を考慮しながら安心して参加できるように実施しました。また、障害者の理解・合理的配慮の推進となるよう地域に向けた活動も活発化させ、地域に根差した施設となるよう取り組みました。

・社会貢献事業としては、中間就労の受入れ(引きこもり等で就労が困難な方の支援)はコロナ禍により要望に応えることはできませんでしたが、自主生産活動における製品(パンなど)の提供、福祉何でも相談やフードドライブなどできる範囲で実施しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・管理職候補者研修やリーダーを育てるための研修(施設間交流研修など)、各職員のステージに合わせた研修に参加し、計画的な人材育成を進めました。

・コロナ禍においても、リモート研修を活用することで、福祉従事者としての知識やスキルを学び、使命感・責任感・やりがいを持つよう取り組みました。また、キャリア採用職員対象の研修も実施し、自分たちの仕事に誇りをもって従事できるよう職場風土の醸成に努めました。

・グループホーム利用者の生活が豊かなものとなるよう、世話人研修への参加を行い資質の向上に努めました。グループホームでの感染症防止対策を講じる必要性から、世話人間交流会は多くできませんでしたが、互いに意見を交わし理解を深めることで働きやすい関係・環境となるよう取り組みました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取り組み

・新型コロナウイルス感染症罹患、2類相当から5類への変更に伴う私用(旅行など)による欠席等による稼働率の低下(通所施設)、さらには物価高騰による光熱水費等の値上げにより厳しい運営状況となりましたが、行政による物価高騰対策支援金の活用やコスト削減を図ることで、安定した施設運営に努めました。

・報酬申請における新たな加算の申請・見直しなどを実施し、また、様々な寄付等を受け入れ、健全な運営と効率的な経営に努めました。

・豊島区における東部・西部障害支援センター事業の受託運営は、契約期間満了により今年度をもって終了となりました。

・令和7年4月開所予定の杉並区の都有地活用による障害福祉サービス事業における施工会社が決定し、定例会等も実施しながら開設に向けての準備を進めました。

1 障害者支援施設

障害者総合支援法の多機能型施設として障害のある方への施設入所支援・生活介護(旧法:更生)・就労移行支援・就労継続支援B(旧法:授産)・短期入所事業を行いました。

2 心身障害者福祉ホーム

豊島区内の心身障害者で特定の要件を満たす方へ、日常生活における援助等を行い自立生活を助長しました。また、併せて緊急一時保護も行いました。

3 心身障害者福祉センター

東久留米市内の居宅で生活している15歳以上の心身障害者の方が、住みなれた地域社会の中で安心して生活が送れるように各種サービスを提供し、自立助長及び介護にあたる家族の福祉向上を図りました。

4 共同生活援助(グループホーム)

障害のある方に対して、主に夜間において、共同生活を営む住居で相談、入浴、排せつまたは食事の介護、その他の日常生活上の援助を行いました。

5 特定相談支援事業

障害のある方が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)を行いました。自立した生活を支え、障害者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けたケアマネジメントを行い、きめ細かく支援しました。

令和5(2023)年度 事業報告 (障害者支援施設)

施設名	さやま園		
定員	96	名	
	短期入所専用	4	名
	施設入所支援	96	名
	特定相談支援事業	—	名

【事業実績】

施設利用率

施設入所支援	96.9	%	*施設入所支援目標利用率 97.8%
生活介護	97.7	%	
小計	98.5	%	
短期入所	5.6	%	
特定相談支援事業	153	名(年間延利用者数)	

平均障害程度区分

施設入所支援	5.33
生活介護	5.31

平均年齢 55.3 歳 (最高 80 歳 / 最低 26 歳)

平均在所期間 20.9 年 (最長 58 年)

年間入所	1	名
年間退所	3	名

主な入所理由	家庭で支援困難
主な退所理由	療養型病院移行 家庭の事情

◆利用者支援サービスの充実

・今年度は夏、冬と4度の新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、利用者の日課や行事にかなり影響が出る事態となりました。昨年度同様保健所や看護協会から備品等の確認やゾーニングについて指導を受ける一方で、障害グループの応援協力もあり、その都度対応策を模索しながら乗り切ることができました。今後も様々な感染症対策のマニュアル等の見直しを行い、安全な生活の提供に努めます。

・コロナ禍においても窮屈とならず楽しい生活となるように、できる限り講師等による活動を続けるとともに、近隣のお店への買い物・昼食デリバリー利用などを実施しました。感染状況を鑑み、行事においてはアイデアを出し合いながら、2部制やグループごとに実施しました。行事数を増やして楽しんでもらえるよう工夫しました。

・高齢化、重度化への対策として、引き続き全利用者対象にリハビリテーションを行いました。さらに利用者が安全に介護を受けられるように、また職員も安全に介護できるように、介護器具を導入しました。利用者の高齢化に合わせ、高齢施設等移行に向けての話し合いを継続してきました。

・地域移行への取組みについては、GH担当者による研修を実施し知識の習得を図りました。

・災害対策として、地震・火災への訓練(グループ毎による部分訓練)を多く取り入れ、利用者の災害意識も高まるよう実施しました。また今年度は専門家の意見を取り入れ、有事に即した対応ができるようBCPを見直しました。

◆地域社会への取組み

・新型コロナウイルス感染症のため、近隣の施設等での作品販売、ワークショップ等は中止となり、近隣地域のレストラン等への外食も自粛せざるを得ない状況となりました。しかし年度末一部のグループについては外食を実施するなどできる範囲での地域との交流、ふれあいの機会を作りました。

・社会貢献事業として、東村山市を通じて、中間就労者へ日中活動の補助などの働く体験の場の提供を継続していましたが、コロナ禍のため中止となりました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・コロナ禍での外部研修が少なくなったことで、新人研修や中堅研修など、研修内容の細分化、少人数での研修を実施し、多くの方が参加できるよう工夫しました。特に虐待防止研修やグループワーク、ケースカンファレンス、事例検討会等は定期的に実施し、職員一人ひとりの意識とスキルの向上(人材育成)を図り、組織全体としての底上げを図りました。

・職員の得意技術を活かした研修(介護等)を実施しました。また、多くの職員がリモート研修に参加できるよう環境整備を図りました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・予算計画に基づき、適宜確認を行いながら、適切に予算を執行しました。

・令和6年度報酬改正へ向け、新しい加算の取得が可能か検討しました。

・利用者の一時帰宅は12月のみで他の期間は中止となりましたが、療養型病院への移行や入院が増え欠員が続いているため、稼働率が下がる結果となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
見守りカメラ・防犯カメラ	2,398	BCP作成サポート	515
1F汚物処理機	930	1F汚物処理機	1,001
食堂昇降テーブル(×5)	515	リハビリ機器	553
リハビリ機器	831		
購入等合計	4,674	購入等合計	2,069
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
本棟食堂床改修工事	6,215	本棟食堂床改修工事	5,599
非常発電機用蓄電器	715	非常発電機用蓄電器	715
		見守りカメラ・防犯カメラ	2,398
		南棟エアコン交換工事	2,310
		食堂昇降テーブル(×5)	358
購入等合計	6,930	購入等合計	11,380
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
南棟エアコン交換工事	2,398		
PC(×16)	3,854		
本棟昇降機修繕工事	571		
購入等合計	6,823	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		PC(×16)	2,980
		本棟昇降機修繕工事	571
購入等合計	0	購入等合計	3,551
年間合計	18,427	年間合計	17,000

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 施設入所支援のみ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
女性	71	71	71	71	71	71	69	69	69	68	68	68	837
合計	96	96	96	96	96	96	94	94	94	93	93	93	1,137

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 施設入所支援のみ

	実人員	年齢別内訳								
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	55～
R03(2021)年度	95		1	5	9	5	6	17	7	45
R04(2022)年度	95			5	8	5	7	13	9	48
R05(2023)年度	93			5	5	8	5	10	11	49

令和5(2023)年度 事業報告 (障害福祉サービス事業)

施設名 **小茂根福祉園**

定員	生活介護	40	名(通所)
	就労継続支援B	30	名(通所)
	計	70	名

【事業実績】

施設利用率

生活介護	76.3	%	
就労継続支援B	73.3	%	
計	75.0	%	* 目標利用率 80.0%

平均障害程度区分

6.0

平均年齢

37.8 歳 (最高 71 歳 / 最低 19 歳)

平均通所期間

16.9 年 (最長 41 年)

年間入所

0 名

年間退所

2 名

主な入所理由

主な退所理由

入所施設への移管及び転居の為

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・感染症防止対策を徹底し、安全・安心できる環境を整えました。また、飲食店営業許可及び菓子製造許可を取得し利用者の活躍の場につなげました。
- ・虐待及び不適切な支援の防止に取り組みました。
- ・個別支援計画に基づき、利用者の意思決定を尊重した支援を行いました。自立した生活(ひとり暮らし)をするため関係機関と連携し「その人らしい普通の暮らし」実現に取り組みました。
- ・自主生産品、アート活動、コーヒーなど様々な取り組みを工夫し、工賃アップに取り組みました。
- ・事業継続計画(BCP)に基づき、災害時に即応できる防災対策、防犯体制の充実、感染症対策の強化に取り組みました。

◆ 地域社会への取組み

- ・近隣施設や関係機関、各種団体企業と交流を深め、地域共生社会の実現に向けて協働しました。近隣の小学校とはレクリエーション等を通して交流会(年6回)を実施しました。
- ・SNS運用を開始し、施設の魅力を発信しています。
- ・ボランティアを積極的に受け入れ、地域の方々の施設への理解が深まるよう、また地元の中学生に職場体験の場を提供するなど、地域に開かれた施設として取り組みました。
- ・TURNLANDプロジェクトに参加し、利用者とアーティストとの交流につなげました。
- ・企業とのコラボ企画として、きらりいいね展(作品展)を3回開催しました(吉祥寺・板橋)。
- ・板橋区社会福祉法人施設連絡会、東京都社会福祉協議会通所施設分科会、東京都発達障害支援協会等に参画して地域ニーズに応える活動として、フードドライブ等の社会貢献に取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・園内の職員交換研修の実施や内部研修も積極的に行い、相互の事業を理解しあい、チーム小茂根として意識改革を行いながら事業運営に取り組みました。
- ・専門性と倫理観の高い職員育成のためにオンラインを積極的に活用して学びの機会を確保し、業務分掌の適正化・効率化に努めました。
- ・ノー残業の実施(月1回)や有給休暇等の取得の励行、働きやすい職場への環境改善に努めました。
- ・エルダー制度を活用し、新規職員の育成及び業務の標準化に取り組みました。
- ・各種大学・専門学校から実習生を受け入れ福祉人材の育成につなげました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・板橋区は令和3年11月に「区立福祉園の民営化に関する考え方」を出しています。本園のあり方については板橋区の動向に注視しながら、法人本部や利用者家族等と密に連携し対応します。
- ・職員一人ひとりが運営費の歳出歳入に関して省エネとコスト管理の意識を持ち、費用対効果を意識して適正かつ効率的な経費の執行に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
空調設備改修工事(板橋区)	27,240	空調設備改修工事(板橋区)	27,240
玄関入口改修工事(板橋区)	4,235	玄関入口改修工事(板橋区)	4,235
購入等合計	31,475	購入等合計	31,475
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		生活フロア収納棚北側改修工事	1,298
		施設内電話設備交換工事	1,298
		車内置き去り防止装置	1,023
購入等合計	0	購入等合計	3,619
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
シャワー室改修工事	1,500	生活フロア収納棚東・南側改修工事	2,432
購入等合計	1,500	購入等合計	2,432
年間合計	32,975	年間合計	37,526

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	499	488	560	501	507	506	499	512	495	457	461	462	5,947
女性	117	116	136	112	121	116	125	123	124	125	127	128	1,470
合計	616	604	696	613	628	622	624	635	619	582	588	590	7,417

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R03(2021)年度	40		7	10	10	5	4	2	2
R04(2022)年度	40	1	7	8	12	4	5	2	1
R05(2023)年度	39	1	4	9	12	5	5	2	1

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	284	285	304	286	282	270	258	269	261	251	235	246	3,231
女性	178	187	201	194	183	164	197	161	173	151	158	168	2,115
合計	462	472	505	480	465	434	455	430	434	402	393	414	5,346

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R03(2021)年度	27		3	5	6	1	3		9
R04(2022)年度	26		3	4	6	1	3		9
R05(2023)年度	25		2	3	6	2	3		9

令和5(2023)年度 事業報告 (障害福祉サービス事業)

施設名	立川福祉作業所					
定員	就労移行支援	6	名(通所)	特定相談支援事業	—	名
	生活介護	30	名(通所)			
	就労継続支援B	44	名(通所)			
	計	80	名			

【事業実績】

施設利用率

就労移行支援	5.1	%	
生活介護	75.0	%	
就労継続支援B	107.6	%	
計	87.7	%	* 目標利用率 90.0%
特定相談支援事業	313	名(年間延利用者数)	
平均障害程度区分	3.8		
平均年齢	35.4	歳	(最高 67 歳 / 最低 19 歳)
平均通所期間	12.4	年	(最長 52 年)
年間入所	5	名	
年間退所	3	名	
主な入所理由	他施設からの移行		
主な退所理由	就職、他施設の利用		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・企業とのパートナーシップのもとより高い工賃の支給に向けて取り組み、目標の工賃額を達成しました。また誰もが主体的に取り組める作業種の充実を図ることで、多様な働くニーズを両立しました。
- ・知的障害以外の利用ニーズはありませんでしたが、精神障害者を対象にした通所施設の見学や研修に参加し、サービス提供にあたっての配慮事項やどのような日中活動(作業種)が提供されているか情報収集することで、多様な障害特性への理解を深めました。
- ・個別支援計画に沿った支援を提供し、利用者の思い描く自己実現につなげました。

◆ 地域社会への取組み

- ・自立支援協議会をはじめとする立川市内のネットワークに参画し、障害者の重度・高齢化などの地域の課題解決に向けて連携しました。
- ・BAKUBAKUを地域のタウン誌に掲載し開店7周年イベントを開催することで集客につなげました。ロスパンは定期的に立川市内の生活困窮者を支援するNPO法人に提供しました。
- ・立川市社会福祉法人地域貢献活動推進ネットワークに参加しました。地域課題の一つである貧困家庭の支援として、フードドライブの協力を立川福祉作業所より提案し採用されました。具体的な取り組みは令和6年度4月より始まります。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員が互いに敬意を持ち、理解しあうことでハラスメントが起きにくい職場環境を整えました。
- ・施設サービスの目的や目標を明確にし職員間で共有しました。その達成に向けて職員間のチームワークが高まりました。
- ・積極的な研修の受講や資格取得の奨励により、職員の支援力の向上につながりました。
- ・第三者評価を通して施設の課題を抽出し、その解決とともに施設サービスの向上に取り組みました。
- ・障害グループで施設間交流研修を実施しました。他施設での実践的な支援や取組みを学ぶ機会となり、職員の成長につながりました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・特別支援学校や相談支援事業所等への情報提供や定期的な巡回を行い、利用者数の充足につなげました。
- ・受注作業の効率化と企業への営業や単価交渉を重ねることで平均工賃月額の上昇に取り組みました。令和5年度は、従来の平均工賃月額に応じて評価する報酬体系を選択しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	279	275	294	289	308	292	319	330	339	336	333	370	3,764
女性	115	121	132	107	110	113	159	173	179	171	154	168	1,702
合計	394	396	426	396	418	405	478	503	518	507	487	538	5,466

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R03(2021)年度	26			3	5	3	2	7	6
R04(2022)年度	23			2	5	2	1	8	5
R05(2023)年度	31		1	2	6	3	3	7	9

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	666	672	717	670	677	646	682	640	598	569	583	611	7,731
女性	322	318	344	340	343	332	316	300	291	288	280	304	3,778
合計	988	990	1,061	1,010	1,020	978	998	940	889	857	863	915	11,509

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R03(2021)年度	45	2	9	13	12		5	1	3
R04(2022)年度	47	5	9	11	11	2	4	2	3
R05(2023)年度	46	1	14	10	8	5	5	2	1

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労移行支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性													0
女性								4	19	18	17	17	75
合計	0	0	0	0	0	0	0	4	19	18	17	17	75

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労移行支援

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R03(2021)年度	2	1	1						
R04(2022)年度	1				1				
R05(2023)年度	1			1					

令和5(2023)年度 事業報告 (障害福祉サービス事業)

施設名	東村山生活実習所		
定員	生活介護	30	名(通所)
	就労継続支援B	10	名(通所)
	計	40	名
	短期入所専用	2	名

【事業実績】

施設利用率

生活介護	98.6	%	* 目標利用率 96.8%
就労継続支援B	87.2	%	
小計	95.8	%	
短期入所	17.5	%	

平均障害程度区分

生活介護	5.63
就労継続支援B	3.10

平均年齢 43.1 歳 (最高 74 歳 / 最低 19 歳)

平均通所期間 11.3 年 (最長 17.9 年)

年間入所 4 名

年間退所 1 名

主な入所理由

主な退所理由

高齢化に伴う通所困難

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・新型コロナウイルス感染症の2類相当から5類への変更(5月)後も、消毒や換気など基本的な感染予防対策を継続し、安全な活動ができるように努めました。年間では数人の利用者・職員が罹患することはありませんでしたが、広がることなく継続した運営ができました。
- ・職員の専門性を高めるために、個々に応じた研修参加の機会を多く設けました。内部研修では虐待防止研修を始め、適切な支援・気づきをテーマとしたグループワークを行い、虐待防止及び権利擁護の意識・支援の向上を図りました。
- ・利用者及び保護者の想いを汲みとりながら個別支援計画書を作成し、個々人の自己実現に向けて取り組みました。また社会性の向上が図れるように様々な場面での支援を行いました。

◆ 地域社会への取組み

- ・製菓等の販売やリサイクル活動などを通じて、地域と関わりを持ち、利用者の社会参加を促進しました。カフェの再開は2年目となり、地域の方や障害施設(学校など)の方の利用者も増え、障害者理解と交流の場、また利用者の活躍の場となりました。
- ・地域の関係機関との協働については、リモートによる会議等を通し、地域の課題の把握等、情報共有を図りました。
- ・特別支援学校等と連携し、進路先や体験の場として、また近隣の他の事業所から、作業能力低下による通所の変更先として実習を受け入れるなど、柔軟な体制でサービスの提供を図りました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・リモート研修を積極的に活用し、必要な知識やスキルの習得、専門職としての意識の向上を図りました。参加者による研修報告の機会を設け、学んだ知識や技術等を職員間で共有しました。内部研修では、グループワークを中心とした研修を取り入れ、互いに気づきを得ながら支援力の向上へとつながるよう研鑽に努めました。
- ・ワークライフバランスの充実に向けて、ノー残業デー・有給休暇等の取得の励行、業務の効率化に取り組みました。また、子育て世代や親の介護等を必要としている職員への協力体制も整え、働きやすい環境を整備しました。
- ・感染症対策を行いながら、養成校から実習生を受け入れ、次世代の福祉人材の育成に寄与しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・1名の方が高齢に伴う課題から利用困難となり退所となりましたが、年度当初に3名の利用者を新たに迎え入れ、定員超過による運営を行ったことで安定した稼働率となりました。
- ・加算の見直し等を行うことで収入の増額が図られました。また、物価高騰による影響を最小限に抑え、省エネ・コスト削減に努めながら安定的な運営に取り組みました。
- ・特別支援学校や相談支援事業所などからの相談に応じ、積極的に実習生を受け入れました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
軽自動車	985		
購入等合計	985	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
防犯カメラシステム	673	防犯カメラシステム	539
購入等合計	673	購入等合計	539
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
冷凍冷蔵コールドテーブル	941	冷凍冷蔵コールドテーブル	547
車両置き去り防止安全装置(×4)	664	車両置き去り防止安全装置(×4)	664
購入等合計	1,605	購入等合計	1,211
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	3,263	年間合計	1,750

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	258	287	299	281	291	289	291	289	269	266	261	271	3,352
女性	324	331	351	317	323	361	365	347	318	299	294	297	3,927
合計	582	618	650	598	614	650	656	636	587	565	555	568	7,279

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R03(2021)年度	33		1	6	5	5	3	3	10
R04(2022)年度	30			5	3	7	3	3	9
R05(2023)年度	32	1		2	6	6	3	2	12

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	90	96	94	80	94	91	89	85	89	83	77	80	1,048
女性	93	92	100	91	95	96	90	93	91	86	81	89	1,097
合計	183	188	194	171	189	187	179	178	180	169	158	169	2,145

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R03(2021)年度	10	1		3	2		2	1	1
R04(2022)年度	9	1		1	3		1	2	1
R05(2023)年度	10		1	1	3		1	2	2

令和5(2023)年度 事業報告 (心身障害者福祉ホーム)

施設名 さくらんぼ

主な事業	長期自立援護	特定相談支援事業
	短期自立訓練	移動支援事業
	緊急一時保護	自立生活援助事業
	レスパイト	豊島区東部・西部障害支援センター

【事業実績】

長期自立援護事業					
利用実人員	45	名	最高	56	歳 / 最低 42 歳
年間延人員	1,297	名	男女比率	4:1	
短期自立訓練事業					
利用実人員	551	名	最高	74	歳 / 最低 15 歳
年間延人員	1,080	名	男女比率	7:3	
緊急一時保護事業					
利用実人員	15	名	最高	56	歳 / 最低 15 歳
年間延人員	159	名	男女比率	4:1	
レスパイト					
利用実人員	136	名	最高	74	歳 / 最低 20 歳
年間延人員	275	名	男女比率	3:2	
移動支援事業					
利用実人員	45	名	最高	76	歳 / 最低 36 歳
年間延人員	54	名	男女比率	1:2	
特定相談支援事業					
相談件数	31	件			

◆ 利用者支援サービスの充実

・次年度からの豊島区地域生活支援拠点等事業を進めるための情報収集及び準備を行い、新たな緊急一時保護の体制及び相談支援体制を検討しました。
 ・感染症並びに災害対策として、さくらんぼを拠点とする障害福祉施設間の包括的な事業継続計画(BCP)を作成し、体制整備を図りました。
 ・利用者の多様な生活状況や障害特性を考慮し、希望する地域生活を継続できるよう意思決定に基づく支援を提供しました。
 ・日帰りバス旅行や、電車でのグループ外出を4年ぶりに再開し、利用者満足度の高い行事となりました。
 ・豊島区東・西障害支援センターでは、一体的な運営により、滞りなくサービスを提供しました。また計画相談では、さくらんぼを含め3か所の事業所が協力・連携し充実した相談支援ができるよう努めました。
 ・令和7年度に豊島区の施策として行う大規模改修に向け、設計に関する協力や利用者説明会を開催し準備を進めました。

◆ 地域社会への取組み

・地域公益活動としての「福祉なんでも相談」を継続しました。障害の有無や居住地域を問わず相談を受け、関係機関と結ぶなど取り組みました。また種別の違う関係施設と定期的に情報共有を図り、連携体制の構築に努めました。
 ・地域支援協議会や障害福祉計画推進会議等、地域における会議に積極的に参加し、障害福祉事業の充実に向け協働し取り組みました。
 ・祭や外部団体との協働によるイベントの開催を増やし、障害者理解の促進及び地域交流につなげました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員個々のキャリアステージや職能に応じた法人研修、外部研修に参加しました。また地域の他法人施設との交流研修や見学会を実施し、人事交流を図りました。
 ・さくらんぼ、グループホーム、東西障害支援センター合同で虐待防止に関する研修や、外部研修に参加した職員による伝達研修、定期的なセルフチェックを実施し、権利擁護への意識向上を図りました。
 ・4S活動とKY活動の一環として、気づきを「見える化」することにより、事故防止につなげました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・指定管理期間の延長(令和5年度4月～令和7年度9月)の期間のため、令和4年度予算の横引き予算となり例年より厳しい状況でしたが、これまで以上に省エネ、コスト削減意識を持ち運営しました。
 ・豊島区東・西障害支援センターの受託事業は、今年度をもって終了となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度延人数)

	利用人員							
	長期自立支援		短期自立訓練		緊急一時保護		レスパイト	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R03(2021)年度	48	1,460	483	888	21	291	71	130
R04(2022)年度	47	1,404	536	1,006	19	157	114	197
R05(2023)年度	45	1,297	551	1,080	15	159	136	275

令和5(2023)年度 事業報告 (心身障害者福祉センター)

施設名 **さいわい福祉センター**

主な事業	地域活動支援センター事業	生活介護
	都型ショートステイ事業(宿泊)	就労移行支援事業
	日中一時支援事業	居宅介護事業
	就労支援事業	特定相談支援事業

【事業実績】

	事業名	実人員	延人員	年齢		男女比率
				最高	最低	
自立支援事業	地域活動支援センター	50	511	52	21	2:1
	身体障害者機能訓練	113	249	64	20	1:1.2
介護支援事業	ショート・緊急・日中一時支援	764	1,526	56	3	1.3:1
	入浴サービス	117	311	60	20	1:1
居宅生活支援事業	同行援護(視覚障害)・移動支援	300	1,409	88	31	1.3:1
	居宅介護支援	24	250	74	68	1:1
育成事業	グループ育成	48回	231	—	—	—
	講座・講習	109回	714	—	—	—

障害者地域自立生活支援事業

相談内容	件数	利用者内訳	延人員
相談事業(一般)	116	身体障害	522
特定相談	1,168	知的障害	974
就労支援(生活支援)	169	その他	349
“(就労支援)”	677		
計	2,130	計	1,845

◆ 利用者支援サービスの充実

・東久留米市における心身障害者の支援拠点の一つとして、相談や緊急時の受入れなどに柔軟に対応しました。また、センター事業で担えない相談等については、関係機関への紹介や情報提供を行いケース会議に参加するなど、切れ目のない支援に努めました。
 ・新型コロナウイルス感染症の分類が緩和されましたが、医療的ケアの必要な重度の利用者がいるため、感染対策を継続し施設内感染を防ぐことができました。
 ・障害者虐待防止法や身体拘束、意思決定支援などについて、外部講師を招き研修会や内部研修を行い、職員の人権に対する意識の向上と倫理観を高められるよう取り組みました。
 ・センターで対応できる医療的ケアのガイドライン(通所・日中一時支援、ショートステイ)や申請方法等の見直しを行いました。

◆ 地域社会への取組み

・障害者フットサル大会や市内福祉関係の団体が集まる夏祭りを4年ぶりに開催し、安全に実施することができました。これは地域の活性化や交流を広げる機会にもなりました。
 ・外部講師を招き市内外の福祉施設、相談支援事業所、家族を対象に地域福祉講座を開催しました。また、都のデジタル活用促進事業を活用し市障害福祉課と連携しながら視覚・聴覚障害者向けのスマホ体験教室を行いました。
 ・特別支援学校の保護者向けに出前講座を行いました。また、近隣の高等学校からの依頼で学生を対象に福祉についての授業や介護機器体験の場を設け、福祉や仕事について興味・関心を持っていただく機会を作りました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・外部講師を招き、介護技術研修や障害特性についての研修、同行援護ヘルパーのフォローアップ研修など基礎、応用を学び個々のスキルアップに努めました。
 ・法人内施設間交流研修や近隣の施設見学を実施しました。外部施設へ視野を広げることで新たな学びや気づき等得られる機会となりました。
 ・内部研修、ミニ勉強会開催など毎月実施し、職員個々の知識、スキルアップにつなげました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・相談支援事業、就労支援事業の委託料に係る消費税の取扱について課税対象となることが分かったため、市と協議し対応を進めています。
 ・施設の老朽化により検査で指摘のあった外壁等の補修工事は市へ依頼し改修しました。
 ・人件費、物価高騰により支出が増えましたが、省エネ、再利用などコスト削減に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度延人数)

	自立支援事業				介護支援事業			
	地域活動支援		機能訓練		ショート・緊急		入浴	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R03(2021)年度	55	739	106	193	734	1,860	126	345
R04(2022)年度	60	687	136	231	726	1,652	132	364
R05(2023)年度	50	511	113	249	764	1,526	117	311

	居宅生活支援事業				育成事業			
	同行援護・移動支援		居宅・移動支援		グループ育成		講座・講習	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R03(2021)年度	209	969	56	358	21	116	59	369
R04(2022)年度	296	1,316	24	331	45	325	115	761
R05(2023)年度	300	1,409	24	250	48	231	109	714

令和5(2023)年度 事業報告 (共同生活援助事業)

施設名 アミニティ富士見

定員 52 名

【事業実績】

利用率 91.8 %

◆ 利用者支援サービスの充実

・意思決定支援・合理的配慮に基づき、利用者の意向を尊重した個別支援計画を作成し支援しました。グループホームが一人ひとりにとっての家庭であることを強く意識し、和やかで落ち着ける雰囲気を大切にし、安定した生活が送れるよう支援しました。
 ・高齢利用者の後見制度利用や高齢者施設への移行、ガイドヘルパーなどの外部人材を有効活用しながらそれぞれにあった豊かな生活が送れるよう支援しました。
 ・感染症対策を行いながら、防災・防犯訓練を計画的に実施し、有事に備え、安心して生活できる環境整備を行いました。また専門家の意見を取り入れ有事に即した対応ができるようにBCPを見直しました。

◆ 地域社会への取組み

・関係機関や近隣、地域との関係を深め、社会参加と自立した生活の支援に取り組みました。
 ・地域の防災訓練に参加し、地域の一員として社会に貢献できるよう努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

外部研修の受講を計画的に進めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・報酬改定や都加算見直しによる収益への影響を注視し、安定的に経営ができるよう取り組みました。
 ・都加算の補助要件となった第三者評価の受審及び世話人の外部研修受講を計画的に進めました。
 ・昨年度同様利用者の退寮等による空室時期が継続しています。高齢化に伴う退所やホームとの関係性が修復できず退所する方もおり、昨年度と比較して稼働率の低下となりました。

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R03(2021)年度	49		2	1	9	10	5	4	18
R04(2022)年度	48		1	1	9	10	6	3	18
R05(2023)年度	47			2	9	9	7	2	18

令和5(2023)年度 事業報告 (共同生活援助事業)

施設名 **レヂオンス巣鴨**

定員 **12** 名

【事業実績】

利用率 **100.0** %

◆ 利用者支援サービスの充実

・感染対策を継続するとともに、利用者の生活がコロナ禍以前のような充実したものとなるよう活動の機会を増やしました。一泊旅行の再開や、食事を伴う3ユニット合同交流会、利用者・職員・家族参加型コンサートの実施など、創意工夫した行事を実施しました。
 ・高齢化に伴う重度化が進んでいるユニットでは、介護保険サービスに加え、訪問看護サービスの活用を開始しました。利用者の健康管理と、世話人が安心して介護できる体制を作りました。その他、高齢化によるフレイル予防のため、楽しみながら外出することで歩行機能が維持できました。
 ・利用者を交えた防災・防犯訓練を計画的に実施し、安全に暮らせるよう環境整備を行いました。

◆ 地域社会への取組み

・地域の清掃ボランティア活動やウォークラリー等のイベントに積極的に参加しました。地域の一員として貢献するとともに、自己肯定感が高まるよう支援しました。
 ・豊島区や近隣施設が主催する祭等に参加し、楽しく交流を図りました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・世話人の高齢化及び待遇改善のため、委託の世話人を段階的に非常勤化しました。
 ・世話人が安心して働けるようさくらんぼのバックアップ体制を強化するとともに、グループホーム会議を定期的開催し、支援の悩みや支援方法を共有し、より良い支援につなげるよう取り組みました。
 ・さくらんぼ、障害支援センター合同で、虐待防止研修を開催しました。法人職員としての自覚を持ち、支援の確認と見直しを行う機会としました。またセルフチェックを定期的の実施したり、ユニット毎に話す機会を増やすことにより、権利擁護の意識を持ち続けられるよう取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・昨年度との比較では物価高騰の影響は抑えられ、全般的には安定かつ適正な運営ができました。
 ・令和6年度の報酬改定より基本報酬区分の見直しがされるため、対応する加算取得に向け、情報収集及び準備を進めました。

【施設利用状況】

利用者状況推移 (各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R03(2021)年度	12					1	2	2	7
R04(2022)年度	12						2	2	8
R05(2023)年度	12						2	2	8

令和5(2023)年度 事業報告 (共同生活援助事業)

施設名 夢オハナ

定員 12 名

【事業実績】

利用率 100.0 %

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症について、基本的な手洗い消毒や健康管理などの対策に継続的に取り組みました。利用者、職員への散発的な罹患はありましたが、集団感染には至りませんでした。
 ・各相談支援事業所と連携し、利用者個々の現状の課題を分析共有し、豊かな地域生活を送るための支援を検討しました。
 ・感染状況を鑑みながら、日帰り旅行を実施しました。また季節行事も感染対策を行いながら実施しました。

◆ 地域社会への取組み

新型コロナウイルス感染症の影響が少なからずありましたが、地域社会との関わりの中、利用者の自立と社会参加の促進に取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・定期的に世話人会を実施し、福祉動向や制度の理解を深め、世話人の育成と支援力の向上に取り組みました。
 ・世話人、支援員とも高齢化してきており、ゆるやかな世代交代が課題です。また多様化・複雑化する利用者ニーズに対応する支援力の向上も課題です。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

概ね利用率が良く、予定通りの収入となりました。安定的な経営につながりました。

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R03(2021)年度	12				9	2			1
R04(2022)年度	12				7	4			1
R05(2023)年度	12				7	4			1

4. 児童・女性支援系施設の経営

母子生活支援施設、児童養護施設、婦人保護施設、児童厚生施設を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者が安心できる生活環境の中で、自尊心を高め自己決定ができるよう支援に努めました。
・利用者本人の意向に添った自立支援計画に基づき、関係機関と連携し支援しました。
・防犯・防災及び感染症に対する事業継続計画の見直しと訓練を行い、利用者の安全・安心に取り組みました。

◆ 地域社会への取り組み

・感染症予防対策を行い、地域の子どもたちの居場所提供に努めました。
・地域こども学習室(通称ラ・スク)では、退所児童を中心に、居場所や学習支援、食事の提供を行いました。また、高校進学対象児童1名も希望校進学につながりました。
・昭島フードバンクとのつながりでNPO法人と情報共有の機会を持ち、食事の配布などの支援を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・個別育成計画により職員の育成に努めました。また、グループ研修をはじめ各種研修に参加し専門性の向上を図りました。
・支援を行う中で、職員相互に助言をし合うことで専門スキルと資質の向上を図るとともに、働きやすい職場環境づくりに努めました。
・福祉実習の学生を積極的に受け入れ、法人の魅力をアピールし人材確保に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取り組み

・母子生活支援施設サンライズ武蔵野は、広域利用の受入れを増やすため杉並区と協議を進めました。
・同サンライズ万世は、利用率向上に努め、90%以上を確保できました。
・児童養護施設双葉園は、新規グループホームに関して令和6年8月に開設予定の目途がたち、その準備を行いました。また、本園の機能転換に向けた計画策定に取り組みました。
・婦人保護施設いこいの家は、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行に備えた支援体制強化を図りました。
・昭島市児童センターばれっとは、委託費の有効活用を実現するため、諸経費を見直して安定的な経営をしました。

1 母子生活支援施設

18歳未満の児童を養育している母子家庭等の女性が児童と一緒に利用できる施設として、利用者の心身と生活を安定するための相談・援助を進めながら、自立を支援しました。

2 児童養護施設

乳児を除いて、保護者のいない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を養護し、あわせてその自立を支援しました。

3 婦人保護施設

性暴力やDV被害者等、困難な問題を抱えた女性への支援(精神的・医療的、また食を通じた健康管理、就労支援など)を入所時のみならず退所後も継続し、安全・安心な生活を見守りました。

4 児童厚生施設

児童に健全な遊びの場を提供し、健康を増進して豊かな情操を育てるための児童センターとして運営しました。

令和5(2023)年度 事業報告 (母子生活支援施設)

施設名 サンライズ武蔵野

定員 20 世帯

緊急一時保護 1 世帯

【事業実績】

施設利用率	79.4	%	* 目標利用率 90.0%	
入所	70.0	%		
緊急一時保護	18.3	%		
平均在所期間	1.8	年	(最長	2.4 年)
年間入所	7	世帯	15	名
年間退所	11	世帯	27	名
主な退所先	公営住宅、民間賃貸住宅			

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者の意思を尊重した自立支援計画を策定し、福祉事務所や子ども家庭センター等の関係機関と連携して自立を支援した結果、11世帯が退所しました。
- ・令和3年度から開始した所在地の杉並区以外の広域利用は、現在4世帯が利用しています。DV被害のため離婚調停、裁判等も難航し、精神的負担が大きく手厚い支援を求められました。
- ・学童には一人ひとりに合わせた支援を行い、特に高年齢児には個別にレクリエーションを実施しました。
- ・母親工作会を実施し、通常の半日補助保育のほか不調時にも補助保育を行うことで、母子の心身の安定を図りました。
- ・基本的な感染症対策を行ったうえで、生活に潤いが持てるよう行事を実施しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域のひとり親家庭に向けて電話相談を継続しました。
- ・グループとして職員が同援子ども学習室「ラ・スク」に参加し、地域の児童の学習支援、居場所支援を行いました。
- ・感染症対策を行ったうえで、他の事業所と地域行事を実施し、地域の親子との交流を進めました。
- ・アフターケアとして、退所後の世帯へ誕生日カードや寄贈品を送付し近況確認を行いました。
- ・奨学金受給中の退所児童との月1回面談、一人暮らしの退所児童宅訪問など退所後の生活を支援しました。
- ・地域の複数の団体から寄贈品をいただき、地域からも利用者支援がなされました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・法人のキャリアパス制度に基づき、キャリアアップと職員の処遇改善を進めました。
- ・職場内研修を実施し、職員の資質向上を図りました。
- ・グループの課題であるハラスメント・虐待について研修を実施し、職員間でその内容の共有を図りました。
- ・外部研修も再開されたことから、感染状況に留意してできる限り参加しました。
- ・感染対策を行ったうえで実習生を受け入れ、将来の福祉人材の育成に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・広域利用は当初2世帯の枠でしたが、広域枠を広げて利用率を上げるため杉並区と協議しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による特例措置により、暫定定員は解除され定員20世帯の措置費収入を得ることができました。
- ・措置費、環境改善補助金等により収入増を図り、感染対策も十分に実施できました。
- ・月別予算により適正な執行管理を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
居室エアコン(×10)	1,350		
購入等合計	1,350	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
		居室エアコン(×5)	665
購入等合計	0	購入等合計	665
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
PC(×14)	3,594	居室エアコン(×4)	532
		PC(×14)	2,433
購入等合計	3,594	購入等合計	2,965
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		居室エアコン(×4) 寄附	532
		居室エアコン(×1)	133
購入等合計	0	購入等合計	665

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
世帯数	19	18	18	18	16	16	16	15	17	14	13	14	194
児童数	28	26	26	26	22	22	21	20	23	19	18	19	270
合計	47	44	44	44	38	38	37	35	40	33	31	33	464

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	生活保護受給			その他			合計	
	世帯数	児童数	計	世帯数	児童数	計	世帯数	人数
R03(2021)年度	4	5	9	8	13	21	12	30
R04(2022)年度	7	8	15	12	20	32	19	47
R05(2023)年度	2	3	5	12	16	28	14	33

令和5(2023)年度 事業報告 (母子生活支援施設)

施設名	サンライズ万世		
定員	20	世帯	緊急一時保護
			2 世帯

【事業実績】

施設利用率	94.2	%	* 目標利用率 100.0%	
入所	94.2	%		
緊急一時保護	16.1	%		
平均在所期間	1.4	年	(最長	3.16 年)
年間入所	11	世帯	29	名
年間退所	14	世帯	39	名
主な退所先	都営住宅、民間アパート、施設他			

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・一人ひとりの意思や人権を尊重し、個別自立支援計画に基づく支援を提供しました。
- ・関係機関と連携を密にし、母子が適切に課題解決に向かうよう支援しました。
- ・精神的ケアとアタッチメントを中核に据えた親子関係再構築支援を行いました。
- ・子どもの健全育成を目指し、学習支援と生活支援に努めました。
- ・共用部分のクロスを張替える等、環境整備に努めました。
- ・アフターケアを計画的に進め、相談援助等により自立を支援しました。
- ・防犯防災及び感染症対策を含めたBCP行動計画の見直しを検討し、毎月の避難訓練により、利用者が安全・安心に過ごせるよう取り組みました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域児童の居場所としての施設の開放は感染症対策により休止となりました。
- ・グループ事業として9年目の同援こども学習室「ラ・スク」に取り組みました。
- ・13年目の「地域無料心理相談事業」を継続して行いました。
- ・地域のNPO法人と連携して、地域世帯へ食材を提供しフードロスに取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・相談援助や保育士養成および教員介護体験等の学生を積極的に受け入れ、人材の確保と育成を図ることで、職員のスキル向上を目指しました。
- ・キャリアパスに連動した職員個別の育成計画(研修計画含む)を作成し、人材育成に努めました。
- ・ハラスメントについて職場全体で学びを深め防止に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・年間利用率90%以上を目標にして、都外からも積極的に受入れ、財務基盤の強化を図りました。
- ・経費全体を見直し経営のスリム化を図るとともに、新たな加算等の取得を目指しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
PC(×3)	789		
購入等合計	789	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
エレベーター更新	7,975	PC(×5)	869
		エレベーター更新	7,975
		玄関横オーニング増設	679
購入等合計	7,975	購入等合計	9,523
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	8,764	年間合計	9,523

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
世帯数	20	20	20	20	19	18	20	19	19	19	17	17	228
児童数	43	43	43	43	41	38	41	39	38	38	36	37	480
合計	63	63	63	63	60	56	61	58	57	57	53	54	708

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	生活保護受給			その他			合計	
	世帯数	児童数	計	世帯数	児童数	計	世帯数	人数
R03(2021)年度	13	27	40	6	9	15	19	55
R04(2022)年度	13	29	42	7	14	21	20	63
R05(2023)年度	12	29	41	5	8	13	17	54

令和5(2023)年度 事業報告 (児童養護施設)

施設名	双葉園		
定員	双葉園	38	名
	高嶋の家(地域小規模)	6	名
	くすのき(地域小規模)	6	名
	計	50	名
			昭島市子どもトワイライトステイ事業
			2名

【事業実績】

施設利用率

本園	90.2	%
高嶋の家	94.8	%
くすのき	90.5	%
計	90.8	%

* 目標利用率 100.0%

トワイライトステイ事業 38名(年間延利用者数)

男女比率

5:5

平均年齢

10.9 歳 (最高 18 歳 / 最低 2 歳)

年間入所

11 名

年間退所

7 名

主な入所理由

虐待、養育困難

主な退所理由

家庭復帰、社会的自立

◆ 利用者支援サービスの充実

・子どもに関わるすべての取り組みに関して、子どもや家庭の意思・意見を尊重しながら自立支援計画を作成し、支援しました。また、提供した支援に対して説明責任を果たし、子どもや家庭が十分に安心した生活が送れるよう取り組みました。

・令和6年度のグループホームの開設に向けて準備に取り組みました。

・将来的にサービスを提供する体制の幅を広げるため、従来の措置された子どもの支援だけでなく、本園の機能を拡張して、例えば地域の子どもの虐待防止のために何ができるか、どうやってその質を上げていくか(施設の多機能化・高機能化)、また多様化する問題に職員が対応していくために、どのようにスキルアップを図るか(ケアの高度化)などの検討を開始しました。

◆ 地域社会への取組み

昭島市から受託しているトワイライトステイ事業(保護者が就労、就学、病気などで帰宅が夜間にわたる場合に保護者に代わって子どもを預かるサービス)は利用があまり伸びませんでした。今後も地域のニーズに応じていくために、必要なサービスについて、さらに関係機関と連携し情報交換をしていきます。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員に合わせた研修の機会を作り、専門性の向上や支援の標準化に努めました。

・施設の小規模化により職員が孤立しないように、職員一人ひとりが意識的に声掛けを行い、お互いがフォローできるような関係性の構築に取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

子どもの状況や園の受け入れ体制等が影響し、目標利用率を達成することができませんでした。また、専門機能強化型加算等の要件が満たない状況もあり、財務上は厳しい形で今年度を終えることになりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
厨房エアコン更新	1,265	厨房エアコン更新	1,100
購入等合計	1,265	購入等合計	1,100
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
不審者対応放送設備	801		
購入等合計	801	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
PC(×10)	2,629	PC(×10)	1,738
購入等合計	2,629	購入等合計	1,738
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
グループホームリフォーム	8,062	グループホームリフォーム	7,949
購入等合計	8,062	購入等合計	7,949
年間合計	12,757	年間合計	10,787

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男児	22	23	22	22	22	24	24	24	24	23	23	24	277
女児	21	19	19	20	22	22	23	24	24	24	24	24	266
合計	43	42	41	42	44	46	47	48	48	47	47	48	543

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	学年別内訳				
		幼児	小学生	中学生	高校生	その他
R03(2021)年度	49	9	17	12	11	
R04(2022)年度	48	7	20	9	12	
R05(2023)年度	48	7	25	7	9	

令和5(2023)年度 事業報告 (婦人保護施設)

施設名 **いこいの家**

定員 **40** 名・世帯

【事業実績】

本入所

施設利用率	42.4 %	* 目標利用率 40.0%
平均年齢	39.5 歳	(最高 69 歳 / 最低 20 歳)
平均在所期間	1.3 年	(最長 2.75 年)
年間入所	5 名	
年間退所	4 名	
主な入所理由	近親者からの暴力被害による	
主な退所理由	就労状況による	

緊急一時保護

緊急のみ利用率	9.8 %	
平均年齢	34.1 歳	(最高 58 歳 / 最低 20 歳)
同伴児者平均年齢	5.1 歳	(最高 13 歳 / 最低 0 歳)
年間利用者数	67 名	
主な入所理由	夫の暴力	
主な退所理由	母子生活支援施設、アパート転宅	

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・本入所は、二人部屋を個室として使用し全室が埋まる形で推移しました。退所者数が少なかったため入所数も同様となりました。
- ・多職種が常に連携し利用者支援を行ったことで、支援力・組織力向上につながりました。
- ・就労支援は、昭和郷のスケールメリットを活かし、業務委託の機会を増やすことができました。
- ・アフターケアは、対象者数も増加傾向にあり今後も積極的に進めます。
- ・施設内作業は、前年度以上に利用者の収益UPにつながり、充実した取組みとなりました。
- ・新規事業の菓子製造については、作業を予定していた利用者の体調不良もあり、職員側での準備期間になりました。

◆ 地域社会への取組み

- ・開始9年目の同援こども学習室「ラ・スク」は、前年の115%増の延べ133名が利用しました。
- ・3年目のフードバンク昭島と連携したフードロス支援も無事に進めることができました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員の育成について、相互に学び合いアドバイスを行った結果、それぞれの成長と資質の向上につながりました。
- ・外部宿泊を伴う研修も再開され、数年ぶりに多くのことを経験する機会になりました。
- ・対人援助に携わる者として、対利用者だけでなく、職員間でもお互いが尊重し合えるようなハラスメントのない職場環境づくりに取り組みました。
- ・社会福祉士資格取得を目指す学生を積極的に受け入れ、福祉人材育成に貢献しました。(年間延べ人数268名)

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・消耗備品等の必要性を随時見直し経費削減を図りました。
- ・東京都女性相談センターとの連携を深め、本入所は年間を通して空室なく終えることができました。
- ・職員配置は昨年度同様の結果となり、1名欠員で年度を終えています。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
1F大浴場改修	6,428		
業務用食器洗浄機	1,155		
購入等合計	7,583	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		業務用食器洗浄機	1,150
購入等合計	0	購入等合計	1,150
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	7,583	年間合計	1,150

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本入所	13	12	12	13	13	12	12	14	14	14	13	13	155
緊急一時	2	2	2	1	3	5	0	3	3	1	2	2	26
合計	15	14	14	14	16	17	12	17	17	15	15	15	181

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	65~
R03(2021)年度	10	5	1	1	1	1	1		
R04(2022)年度	14	7	3		2			1	1
R05(2023)年度	13	5	4		1	1		1	1

令和5(2023)年度 事業報告（児童厚生施設）

施設名 昭島市児童センターぱれっと

【事業実績】

年間延利用者数	46,870	名	
1日平均利用者数	141.2	名	*目標利用者数 120.0名

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、入館時の検温は5月以降に廃止、またマスク着用は利用者判断としました。
・おもちゃ・卓球用具・ボール・パソコンなど貸し出し物品に関しては、感染症予防の観点から返却時の消毒を継続しました。
・各行事及びイベントなどは、新型コロナウイルス感染症以前と同等水準で実施しました。

◆ 地域社会への取組み

・行事及びイベント開催に関して、市のホームページに積極的な発信をしました。
・所管・警察・スクールサポーターなどと連携強化を図り、安全・安心・快適な児童館運営をしました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・利用者の館内マスク着用は利用者判断としましたが、職員一人ひとりが感染対策意識を持続するため、勤務中はマスク着用を推奨しました。
・不審者及び、課題のある利用者への適切な対応を図るための研修を実施しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

昨年度と同様、貸し出し物品の消毒を継続し経費調整をしましたが、所管の委託費の変更には至りませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
年間合計	0	年間合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(年間延人員数)

時間帯	未就学		小学生		中学生		高校生		児童小計	保護者小計	見学者	合計
	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者				
午前	4,658	4,020	2,493	431	429	6	111		7,691	4,457	1,107	13,255
午後	4,002	3,500	15,726	876	6,655	11	646	6	27,029	4,393	172	31,594
夜間	53	53	64	61	1,022	12	687	2	1,826	128	67	2,021
合計	8,713	7,573	18,283	1,368	8,106	29	1,444	8	36,546	8,978	1,346	46,870

5. 医療事業施設の経営

医療法に基づく「病院」であるとともに、社会福祉法に定める生計困難者のために無料または低額な料金で診療を行う「無料低額診療施設」および生活保護法に基づく「医療保護施設」として適切な医療を提供しました。

令和5(2023)年度 事業報告（医療施設・医療保護施設）

施設名	昭島病院
定床	199 名

【事業実績】

病床利用率	80.0 %	* 目標利用率 86.4%
1日あたり平均患者数		
入院	160 名	* 目標患者数 172名
外来	309 名	* 目標患者数 370名
1ヵ月あたり平均救急車受入台数	101 台	* 目標受入台数 90台

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・リハビリテーション体制の充実
9月より、回復期リハビリテーション病棟のランクアップおよび365日リハビリテーション体制を実施しました。
- ・感染防止対策の徹底
検温・手指消毒の徹底、飛沫防止対策、換気等に十分配慮し、感染蔓延防止に努めました。
- ・患者数(入院・外来)の増へ向けた取組み
他院からの紹介をスピーディに受け入れる体制を整え紹介患者に対応しました。
救急の受入れ強化を継続し、目標台数をクリアしました。
- ・患者サービスの向上
患者様への声掛けを積極的に行い安心して受診できるよう努めました。
- ・医療保護施設としての役割
無料低額診療施設として、積極的に相談を受け、必要な医療を受けやすくするため、院内掲示など刷新しました。
- ・オンライン診療
オンライン診療の必要性について引き続き院内で協議を行いました。
- ・特定健康診査
受診体制の効率化を行い待ち時間の短縮に努めました。
- ・MRIの更新
工事期間中の外注検査の依頼や工事も無事終了し、計画通り更新することができました。

◆ 地域社会への取組み

- ・住みやすい街づくりに貢献できるよう地域包括ケアシステムの推進
コロナ禍で個々の連携となりましたが、本院の総合支援センターと地域包括支援センター等の担当者間で連携を行いました。
- ・災害時対応の強化
東京都の「災害拠点連携病院」として、昭島市、昭島医師会、昭和郷施設との災害対応の連携及び体制強化を図りました。
- BCPのメンテナンス(発災後の出勤時間更新など)を行い災害発生に備えました。
- ・訪問診療について
院内周知と近隣ケアマネジャーへの声掛けをし、3月からスタートすることができました。

◆ 医療人材の育成と職場環境の整備

- ・働き方改革の取組み
人材確保のため、次年度より4週8休体制に向け、院内で十分協議し、準備することができました。
- ・業務に役立つ研修会の実施
リモート研修をメインに積極的に研修会に参加しました。
- ・職場環境の整備
業者と十分な打合せを行い計画通り空調設備の更新工事を完了することができました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・患者数の確保(救急患者を含む)
 入院・外来患者の目標数を達成するため病院・診療所等からの紹介患者の受入れを積極的に進めるとともに、安定した病床稼働を確保するためベットコントロールミーティングを継続しました。
 ・回復期リハビリテーション病棟のランクアップ
 9月より回復期リハビリテーション病棟の体制強化ができたことにより、増収につながりました。
 ・経費の削減
 法人のスケールメリットを活かした物品の購入など支出の適正化を図り、経費の削減に努めました。
 ・光熱費の削減計画
 太陽光発電設備の設置については、業者が詳しく調査した結果、導入するメリットがないと判断しペンディングとしました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1・2期(4~9月)		第1・2期(4~9月)	
ナースコールシステムサーバー	3,000	无影灯(手術室×2)	11,880
无影灯(手術室×2)	19,987	冷温蔵庫配膳車(×2)	3,967
自家発電装置(蓄電池)	1,100	MRI	109,715
冷温蔵庫配膳車(×2)	5,604	X線撮影装置修理	1,430
MRI	109,715		
購入等合計	139,406	購入等合計	126,992
第3・4期(10~3月)		第3・4期(10~3月)	
調剤支援システム用端末	1,320	調剤支援システム用端末	1,567
内視鏡カメラシステム	21,281	内視鏡カメラシステム	24,682
シャワーベッド	4,076	シャワーベッド	4,432
上部消化管ビデオスコープ	3,679	上部消化管ビデオスコープ	3,480
薬袋用プリンター	988	薬袋用プリンター	579
空調設備(A館・B館)	53,033	空調設備(A館)	42,416
		ナースコールシステムサーバ	3,000
		ベッドサイドモニター	2,439
		A館ユニットバス給湯配管新設工事	3,278
		輸液ポンプ	586
購入等合計	84,377	購入等合計	86,459
年間合計	223,783	年間合計	213,451

【施設利用状況】

患者数推移(1日あたり平均患者数)

	入院	外来
R03(2021)年度	159	332
R04(2022)年度	154	330
R05(2023)年度	160	309

減免内訳

区分		件数	金額	
入院	実人数	生活保護	86	
		健保・国保	7	
		計	93	
	延人数	生活保護	1,633	1,152,062
		健保・国保	156	339,835
		計	1,789	1,491,897
外来	延人数	健保・国保	40	377,460
		無	80	574,830
		計	120	952,290
合計		2,002	2,444,187	

令和5(2023)年度 事業報告（訪問看護ステーション）

施設名 昭島病院訪問看護ステーション

定員 12 名

【事業実績】

1日平均利用者数	14.5	名	* 目標訪問回数 15.0回/日
介護保険延人数	78	名	
医療保険延人数	21	名	
計	99	名	
男女比率	4:6		
平均年齢	82.4	歳	(最高 97 歳 / 最低 27 歳)

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者個々の意思や人権を尊重し、生活に寄り添った支援を行い、QOLの向上に努めました。
- ・利用者の多様な生活状況や病状に合わせ、24時間体制で看護ニーズに対応しました。
- ・ターミナルケアが必要な利用者が、可能な限りご自宅でご過ごせるように、他職種と連携して対応しました。
- ・昭島病院総合支援センターと連携し、入院から在宅、在宅から入院へのスムーズな対応と調整に努めました。
- ・昭島病院外来と連携し、利用者の病状や生活状況等の情報を共有する事で、病状の変化に柔軟に対応した援助を行うことができました。
- ・感染防止対策を行うとともに、スタッフの健康管理を行い、サービス提供が滞りなく行える体制づくりに努めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域包括ケアシステムの取組みとして、昭和郷施設や近隣他事業所と積極的に連絡を取り合い、連携強化に努めました。
- ・定期巡回訪問介護や小規模多機能介護センターとICTを活用した情報共有を行い、他職種間で相談しあえる関係を構築できるように努めました。
- ・委託契約しているグループホームでは、24時間体制で緊急連絡がとれる体制をとっており、スタッフが安心してケアに向き合えるように利用者の体調相談や介護方法の指導を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員の学ぶ意欲を尊重し、個々のキャリアにあった研修に参加する事でスキルの向上を目指しました。
- ・職場内研修、ケースカンファレンスを毎月実施し、情報を共有する事で、スタッフ間で統一した対応ができるように努めました。
- ・常にフォローしあえる職場づくりを心掛けました。
- ・感染症対策として、職場内の環境整備、物品整備を行うとともに、定期的な研修を行い安心して働ける環境づくりに努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・受診やショートステイのため訪問を行わない時は、利用者の意向を踏まえつつ、日にちを振り替えて訪問するなど利用率向上に努めました。
- ・訪問予定枠の見直しを行い、1日の訪問件数を増やしました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延訪問者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	22	22	22	22	25	24	24	27	27	27	26	25	293
女性	34	33	30	33	32	34	33	33	34	36	34	34	400
合計	56	55	52	55	57	58	57	60	61	63	60	59	693

6. 収益事業の経営

1. オフセット・活版印刷事業

施設名 事業局

【経営実績】

令和4度の年間受注額が300万円だった「試験問題」の売上げが1,900万円となり、前年度対比で増収増益となりました。目標の売上高は達成できませんでしたが、当年度も社会福祉事業への繰入れができました。また年間受注件数も前年度より増加しましたが、その他は対前年度で介護用品販売が270万円の減少、物品販売が80万円の増加でした。

◆ 人材の育成と職場環境の整備

営業担当職員の教育を継続しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・担当顧客の見直しを行い効率的な営業を行いました。
- ・新しい機械を購入し作業時間を短縮しました。
- ・損紙を減少させ材料費の高騰に対処しました。
- ・新規顧客の獲得に努めました。

【施設・設備整備計画】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
計数機	2,000	計数機	2,000
購入等合計	2,000	購入等合計	2,000

2. 不動産賃貸に関する事業

【経営実績】

主に以下の事業を行いました。

- 1 富士見町駐車場 / 東村山市富士見町2-7-14
旧サンホーム跡地を活用し、駐車場として経営を行いました。
- 2 土地賃貸業 / 新宿区原町3-8
原町ホーム東側外構の一部を、隣接マンションの緑地帯として有償貸与しました。
- 3 昭島病院駐車場 / 昭島市中神町1260
昭島病院敷地内で、来院者用駐車場を経営しました。
- 4 Premier Court南青山 / 港区南青山1-17-8
旧サンライズ青山跡地を活用し、集合住宅を経営しました。(サブリース)

7. 社会貢献事業

1. 学習支援

昭島市社会福祉協議会と連携して市内の生活困窮家庭の子どもへの学習支援及び食事の提供を行いました。

概要	場所	昭和郷高齢者複合施設さくらホール
	開催日	日曜日 10時30分～15時00分 年間24回
	対象	小学3年～中学2年 11名
実績	参加延べ人数	133名(1回の平均出席者数 5.5名)
	食事の提供	24回
	講師	ボランティア:5名(社会人:1名/高校・大学生:4名)/職員:11名 (その他外部講師:1名)
	進学状況	高校受験対象者2名(前年度実績0名)

2. 地域見守り事業「サンホーム配食」

地域高齢者に配食サービスを提供するとともに、配食時の定期的な見守りを実施しました。

概要	対象	10世帯(R6.3.31現在)
実績	配食数	2,003食
	実施日数	257日(週5日)

3. 地域交流事業「さくらカフェ」

地域の誰もが参加できるカフェを定期的で開催し、地域交流の場を提供しました。

概要	場所	昭和郷高齢者複合施設 さくらホール、昭島市市民会館
	開催日	毎月第2土曜日 10時～15時
	内容	カフェ、イベント、ワークショップ
	協力	昭島市役所、昭島市社会福祉協議会、昭島市中部地域包括支援センター ボランティア等
実績	実施回数	8回
	参加延べ人数	187人

4. 利用者負担軽減等

地域における公益的な取組みとして、低所得者世帯等に対する生活支援等を行いました。

① 生活困窮者に対する利用者負担軽減額(昭島病院・特別養護老人ホーム)	2,784,902 円
② その他の地域における公益的な取組み(学習支援・配食サービス等経費)	1,485,213 円

- * 2023年度は新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に変更になったことを受け、オンラインで実施していた育児講座を再び対面形式に戻したり、「福祉避難所」として炊き出し訓練を復活させたりするなど、徐々に地域へ向けた活動を再開しました。また認知症ケアの一環として、地元のプロサッカーチームと共同で地域向けのレクリエーションを実施するなど、新たな取組みも始まっています。

8. 人材育成事業

事業内容	介護職員初任者研修(通信)
目的	介護の現場で働き始めて間もない方、またこれから介護の分野に携わろうとする方に向けて、介護の基礎的な知識・技術を習得する場を提供し、介護福祉士を目指す人材の育成を目的とし、初任者研修を行いました。
期間	2023年10月～2023年12月
内容	通信講習 26時間 / 通学講習 104時間(17日間)
施設実習	通学講習のうち介護実習 8時間
受講者	6名
主な会場	昭和郷高齢者複合施設 さくらホール / 昭島市中神町1260

Ⅲ 職員福利厚生制度

本年度の職員福利厚生事業は下記のように実施しました。

1. 永年勤続者表彰

10年勤続者 33名 20年勤続者 10名 30年勤続職員 5名

定年退職者表彰（定年退職前勤続10年以上の職員対象）

9名

2. 人間ドック健診の実施

40歳、50歳、60歳受診 53名

婦人科検診の実施（35歳以上の女性職員対象）

乳がん検診、子宮がん検診受診 247名（一部自己負担実施事業所分を除く）

3. 福利厚生センター事業の利用

ソウエルクラブ年間加入者数

1種職員 873名 2種職員 175名 計 1,048名

4. 職員のメンタルヘルスケアへの取組み

職員向けカウンセリングサービス（㈱アドバンテッジリスクマネジメント）

職員ならびに家族（同居）、退職者・復帰者への支援カウンセリングを実施

相談件数 85件 利用者延べ数 76名

精神科産業医による退職者および病欠者の個別相談

個別相談利用 29名 延べ回数 52回

5. 待機児童のための一時保育室の運営 昭島市中神町1260

定員 5名

場所 昭和郷第二保育園 保育室「にほにこ」

6. 企業型「選択制」確定拠出年金制度

加入者数 394名（2024年3月現在）

IV 理事会及び評議員会

定款の定めにより、下記の理事会、評議員会を開催しました。

1. 理事会

第1回、第2回、第5回、第8回及び第9回理事会については、一部オンライン方式による対面形式にて開催し、各議案の審議を行い全議案について可決承認をいただきました。

第3回、第4回、第6回及び第7回理事会については監事並びに全理事の同意をいただき、決議省略として全理事に全議案について承認の同意をいただきました。

第1回 2023年6月15日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	* 品川 卓正	宮崎 牧子
	* 西村 七重	菅原 眞廣	* 上原 淳	荒井 隆夫	
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事9名/監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和4年度事業報告の件/令和4年度計算書類等の承認の件/役員等報酬規程一部改正の件/理事及び監事候補者の推薦の件/役員災害補償保険、役員賠償責任保険(D&O保険)及び雇用慣行賠償責任保険(EPL保険)契約更新の件/定時評議員会開催の件/東京都の実地検査の結果に対する本会の考え方と対応について/久我山一丁目都有地活用による障害者施設整備事業について/令和4年度第5回評議員会決議事項の報告について/理事長及び常務理事の職務執行状況について				

第2回 2023年6月30日 於：ホテルグランドヒル市ヶ谷

出席者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳		
欠席者(理事):	田代 秀之		出席:理事8名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	理事長選定の件/常務理事選定の件/令和5年度定時評議員会決議事項等について				

第3回 2023年7月25日 (決議の省略による)

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳	田代 秀之	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	定款一部改正の件/役員等報酬規程一部改正の件/評議員会開催の件				

第4回 2023年9月28日（決議の省略による）

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳	田代 秀之	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	昭和郷指定居宅介護支援事業所の事業廃止の件／昭和郷指定居宅介護支援事業所運営規程廃止の件／組織規程一部改正の件／経理規程一部改正の件				

第5回 2023年10月19日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	* 上原 淳	田代 秀之	
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事9名／監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和5年度第1次補正予算の件／法人本部運営経費繰入れの件／給与規程、給与規程(昭島病院)、再雇用職員就業規則、臨時職員就業規則、臨時職員就業規則(昭島病院、臨時職員就業規則(事業局)、無期臨時職員就業規則、無期臨時職員就業規則及び非常勤ヘルパー就業規則一部改正の件／運営規程(同援さくら保育園)一部改正の件／令和5年度昭和郷給食センター食事サービス提供業務委託契約の件／評議員会開催の件／令和5年度採用状況について／杉並区久我山一丁目都有地活用による障害者施設整備事業について／双葉園新規グループホームの開設について／理事長及び常務理事び職務執行状況について				

第6回 2023年11月20日（決議の省略による）

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳	田代 秀之	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	東京都杉並区久我山一丁目都有地活用による地域の福祉インフラ整備工事の件				

第7回 2024年1月30日（決議の省略による）

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	雑賀 真	上原 淳	田代 秀之	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	東京都杉並区久我山一丁目都有地活用による地域の福祉インフラ整備工事の入札結果の件／東京都杉並区久我山一丁目都有地活用による地域の福祉インフラ整備にかかる福祉貸付資金借入れの件				

第8回 2024年2月19日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催)

オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	* 雑賀 真	* 上原 淳	田代 秀之	
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事9名/監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	就業規則、昭島病院就業規則、事業局就業規則、給与規程、再雇用職員就業規則、臨時職員就業規則、無期臨時職員就業規則、無期再雇用臨時職員就業規則、非常勤ヘルパー就業規則、安全運転管理規程及び育児・介護休業等に関する規則一部改正の件/運営規程一部改正の件/施設長人事の件/評議員選任・解任委員会委員選任の件/令和6年度採用状況について/理事長及び常務理事の職務執行状況について				

第9回 2024年3月13日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催)

オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	横山 宏	小林 一己	品川 卓正	西村 七重
	雑賀 真	* 上原 淳	田代 秀之		
欠席者(理事):	宮崎 牧子		出席:理事8名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和5年度第2次補正予算の件/令和6年度事業計画の件/令和6年度予算の件/組織規程一部改正の件/昭島病院管理規程、就業規則及び給与規程一部改正の件/いこいの家管理規程廃止及び「自立ホームいこい」運営規程制定の件/評議員会開催の件/令和6年度採用状況(確定)について/令和6年度双葉園新規グループホームの開設整備事業について/保育士処遇改善費加算及び福祉・介護職員処遇改善事業に伴う職員処遇改善手当の支給について/昭和郷北地区の施設改築計画について				

※ 理事及び監事一覧 (任期:2025年6月定時評議員会まで)

理 事 長	飯山 幸雄				
常 務 理 事	横山 宏				
理 事	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子	西村 七重	雑賀 真
	上原 淳	田代 秀之			
監 事	鈴木 道生	根本 昌廣			

2. 評議員会

第1回、第3回、第4回評議員会については、一部オンライン方式による対面形式にて開催し、各議案の審議を行い全議案について可決承認をいただきました。

第2回評議員会については監事並びに全評議員の同意をいただき、決議省略として全評議員に全議案について承認の同意をいただきました。

第1回 2023年6月30日 於：原町高齢者複合施設 会議室

出席者(評議員):	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁		
欠席者(評議員):	飯村 史恵	田中 康道	出席:評議員8名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	飯山 幸雄	中島 昭			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	理事及び監事選任の件/役員等報酬規程一部改正の件/理事長、常務理事及び会計監査人の報酬の件/令和5年度第1回理事会決議事項等について/令和4年度事業報告及び計算書類等について/監事監査報告及び会計監査人報告について				

第2回 2023年8月4日 (決議の省略による)

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(評議員):	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	飯村 史恵	田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	定款一部改正の件/役員等報酬規程一部改正の件				

第3回 2023年10月27日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(評議員):	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	* 田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁	
欠席者(評議員):	飯村 史恵	出席:評議員9名/監事2名			
出席者(監事):	鈴木 道生				
説明者等:	飯山 幸雄	横山 宏			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和5年度第1次補正予算の件/法人本部運営経費及び施設間繰入れの件				

第4回 2024年3月25日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催)

オンライン方式による出席者は*表示

出席者(評議員):	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	* 田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之		
欠席者(評議員):	飯村 史恵	七島 晴仁	出席:評議員8名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	飯山 幸雄	横山 宏	出席:評議員8名/監事2名		
	神田企画部長	魚津総務部長			
議 事:	令和5年度第2次補正予算の件/令和6年度事業計画の件/令和6年年度予算の件 常務理事の賞与の件/令和5年度第6回、第7回、第8回及び第9回理事会決議事項等 について				

※ 評議員一覧(任期:2025年6月定時評議員会まで)

評 議 員	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	飯村 史恵	田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁

3. 評議員選任・解任委員会

開催なし

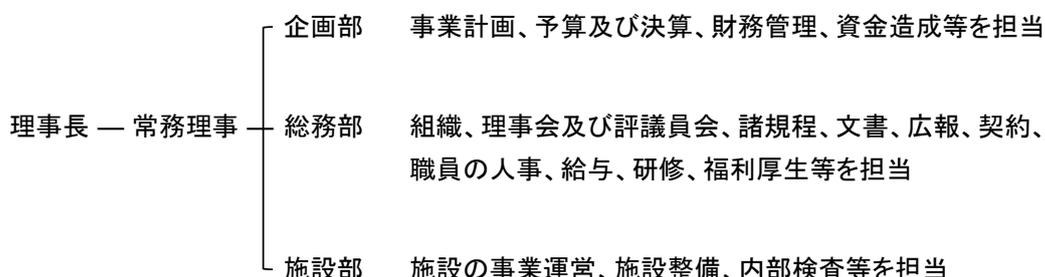
※ 評議員選任・解任委員一覧(任期:2025年6月定時評議員会まで)

評 議 員 選任・解任委員	野村 寛	鈴木 武夫	森 祐二郎	根本 昌廣	魚津 亮太
------------------	------	-------	-------	-------	-------

V 事務局主要業務

理事長、常務理事を補佐し、本会全体に関わる各種業務の円滑な執行を図るため、企画部・総務部・施設部の三部制により業務を行いました。

1. 組織



2. 事業計画・予算等の総括

2022年度事業報告、決算等の原案、2023年度事業計画、予算及び補正予算の原案等を取りまとめ、理事会及び評議員会に提案し、承認を得ました。

3. 中長期計画の実施状況

◆ 利用者支援サービスの充実

－ 生活環境・利用環境の向上の取組み －

- ・見守りカメラの設置(保育園)
- ・LED化(同援さくら保育園)
- ・エレベーター更新(母子支援施設サンライズ万世)
- ・リフォーム、家電製品の更新(児童養護施設双葉園グループホーム高嶋の家)
- ・特殊浴槽の更新(特別養護老人ホームニューフジホーム、原町ホーム)
- ・食堂床改修(障害者支援施設さやま園)
- ・空調設備整備(昭和郷保育園、昭島病院)
- ・医療機器更新(昭島病院)

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

－ 生産性の向上に向けた職場環境の見直し －

- ・管理職員を中心に、働きたいと思う職場、働きやすい職場となるようにこれまでの業務の構造自体の見直しをはじめました。
- ・特に整理整頓、片付けに着目し、職場内の環境改善に努めました。
- ・DX推進の正しい理解を促し、デジタル技術を活用した業務改善の動機づけを行いました。

－ 給与規程の見直し －

- ・令和10年度から65歳定年となることから、待遇差を是正するため、再雇用職員の賞与支給率の改善を行いました。
- ・人事考課の結果による勤勉手当を年度内に支給し、評価結果を迅速に反映することとしました。
- ・法人内での「副業」(時間外その他施設での勤務)を全職員に周知し、異なる施設間での従事を可能にしました。

－ 人事考課の見直し －

- ・考課者向けの研修では、事例検討やディスカッションを通じて実施上の課題抽出を行いました。
- ・人事考課を公正・適正に実施できるように、非考課者に対する関わり方について考課者同士で情報と方法の共有を行いました。

－ 福祉人材の確保 －

- ・優秀な人材を獲得できるように職員紹介制度の拡充を行いました。
- ・都外の就職希望者を確保するため、地方の養成校及び大学向けにオンライン説明会を実施しました。
- ・SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)による情報発信及び採用説明動画を制作しました。

－ 人材の育成 －

- ・人事考課者を対象とした考課者マネジメント研修を実施し、職員の適性に応じて個々の能力を引き出すスキルを学びました。
- ・法人全体での階層別研修、各支援系グループでのグループ研修及び施設内研修を行いました。

－ 人材の定着に向けた取り組み －

- ・物価高騰に対し、全職員に特別調整手当を創設し、支給しました。
- ・職場内における災害予防の呼びかけを行うなど安心して就業できる環境づくりを目指しました。
- ・正規転換を希望する非常勤職員に対し正規転換試験を実施しました。
- ・各施設で実施した職員のエンゲージメント分析を行ったほか、事務局では「働きたいと思う職場」「働きやすい職場」づくりについて、職員アンケートを実施しました。

◆ 法人組織・マネジメント強化

－ ガバナンスの強化・コンプライアンスの徹底 －

- ・内部検査を実施し、法令に沿った適切な施設運営となっているかどうかの点検を行いました。
- ・職場におけるハラスメントの防止に向け就業規則等に罰則規定を明記しました。
- ・就業規則等に違反した職員に対し、人事委員会を開催し処分等を行いました。

－ 危機管理体制の強化 －

- ・新型コロナウイルス感染症クラスター発生施設に対して必要に応じて緊急事態対策室を設置し各グループと連携しながら課題解決を図りました。
- ・ネットワークセキュリティ機能の強化のために法人基幹システムを更新しました。

－ 財務規律の強化 －

- ・実績に応じた予算を作成するとともに、月次予算の厳格な執行管理を行い、法人全体の財務基盤の強化につなげました。
- ・法人のスケールメリットを活かした安全で確実な資産の運用を行い資産増加に努めました。
- ・集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業や印刷事業などの収益事業で安定的に収益を確保できたことで、財務基盤の強化につながりました。
- ・定期的に会計監査人監査・監事監査を実施しました。
- ・キャッシュレス化への取り組みとして、QRコード決済や自動口座振替の普及促進のほか、入(出)金機オンラインシステムを導入しました。

－ 情報発信の取り組み －

広報誌については、幅広い年代層に向けて興味を惹くキャッチコピーや小見出しなどの工夫をしながら、読みやすく魅力ある広報誌の作成に努めました。今後はブランディングを意識した記事の選定を行い、本会の魅力を発信するとともに求人活動にも繋がります。

4. 指導検査・法人内部検査

① 東京都による指導検査

東京都による施設の適正運営のための指導検査は、下記により行われました。指導を受けた項目については、速やかに改善しました。

さやま園	9月12日	サンライズ万世	1月11日
サンライズ武蔵野	1月12日	双葉園	1月16日
昭島荘	1月22日	昭島病院	3月6日

② 区市による指導検査

区市による施設の運営・サービスの実地検査は下記により行われました。指導を受けた項目については、速やかに改善しました。

ア. 杉並区

むさしの保育園方南分園	6月7日	むさしの保育園	6月9日
-------------	------	---------	------

イ. 板橋区

小茂根福祉園	10月5日		
大山保育園	11月1日	同援みどり保育園	2月6日

ウ. 豊島区

同援さくら保育園	10月19日	豊島区西部障害支援センター 特定相談事業所	12月12日
----------	--------	--------------------------	--------

エ. 新宿区

榎町高齢者総合相談センター	11月2日	原町小規模多機能居宅介護 センター	11月15日
---------------	-------	----------------------	--------

オ. 港区

みなと保育園	1月16日		
--------	-------	--	--

カ. 東村山市

東大和市ふれあいデイセンター ひかり苑	1月29日		
------------------------	-------	--	--

③ 法人内部検査

経理規程及び内部検査実施要綱に基づき、事務局職員等による内部検査を下記のとおり実施しました。検査員からの指摘事項は速やかに改善しました。

むさしの保育園	5月29日	昭島荘	6月22日
双葉園	6月27日	児童センターぱれっと	6月29日
大山保育園	7月4日	つつじが丘保育園	7月6日
同援はいじま保育園	7月11日	さくらんぼ	7月13日
ゆたか苑	7月18日	事務局	7月20日

同援さくら保育園	7月25日	原町ホーム	7月27日
ひかり苑	8月29日	さやま園	9月4日
小茂根福祉園	9月5日	同援みどり保育園	9月7日
原町高齢者複合施設	9月12日	フジホーム	9月14日
ニューフジホーム	9月19日	昭和郷第二保育園	9月21日
昭和郷保育園	9月26日	万世敬老園	9月28日
サンライズ万世	10月3日	いこいの家	10月5日
昭和郷高齢者複合施設	10月10日	立川福祉作業所	10月24日
東村山生活実習所	10月26日	サンホーム	11月7日
さいわい福祉センター	11月9日	サンライズ武蔵野	11月14日
同援いぐさ保育園	11月21日	みなと保育園	11月28日
昭島病院	12月26日		

④ 会計監査人監査

定款第19条の定めにより、5月24日に、会計監査人による法人の計算書類(貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書)並びにこれらの付属明細書及び財産目録の監査結果について報告が行なわれ、監査の結果は適正であると認められました。(無限定適正意見)

⑤ 監事監査

監事による監査は、法人事務局並びに昭島病院・事業局について月1回定期的に行われ、施設についても下記のとおり実施されました。指摘を受ける事項は認められませんでした。助言等を運営改善に活かしました。

なお、6月1日に定款第18条の定めにより法人の事業報告書及びその付属明細書、計算書類(貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書)及びその付属明細書並びに財産目録の監査が行われ、監査の結果は適正であると認められました。

利用者預り金関係 6月16日・6月20日

サンライズ武蔵野	双葉園	昭島荘
万世敬老園	フジホーム	ニューフジホーム
原町ホーム	ゆたか苑	ひかり苑
さやま園	さくらんぼ	アミニティ富士見
レヂオンス巣鴨		

施設運営関係

同援みどり保育園	9月7日	ニューフジホーム	9月19日
サンライズ万世	10月3日	昭和郷高齢者複合施設	10月10日
立川福祉作業所	10月24日	みなと保育園	11月28日

VI 施設長会及び各種委員会

1. 施設長会議

原則として、毎月第1水曜日に、事務局からの報告、連絡及び提案等の協議を行うための施設長会議を開催しました。

第1回 2023年4月5日 於：オンライン開催

- ・役員会(2023.3.20)報告／2023年度事業計画と当初予算について
- ・2023年2月分月次実績報告(施設・病院)
- ・職員人事考課実施要綱及び評価委員会要綱改正／労働契約について／障害者雇用について
- ・2023年度各委員会名簿、施設長会日程、庶務担当業務について
- ・サーバー更新の留意点／ヘルメット着用義務化について

第2回 2023年5月10日 於：オンライン開催

- ・2023年3月分月次実績報告(施設・病院)
- ・職場ハラスメントの相談及び対応、従業員メンタルヘルスケア状況について
- ・職員紹介制度の活用について
- ・新型コロナウイルス感染症の分類変更による対応について／ネットワークシステムについて

第3回 2023年6月7日 於：オンライン開催

- ・2022年度事業報告／決算報告
- ・新型コロナウイルス感染症への対応について／クールビズ実施期間について
- ・夏季賞与について／有給休暇及びリフレッシュ休暇について
- ・正規職員離職率、障害者雇用について

第4回 2023年7月5日 於：オンライン開催

- ・役員会(2023.6.15／6.30)報告／2023年5月分月次実績報告(施設・病院)
- ・規程の改正(役員等報酬規程一部改正)について／定年退職者・永年勤続者表彰について
- ・ストレスチェックの実施について／個人情報の適切な取り扱いについて
- ・長時間労働防止及び時間外労働の適正な取扱いについて
- ・職員の事故防止対策／健康管理の徹底／安全推進者・衛生管理者等の選任について

第5回 2023年9月6日 於：オンライン開催

- ・役員会(2023.7.25／8.4)報告／2023年7月分月次実績報告(施設・病院)
- ・永年勤続者表彰式及び特別休暇取得について／正規転換試験の実施について
- ・ストレスチェックの実施状況／2024年度4月採用内定状況について
- ・休日等の他施設勤務(法人内副業)について
- ・インボイス制度対応について／事務局への事前・事後相談について

第6回 2023年10月4日 於：オンライン開催

- ・2023年8月分月次実績報告(施設・病院)
- ・人事関係(職員募集・2024年4月採用内定者状況・異動・正規転換等)について
- ・新型コロナウイルス感染症手当の見直しについて／通勤手当の適切な支給について
- ・最低賃金引上げに対する対応について／給与規定・福利厚生一部見直しについて
- ・ストレスチェックの受検結果と活用方法について
- ・荒天時の施設運営と職員の勤務について／職員の業務災害(事故)報告について

第7回 2023年11月1日 於：オンライン開催

- ・役員会(2023.10.19/10.27)報告
- ・2023年9月分月次実績報告(施設・病院)
- ・2023年度第1次補正予算について/賞与(冬季)支給について
- ・2024年度4月採用内定者数について/東京都最低賃金引上げ等に対する本会の対応について
- ・電子申請と文書のデジタル化について
- ・各日程(管理職候補者等研修、人事考課の実施に関する研修、正規転換等)について

第8回 2023年12月6日 於：オンライン開催

- ・2023年10月分月次実績報告(施設・病院)
- ・中長期計画 2018年度～2023年度の歩みについて
- ・職員の自転車運転安全指導について/職員の健康管理の徹底について
- ・感染症予防対策の強化、感染症報告の変更点について
- ・年末年始における施設運営管理について
- ・2024年度4月採用内定数について

第9回 2024年1月10日 於：オンライン開催

- ・2023年11月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び給与規程等の改正案について
- ・2024年度所定労働時間、有給休暇の義務化について
- ・2024年度採用内定者研修について
- ・職員の業務災害予防の取組みについて

第10回 2024年2月7日 於：オンライン開催

- ・役員会(2023.11.20/2024.1.30)報告
- ・2023年12月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則等の一部改正について/休日等勤務(法人内副業)について
- ・団体長期障害所得補償保険(GLTD)への加入について/2024年度自転車保険について
- ・保育士特定登録取消者管理システムの利用情報登録について/DXに関する入門研修の実施について
- ・2024年度4月採用内定者数/2025年度4月採用関係日程について
- ・2024年度事業計画・当初予算ヒアリング日程について

第11回 2024年3月6日 於：オンライン開催

- ・役員会(2024.2.19)報告
- ・2024年1月分月次実績報告(施設・病院)
- ・給与規程等各規則の改正/2023年度賞与(勤勉手当)の支給について
- ・2024年度施設長等の人事異動/辞令交付、定年退職者表彰等の日程について
- ・2023年度第2次補正予算(案)
- ・DX推進のビジョン(案)について
- ・職員の「心理的安全性」について

2. 各種委員会

2023年度事業計画の定めにより、下記の委員会を設け業務を遂行しました。

(1) 総合企画委員会

委員： ○ 神田 祐一 魚津 亮太 岡本 勝巳 山川 浩一
唐澤 江里子 浅見 文隆 荒井 隆夫 田代 秀之

本会の事業全般にわたる企画、立案、計画等基本的な事項について調査、審議しました。総合企画委員会については本会の重要事項について議論し、理事長へ意見を進達する機関としました。また他の委員会の所掌事務について必要な進行管理を行いました。

第1回 2023年4月6日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2023.3.20)報告/2023年度事業計画と当初予算について
- ・2023年2月分月次実績報告(施設・病院)
- ・職員人事考課実施要綱及び評価委員会要綱改正/労働契約について/障害者雇用について
- ・2023年度各委員会名簿、事務局事務分掌について
- ・サーバー更新の留意点

第2回 2023年5月10日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2023年3月分月次実績報告(施設・病院)
- ・職場ハラスメントの相談及び対応、従業員メンタルヘルスケア状況の報告
- ・新型コロナウイルス感染症の分類変更による対応について
- ・ネットワークシステムについて

第3回 2023年6月7日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2022年度事業報告/決算報告
- ・新型コロナウイルス感染症への対応について
- ・賞与(夏季)の支給について
- ・正規職員離職率、障害者雇用について

第4回 2023年7月5日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2023.6.15/6.30)報告/2023年5月分月次実績報告(施設・病院)
- ・規程の改正(役員等報酬規程一部改正)について/定年退職者・永年勤続者表彰について
- ・個人情報の適切な取り扱いについて
- ・長時間労働防止及び時間外労働の適正な取扱いについて
- ・職員の事故防止対策/健康管理の徹底/安全推進者・衛生管理者等の選任について

第5回 2023年9月6日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2023.7.25/8.4)報告/2023年7月分月次実績報告(施設・病院)
- ・永年勤続者表彰について
- ・休日等の他施設勤務(法人内副業)について
- ・万世敬老園事業廃止工程について

第6回 2023年10月4日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・中長期計画 2018年度～2023年度の歩みについて
- ・2023年8月分月次実績報告(施設・病院)
- ・職員の異動と正規転換について
- ・給与規程・福利厚生一部見直しについて
- ・新型コロナウイルス感染症手当の見直しについて
- ・最低賃金引上げに対する対応について

第7回 2023年11月2日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2023.10.19/10.27)報告/2023年9月分月次実績報告(施設・病院)
- ・2023年度第1次補正予算について
- ・賞与(冬季)の支給について
- ・東京都最低賃金引上げ等に対する本会の対応について
- ・電子申請と文書のデジタル化について

第8回 2023年12月6日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2023年10月分月次実績報告(施設・病院)
- ・中長期計画 2018年度～2023年度の歩みについて
- ・感染症予防対策の強化、感染症報告の変更点について
- ・年末年始における施設運営管理について
- ・2024年度4月採用内定数について

第9回 2024年1月10日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2023年11月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び給与規程等の改正案について
- ・2024年度所定労働時間、有給休暇の義務化について
- ・業務災害予防の取組みについて

第10回 2024年2月7日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2023.11.20/2024.1.30)報告/2023年12月分月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則等の一部改正について/休日等勤務(法人内副業)について
- ・団体長期障害所得補償保険(GLTD)への加入について
- ・保育士特定登録取消者管理システムの利用情報登録について/2025年度の職員の採用について

第11回 2024年3月6日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2024.2.19)報告/2024年1月分月次実績報告(施設・病院)
- ・給与規程等各規則の改正について/賞与(勤勉手当)の支給について
- ・2024年度施設長等の人事異動について
- ・2023年度第2次補正予算(案)
- ・昭和郷の土地利用計画(案)/DX推進のビジョン(案)

(2) 人事委員会

委員： ○魚津 亮太 神田 祐一 岡本 勝巳
唐澤 江里子 浅見 文隆 荒井 隆夫 田代 秀之

施設の幹部職員の任用・降格、職員の表彰・懲戒、採用、人材育成等、人事に関する必要事項を審議しました。

第1回 2023年9月12日

・職場におけるハラスメント行為及び管理責任について
減給 3名

(3) 規程整備委員会

委員： ○魚津 亮太 神田 祐一 岡本 勝巳 山川 浩一
阿部 英子 柴田 聖子 工藤 かおる 山脇 啓子
田中 啓史 坂本 吉宏 渡邊 朝紀 倉井 絵理子 佐藤 孝夫

本会の組織、人事、給与及びその他諸制度に関する規程について検討し整備しました。

第1回 2023年4月14日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

・就業規則及び給与規程等の改正について
・役員等報酬規程について
・新型コロナウイルス感染症対応要綱の改正について
・内部通報に関する規程について
・その他の規程整備について

第2回 2023年5月19日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

・役員等報酬規程について
・組織規程について
・各種手当について(自動車運転手当・児童女性グループの臨時職員に対する手当)

第3回 2023年6月16日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

・理事会報告
・定年制について
・56歳からの賞与支給率について
・人材確保のための初任給格付けについて
・物価高騰等による措置について

第4回 2023年7月21日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・臨時職員就業規則について
- ・安全運転管理規程について
- ・役員等報酬規程について
- ・就業規則及び休職・復職規程について
- ・福利厚生の見直しについて

第5回 2023年9月22日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・団体長期障害所得補償保険 (GLTD) の導入について
- ・物価高騰に対する対応について
- ・福利厚生の見直しについて
- ・小茂根福祉園における指定管理評価委員会評価「労働条件点検」から

第6回 2023年10月20日 於：フジホーム いこいの広場

- ・10月の規程改正について(特別調整手当・最低賃金引上げ等)
- ・2月の規程改正に向けて(副園長に対する残業代について)
- ・GLTD導入に伴う私傷病による欠勤制度の改正について
- ・運転手手当の創設について

第7回 2023年11月17日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2月の規程改正について(賃上げ、副園長に対する残業代、GLTD導入に伴う欠勤制度の改正等)
- ・再就職時の待遇について
- ・契約職員の欠勤・休職制度について
- ・臨時職員の定年について

第8回 2023年12月22日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・給与表の改正について
- ・副園長に対する残業代について
- ・自動車運転手当について
- ・GLTD導入に伴う欠勤制度の改正について

第9回 2024年1月19日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・就業規則及び給与規程等の改正についての概要
- ・令和5年度福祉・介護職員処遇改善支援事業に伴う一時金について
- ・ベースアップ等について
- ・通勤手当について

第10回 2024年2月26日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・令和5年度福祉・介護職員処遇改善支援事業に伴う一時金について
- ・次年度の規程整備について
- ・管理職の定義と管理職手当の再編について
- ・特別調整手当廃止に伴う給料引き上げについて

(4) 研修委員会

委員： 魚津 亮太
○ 山口 慎二 鈴木 円香 清水 淳子 川村 純子 小金澤 康哲
宮本 浩史 片岡 由佳 三瓶 達矢 河野 直樹 福田 恭子
鎌田 弘道 原田 裕子

本会職員の研修に関し、企画・実施しました。

第1回 2023年4月24日 於：フジホーム いこいの広場

- ・年間の研修予定と分担の確認
- ・人事考課者研修①／メンタルトレーニング研修①の振り返り
- ・株式会社ビーコンラーニングサービス担当者による階層別研修説明
- ・基礎研修／上級研修(eラーニング含む)の内容確認

第2回 2023年5月24日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・基礎研修の講師所感と振り返り
- ・上級研修①／中堅研修／人事考課者研修②／施設マネジメント研修の内容確認
- ・年間計画の一部変更、法務省矯正研修所見学の日程調整

第3回 2023年7月26日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・上級研修①eラーニングの進捗確認
- ・人事考課者研修②／中堅研修／施設マネジメント研修の振り返り
- ・人事考課者研修③／法務省矯正研修所見学／プレゼンテーション能力向上研修／上級研修②内容確認

第4回 2023年8月23日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・キャリア形成・学び直し支援センターの事業について(厚労省事業)
- ・法務省矯正研修所見学／プレゼンテーション能力向上研修／上級研修②の内容確認

第5回 2023年9月28日 於：フジホーム 旧デイホーム

- ・人事考課者研修③／法務省矯正研修所見学／プレゼンテーション能力向上研修／上級研修②振り返り
- ・新任フォローアップ研修／人事考課者研修④／キャリアデザイン研修／メンタルトレーニング研修②の内容確認
- ・キャリア形成・学び直し支援セミナーの受講について

第6回 2023年10月26日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・新任フォローアップ研修／人事考課者研修④／キャリアデザイン研修／メンタルトレーニング研修②の振り返り
- ・片付け研修／人事考課者研修⑤の内容確認
- ・次年度の「研修デザイン」、研修計画の検討

第7回 2023年11月22日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・片付け研修の振り返り
- ・人事考課者研修⑤／メンタルトレーニング研修③の内容確認
- ・キャリア形成・学び直し支援セミナーについて
- ・次年度の「研修デザイン」、研修計画の検討

第8回 2023年12月27日 於：原町高齢者複合施設 旧デイサービスセンター

- ・新任研修の内容確認、次年度研修打ち合わせ(株式会社クレスコ・パートナーズ)
- ・人事考課者研修⑤／上級研修③の振り返り
- ・次年度の「研修デザイン」、研修計画の検討
- ・次年度実施の公開講座の検討

第9回 2024年1月24日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・次年度研修打ち合わせ(株式会社ビーコンラーニング)
- ・メンタルトレーニング研修③の振り返り
- ・人事考課者研修⑥／新任研修の内容確認
- ・次年度の「研修デザイン」、研修計画の最終確認

第10回 2024年2月21日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・研修管理ソフトプレゼンテーション(株式会社インソース)
- ・人事考課者研修⑥／新任研修の内容確認
- ・今年度の反省と次年度に向けて

2023年度 法人研修実績

実施日	研修概要	目的
4月13日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修①」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：68名 内容： ・成果が出る自走型組織の3要素とは？ ・アクションラーニング ・チームビルディングマネジメント 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・問題解決できる組織を目指すため、職員の視野を広げ思考のプロセスを変化させる。 ・目標達成のためのアクションラーニングを習得する。 ・チームビルディングマネジメントに必要な背景を知る。
4月17日(月) 13:30~16:30	課題別「メンタルトレーニング研修①」 会場：日本教育会館 8階(第2会議室) 対象：新卒採用職員等 参加：42名 内容： ・ご機嫌の価値 ・自己存在感を育み自分らしく生きる ・「子どもたちのごきげん授業」動画視聴 講師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	・学生から社会人となり生活環境が大きく変化する中で、公私ともにモチベーションアップを図る。 ・日常生活や私生活も含め、自己のパフォーマンスを最大化する。 ・ご機嫌「FLOW理論」を習慣化する。
5月18日(木) 10:00~17:00	階層別「基礎研修」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：1級職員・非常勤職員等 参加：35名 内容： ・社会福祉法人に求められる役割、背景 ・コミュニケーションとは？ ・LIFOの自己診断における強みの確認 講師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏	・自職場の役割認識、業務を円滑に遂行する「報連相」とコミュニケーションスキルの向上を図る。 ・人は必ずバイアス(信念、意見、心的態度、先入観等)の影響を受ける。自身と他者がどのようなバイアスを持っているか、自己理解と他者理解を促進する。
5月25日(木) 10:00~17:00	階層別「上級研修①」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：3級職員・主任・副主任 参加：21名 内容： ・環境変化への対応と業務遂行 ・MDCVSの考え方と実践 ・リーダーシップの鍛え方 講師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏	・eラーニングを活用した反転学習 ・上級職員として法人、施設の理念と目標を実現するための環境整備につなげる。 ・自身の役割の認識と、メンバーや他部署へ働きかけができるリーダーシップを身につける。

実施日	研修概要	目的
6月8日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修②」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：58名 内容： ・現状の問題発見、問題認識ワーク ・望ましい氷山モデル設定ワーク ・アクションプラン設定ワーク 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・目標達成のためのアクションラーニングを習得する。 ・氷山モデルを使い本質的な問題解決につなげる。
6月22日(木) 10:00~17:00	階層別「中級研修」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：2級職員・非常勤職員等 参加：26名 内容： ・環境変化への対応と業務遂行 ・中堅職員に期待される5つの役割 ・チームの定義とチームワークのポイント 講師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏	2級職員として、チームリーダーを補佐する役割を認識し、職場における業務を円滑に進めるための視点の啓発とスキルを向上する。
7月20日(木) 09:30~16:30	課題別「施設マネジメント研修」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：2級及び3級職員・非常勤職員等 参加：25名 内容： ・ハラスメント発生のメカニズム ・自施設のリスクの洗い出しと対応策 ・人材育成の必要性と活性化された職場 講師：(株)ビーコンラーニングサービス 山下 浩 氏	・ハラスメント予防及びリスクマネジメントを通して人材育成のポイントを学ぶ。 ・ガバナンス上でのコンプライアンスの位置づけと背景を理解する。 ・自法人・自施設におけるコンプライアンスの定着度合いと求められるコンプライアンスを理解する。
8月24日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修③」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：58名 内容： ・アクションプラン設定ワーク ・問題解決に向けた目標設定 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・目標達成のためのアクションラーニングを習得する。 ・構造を望ましい形に変える打ち手を具体的な目標に展開する。

実施日	研修概要	目的
9月14日(木) 10:00~17:00	<p>課題別「プレゼンテーション能力向上研修」</p> <p>会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール</p> <p>対象：1級職員・非常勤職員等</p> <p>参加：25名</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介スピーチ(現状把握と課題発見) ・目的の明確化、聴衆分析、興味を引く内容の作り方 ・プレゼンテーションの基本スキルと実践 <p>講師：(株)クレスコ・パートナーズ 若林 郁代 氏(他2名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの目的を明確にし、相手に合わせ、説得ではなく納得させるプレゼンテーションスキルを身に付ける。 ・日常業務の申し送りや会議等の場面で、情報を分かり易く簡潔に、かつ興味深く伝えるスキルを身に付ける。
9月21日(木) 10:00~17:00	<p>階層別「上級研修②」</p> <p>会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール</p> <p>対象：3級職員・主任・副主任</p> <p>参加：21名</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革のアプローチ(ハーツバーグ欲求説) ・セルフエスティームとエンゲージメント ・心理的な安全と安心 <p>講師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングを活用した反転学習 ・上級職員として法人、施設の理念と目標を実現するための環境整備につなげる。 ・自身の役割の認識と、メンバーや他部署へ働きかけができるリーダーシップを身につける。
10月3日(火) 09:30~16:30	<p>階層別「新任フォローアップ研修」</p> <p>会場：日本教育会館 8階(第2会議室)</p> <p>対象：2023年度採用職員</p> <p>参加：35名</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場でのコミュニケーションの振り返り ・自己管理と仕事で大切なこと ・コミュニケーションサイクルの3つの力 <p>講師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)</p>	<p>配属後約6カ月の職場での自身を振り返り、現在の自分自身の棚卸しを行うとともに、次のステップへ向けた目標設定を行う。</p>
10月12日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	<p>階層別「考課者マネジメント研修④」</p> <p>会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール</p> <p>対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員</p> <p>参加：65名</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームビルディングの体験ワーク ・2か月のアクションプランの振り返り ・次の2か月のアクションプランの策定 <p>講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のためのアクションラーニングを習得する。 ・経験学習サイクルで組織の行動変化を促す。

実施日	研修概要	目的
10月16日(月) 10:00~12:00	階層別「法人キャリアデザイン研修」 会場：日本教育会館 8階(第3会議室) 対象：新卒採用職員等 参加：25名 内容： ・本会のグループ長より、それぞれのグループで必要としている職員像と思いを伝える。 講師：本会各支援系グループ長	本会のキャリアパスを理解することで、モチベーションアップと自身のキャリアデザインにつなげる。
10月16日(月) 13:30~16:30	課題別「メンタルトレーニング研修②」 会場：日本教育会館 8階(第3会議室) 対象：メンタルトレーニング研修受講者 参加：25名 内容： ・強くしなやかな心の創り方 ・自分の感情に気づき、ご機嫌の価値を知る ・機嫌よく過ごす＝FLOWな状態を創る 講師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	強くしなやかな心の創り方の振り返りとして、実践してきた自己のパフォーマンスの最大化と仕事のモチベーションアップのフィードバックを行う。
11月16日(木) 14:00~17:00	課題別「片付け研修」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：全職員 参加：28名 内容： ・整理整頓はあなたの職場を劇的に変える！ ・仕組み化と習慣化、整理の4つのステップ ・確実に成果を得る3ステップ 講師：(株)スキリ・ラボ 片付け士 小松 易 氏	片付けを通して、安全に作業の効率化を図ること、チームのコミュニケーションを活性化させることを学び、仕事の質の向上につなげる。
12月14日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修⑤」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：64名 内容： ・マネジメントゲーム ・アクションプランの振り返りと共有 ・成果報告会について 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・目標達成のためのアクションプランニングを習得する。 ・経験学習サイクルで組織の行動変化を促す。

実施日	研修概要	目的
12月21日(木) 10:00～17:00	階層別「上級研修③」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：3級職員・主任・副主任 参加：21名 内容： ・人材育成と指導の視点 ・グロー(GROW)モデルのロールプレイ ・コーチとしての自己点検とトレーニングのコツ 講師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏	・eラーニングを活用した反転学習 ・上級職員として法人、施設の理念と目標を実現するための環境整備につなげる。 ・自身の役割の認識と、メンバーや他部署へ働きかけができるリーダーシップを身につける。
1月11日(木) 13:30～16:30	課題別「メンタルトレーニング研修②-2」 会場：日本教育会館 8階(第3会議室) 対象：メンタルトレーニング研修受講者 参加：20名 内容： ・強くなやかな心の創り方 ・自分の感情に気づき、ご機嫌の価値を知る ・機嫌よく過ごす＝FLOWな状態を創る 講師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	強くなやかな心の創り方の振り返りとして、実践してきた自己のパフォーマンスの最大化と仕事のモチベーションアップのフィードバックを行う。
2月22日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00	階層別「考課者マネジメント研修⑥」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：62名 内容： ・各グループで今年度取り組んだアクションラーニングの成果を報告する ・次年度の1on1コミュニケーション研修について 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・目標達成のためのアクションラーニングを習得する。

実施日	研修概要	目的
<p>— 第1回目 — 3月7日(木) 09:30～16:30</p>	<p>階層別「新任研修」(全3回) 対象：2024年度採用者・正規転換職員</p> <p>会場：日本教育会館 8階(第1会議室) 参加：48名</p> <p>内容： ・ビジネスコミュニケーションとしてのマナーの重要性 ・身だしなみの考え方、チェックリスト ・ビジネスコミュニケーションスキルを磨く</p> <p>講師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)</p>	<p>・本会のビジネスパーソンとしての意識改革を図り、基礎力を習得する。 ・組織人としてあるべき行動、基本的ビジネスマナースキルを体得する。</p>
<p>— 第2回目 — 3月8日(金) 09:30～16:30</p>	<p>会場：日本教育会館 8階(第1会議室) 参加：43名</p> <p>内容： ・仕事の進め方(G-PDCAサイクルの明確化) ・訪問・来客マナー、施設訪問をイメージした実践</p> <p>講師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)</p>	<p>・基礎力を定着させ応用力を身に付ける。 ・報告連絡相談、訪問来客対応マナーを体得する。</p>
<p>— 第3回目 — 3月11日(金) 09:30～16:30</p>	<p>会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 参加：62名</p> <p>内容： ・職員の心得と諸規程について ・感染予防・腰痛予防 ・昭和郷内各施設の見学</p> <p>講師：東京都同胞援護会 役職員</p>	<p>・職員の諸規程を理解する。 ・感染予防、腰痛予防を学ぶ。</p>

2023年度 グループ別研修実績

・高齢者支援系

実施日	研修概要	目的
6月16日(金) 14:30~17:00	フレッシュマン研修 会場：ひかり苑 多目的ホール 参加：6名 講師：東京都同胞援護会 職員	他施設の職員と交流を図り、自施設の取組みに活かす。
10月2日(月) ~12月20日(水)	介護職員初任者研修 開催：自宅学習26H、通学講習96H、実習8H 参加：6名 講師：東京都同胞援護会 職員	無資格の介護職員のレベルアップを図る。
12月8日(金) 15:00~17:00	中堅職員研修 会場：原町高齢者複合施設 地域交流室 参加：9名 講師：(株)Professional Works 島田 孝一 氏	モチベーションをマネジメントする。

・障害者支援系

実施日	研修概要	目的
7月6日(木) 14:30~17:00	キャリア採用職員研修 会場：さやま園 多目的ホール 対象：中途採用職員 参加：10名 講師：東京都同胞援護会 総務部 部長 魚津 亮太 氏 グループ長 荒井 隆夫 氏	・本会の理念や方針を理解し、職員としての心構え、労働契約における労働者の義務と権利を学ぶ。 ・専門職としての使命と責任を身につける。
新任職員 7月8日(土) 中堅職員 8月19日(土) 10:00~17:00	接遇研修 会場：さくらんぼ 集会室 対象・参加：新任職員(9名)／中堅職員(8名) 講師：コハラワークス・ソフィ 小原 智恵美 氏	接遇マナー、ビジネスマナー、コミュニケーション技法を学ぶ。
12月~2月 (3日間)	職員交流研修 会場：各施設 対象：リーダー層職員 参加：10名	他施設の事業を学ぶことで、支援技術・知識の向上を図り、リーダーとしての成長を促す。
通年	障害者虐待防止研修 会場：各施設 対象：全職員 講師：東京都同胞援護会 職員	グループ目標に掲げた虐待防止の取組みの強化を図り、身体拘束ゼロを目指す。

・保育支援系

実施日	研修概要	目的
4月15日(土) 9:30～11:00	<p>「保育園におけるリスクマネジメントについて」 ～保育士の虐待・不適切保育について～ 会場：IKE・Bizとしま産業振興プラザ 参加：90名 講師：(株)アイギス 脇 貴志 氏</p>	<p>新任職員、経験の浅い職員を中心に保育園での危機管理の考え方や不適切保育について学ぶ。</p>
<p>① 6月26日(月) ② 6月27日(火) 9:30～11:30</p>	<p>「WARAリズム@研修」 会場：①原町高齢者複合施設 地域交流室 ②昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 参加：①13名／②15名 講師：WARAリズム普及委員会 石川 くに子 氏</p>	<p>赤ちゃんの運動機能が遊びながら発達するために必要な知識と実技を学ぶ。実際に自分の体を動かし体験することで、職員のスキルアップにつなげる。</p>
7月15日(土) 9:30～11:30	<p>保護者支援研修 開催：オンライン 参加：145名 講師：フェリアン副所長 津村 薫 氏</p>	<p>保護者の気持ちに寄り添ったコミュニケーションや関わりを学び、より良い支援につなげる。</p>
<p>① 9月12日(火) ② 12月19日(火) ③ 12月20日(水) 9:30～11:30</p>	<p>職員交流研修 会場：原町高齢者複合施設 地域交流室 参加：①12名／②8名／③11名</p>	<p>様々なテーマに沿って意見交換を行う。他園の取組みを知ることで職員の資質の向上とモチベーションアップを図る。</p>
通年	<p>職員交換保育 会場：各園 対象：全職員</p>	<p>グループ内の園で見学や交換保育を行い、他園の環境や取組みについて学ぶことで、自園の保育や業務に活かす。</p>

・児童・女性支援系

実施日	研修概要	目的
5月19日(金) 10:00～11:30	<p>ハラスメント研修 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：全職員 参加：29名 講師：東京都同胞援護会 総務部 部長 魚津 亮太 氏</p>	<p>ハラスメントの定義と、スーパーバイザーとして指導を受ける姿勢を学び、適切な人材育成につなげる。</p>
6月12日(月) 10:00～11:30	<p>児童虐待防止研修 会場：双葉園 集会室 対象：全職員 参加：20名 講師：子どもの虐待防止センター 理事長 小児科医 松田 博雄 氏</p>	<p>社会的擁護に関わる職員として虐待防止について学ぶ。アタッチメントから見た虐待と、施設擁護のあり方を考える機会とする。</p>
7月13日(木) 13:30～15:30	<p>性に関する職員向け研修 会場：双葉園 集会室 対象：全職員 参加：20名 講師：保健師・助産師 三浦 尚美 氏</p>	<p>施設内で起こり得る性的な問題に対応できる力を養うために、性に関する専門知識を学ぶ。</p>
11月16日(木) 9:00～12:00	<p>事例検討研修 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：新任～2・3年目の職員 参加：17名 講師：あさくさばしファミリーカウンセリングルーム 臨床心理士 野口 洋一 氏</p>	<p>利用者の「悩み」や「不適応」についての本質を見定めるために、正しい「見立て」を身につける。</p>

(5) 広報委員会

委員： 神田 祐一
 ○大堀 茂美 大越 亜紀子 小堀 和子 河野 雄太 坂庭 弘行
 茂木 貴之 工藤 かおる 柿木 崇 飯島 一憲 池田 康子
 岡部 光良 森田 学

同援だよりの発行 ニューフェイス号(195号) 2023年 6月 1日
 盛夏号(196号) 2023年 7月20日
 秋季号(197号) 2023年 11月4日
 新春号(198号) 2024年 1月 5日

実施日	内容	場所等
1 4月17日	・年間計画について(各号のテーマ等) ・ニューフェイス号について	原町高齢者複合施設 地域交流室
2 6月20日	・盛夏号校正	オンライン
3 8月21日	・盛夏号振り返り ・秋季号について ・今後の広報活動に関する職員向けアンケートについて	原町高齢者複合施設 地域交流室
4 10月 2日	・秋季号校正	オンライン
5 10月31日	・秋季号振り返り ・新春号について ・アンケート結果について	原町高齢者複合施設 地域交流室
6 3月27日	・今年度の振り返りと次年度へ向けて ・ニューフェイス号について	オンライン

(6) リスクマネジメント委員会

委員： ○岡本 勝巳 神田 祐一 宮崎 明美 川畑 亮介
 野田 泉子 堀川 裕子 堂園 昌美 池田 清彦 薄井 正和
 山田 卓磨 山中 誠一 本間 仁 山脇 啓子

施設運営におけるリスクマネジメントについて検討し改善しました。

第1回 2023年4月25日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

・2023年度重点項目確認について
 ・DXインフラ基盤進捗状況(基幹サーバの更改について)／電子申請について
 ・新型コロナウイルス感染症・災害対策BCPIについて

第2回 2023年5月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

・DXインフラ基盤進捗状況(大容量データの保存先「Dropbox」について)

第3回 2023年6月28日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況(ロードマップとスケジュールについて)
- ・自動車事故低減支援サービス「ささえるNAVI」について
- ・ファイルサーバについて
- ・新型コロナウイルス感染状況について

第4回 2023年7月26日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況(セキュリティ強化について)
- ・サイバー攻撃について
- ・新型コロナウイルス感染状況について
- ・保育グループのマスク着用について

第5回 2023年9月21日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況(基幹サーバの更改に伴うPCの入替について)
- ・パソコンの入替について
- ・新型コロナウイルス感染状況について

第6回 2023年10月25日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況(WindowsアップデートとWSUSの運用について)
- ・電子申請と文章のデジタル化について
- ・自動車安全講習について

第7回 2023年11月22日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況
- ・障害グループのBCP作成サポートの活用について

第8回 2023年12月20日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況(ファイルサーバの入替について)
- ・就業管理ソフトについて

第9回 2024年1月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況(基幹サーバ更改後の対応について)
- ・個人情報保護法について

第10回 2024年2月26日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況(データ移行に伴うファイルサーバの停止について)
- ・次年度へ向けて

第11回 2024年3月27日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・DXインフラ基盤進捗状況(次年度の課題とデジタル推進部門の新設について)
- ・メールアドレスの割り当て変更等の取り扱いについて

VII 業務の適正を確保するための体制及びその運用状況の概要

本会は、2017年6月12日開催の理事会において、理事の職務執行が法令・定款に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、法令に基づき「内部管理体制の基本方針」を決定しており、その内容は次のとおりです。

1. 経営に関する管理体制
2. リスク管理に対する体制
3. コンプライアンスに関する管理体制
4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

基本方針に準拠するために、2017年10月25日開催の理事会において以下の規程を決定し整備しました。

1. 定款細則
2. 倫理規程
3. 情報公開規程

Ⅷ 事業報告の附属明細書

2023年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する事業報告の附属明細書は作成していません。